福岡市博多区

# 国史跡
# 板付遺跡
## 環境整備報告書

福岡市埋蔵文化財調査報告書第314集

1992

福岡市教育委員会

国史跡

# 板付遺跡環境整備報告書

福岡市埋蔵文化財調査報告書　第314集

## 正誤表

| ページ | 行 | 誤 | 正 |
|---|---|---|---|
| 目・PL.6 | 18 | PL.6 1 環境整備事業完成写真(東から) | PL.6 環境整備事業完成写真 ガイダンス施設 園路広場 |
| | | 2 復原・外濠、水田跡完成写真(西から) | 環境整備事業完成写真 水田、外濠復原 |
| | | | ガイダンス施設内部 大型映像スクリーン、模型 |
| | | | 弦状凍土層段面 |
| | | | ガイダンス施設 大型模型近景 |
| 4 | 15 | 宮小路課長補佐 | 宮小路賀宏課長補佐 |
| 20 | 17 | 板付遺跡および博多平野の | 板付遺跡および福岡平野の |

（表紙題字：杉山悦子氏）

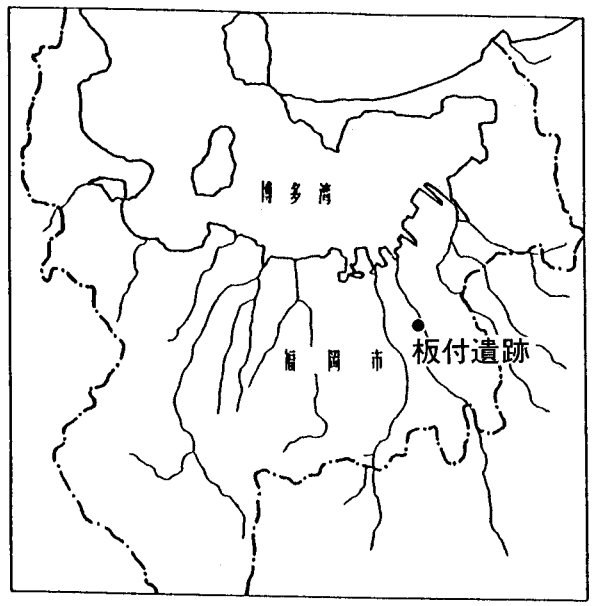
福岡市博多区

# 国　史　跡

# 板付遺跡

## 環境整備報告書

福岡市埋蔵文化財調査報告書第314集




1992

福岡市教育委員会

巻頭写真　　板付遺跡航空写真
　　板付遺跡史跡整備完成想定図

# 序

福岡市博多区板付に所在する国史跡「板付遺跡」は昭和26年の発掘調査から今年度で40年目を迎えました。日本で最初に弥生文化が形成され農耕社会のあり方を考える上で、また、日本歴史の進展を考える上で非常に重要な遺跡です。

この重要な環濠集落である板付遺跡が、昭和51年6月21日に国史跡として指定されました。

平成3年までの調査では、日本最古の水田跡や足跡、二重の濠、内濠の出入口（陸橋）の発見などいろいろな新事実の発見が相次ぎました。

昭和63年度から環境整備に取りかかるため調査整備指導委員を設置し、平成元年度には文化庁新規事業であります「史跡等活用特別事業」（ふるさと歴史の広場事業）に採択され、本格的に環境整備に着手し、一部竣工することが出来ました。

史跡整備はユニバーシアード大会が開催される平成7年度までには完了させたいと考えております。

この報告書は、文化庁、福岡県教育委員会のご指導のもとに、ふるさと歴史の広場事業として実施した環境整備報告書です。

本書が地域の皆様ならびに市民の各位の文化財保護のご理解を深められる上で広く活用されるとともに、学術研究の分野においても貢献出来れば幸いです。

用地取得に快く承諾してくださった地元住民の方々をはじめとして、発掘調査から整備にいたるまで、ご協力いただいた多くの方々に、心から謝意を表するものです。

平成4年1月13日

福岡市教育委員会

教育長　井口雄哉

# 例　言

1．本書は福岡市博多区板付に所在する国指定史跡『板付遺跡』の環境整備報告書である。環境整備事業は、平成元年度に国庫補助事業の史跡等活用特別事業（ふるさと歴史の広場）に採択され平成元年度より平成３年度までの３ヶ年事業で、文化庁、福岡県文化課、奈良国立文化財研究所の指導・助言をもとに整備を行った板付遺跡環境整備報告書である。

2．事業は国庫補助事業で、福岡市教育委員会文化財部文化財整備課（機構改革により平成３年度に文化部文化課が文化財部文化財整備課に組織、名称変更）が実施した。

3．本書は板付遺跡環境整備基本計画、基本設計、実施設計をもとに一部変更し作成した。

4．写真撮影は現場写真を二宮忠司が行ない、写真現像、焼付けは牛尾美保子、日名子節子が大庭友子の指導のもと、これに当たった。

5．本書の執筆は、板付遺跡環境整備基本計画・基本設計・実施設計（歴史環境計画研究所作成）をもとに一部二宮が加筆した。

6．本書の編集は二宮が行なった。

7．本報告書に関する記録類は整理後、福市教埋文センターに収蔵・保管される。

# 本文目次

第Ⅰ章　はじめに ……1

1．環境整備に至る経過 ……1

2．環境整備の組織と構成 ……3

第Ⅱ章　基本計画 ……11

1．計画の概要 ……12

2．基本方針の検討 ……21

第Ⅲ章　基本設計・実施設計 ……56

第Ⅳ章　ガイダンス施設と展示設計 ……72

# 挿図目次


第 1図　板付遺跡位置図（縮尺1/200,000）……Ⅷ
第 2図　板付遺跡と周辺の遺跡（縮尺1/8,000）……2
第 3図　遺跡整備計画の手順……13
第 4図　板付遺跡周辺図及び史跡指定範囲図……15
第 5図　これまでの発掘調査地点……16
第 6図　板付遺跡縄文晩期の推定図……18
第 7図　板付遺跡弥生時代前期の推定図……19
第 8図　板付遺跡完成予想図……22
第 9図　板付遺跡遺構配置図……23
第 10図　板付遺跡 E－7b 地点板付Ⅰ式期水田址実測図……25
第 11図　内環濠推定復原概念図及び断面透視図……27
第 12図　竪穴式住居址（SC－01）と住居復原図……30
第 13図　板付遺跡竪穴遺構実測図……31
第 14図　板付遺跡内環濠北側検出小児甕棺実測図……33
第 15図　板付遺跡内環濠調査遺構配置図（縮尺約1/130）……34
第 16図　内環濠断面図……35
第 17図　弦状濠断面図……36
第 18図　内環濠及び土塁復原図……38
第 19図　内環濠及び土塁復原断面図……39
第 20図　板付遺跡状況平面図（縮尺約1/1,000）……56
第 21図　板付遺跡基本設計図－1（縮尺約1/1,000）……57
第 22図　板付遺跡基本設計図－2（縮尺約1/1,000）……58
第 23図　板付遺跡基本設計図－3（縮尺約1/1,000）……59
第 24図　板付遺跡基本設計図－4（縮尺約1/1,000）……60
第 25図　板付遺跡基本設計図－5（縮尺約1/1,000）……61
第 26図　板付遺跡基本設計図－6（縮尺約1/1,000）……62
第 27図　板付遺跡基本設計図－7（縮尺約1/1,000）……63
第 28図　板付遺跡実施設計図－1（縮尺約1/1,000）……68

第 29図　板付遺跡実施設計図－２（縮尺約1/1,000）……69
第 30図　板付遺跡実施設計図－３（縮尺約1/1,000）……70
第 31図　板付遺跡実施設計図－４（縮尺約1/1,000）……70
第 32図　板付遺跡ガイダンス施設建設位置図……71
第 33図　板付遺跡ガイダンス施設実施設計図－１……72
第 34図　板付遺跡ガイダンス施設実施設計図－２……73
第 35図　板付遺跡ガイダンス施設実施設計図－３……74
第 36図　板付遺跡ガイダンス施設実施設計図－４……75
第 37図　板付遺跡ガイダンス施設内展示基本設計図－１……76
第 38図　板付遺跡ガイダンス施設内展示基本設計図－２……77
第 39図　板付遺跡ガイダンス施設内展示基本設計図－３……78
第 40図　板付遺跡ガイダンス施設内展示基本設計図－４……79
第 41図　板付遺跡ガイダンス施設内展示実施設計図（平成３年度）……80
第 42図　板付遺跡ガイダンス施設内大型模型仕様書……82
第 43図　板付遺跡ガイダンス施設内大型模型鳥観図……83
第 44図　板付遺跡ガイダンス施設内展示実施設計図……84
第 45図　板付遺跡ガイダンス施設内展示実施設計透視図……85
第 46図　板付遺跡ガイダンス施設内展示実施設計図（平成元年度）……86
第 47図　板付遺跡ガイダンス施設内大型模型詳細図……87
第 48図　板付遺跡ガイダンス施設内映像・照明詳細図……88
第 49図　板付遺跡ガイダンス施設内映像詳細図……89
第 50図　板付遺跡ガイダンス施設内展示パネル詳細図－１……90
第 51図　板付遺跡ガイダンス施設内展示パネル詳細図－２……91
第 52図　板付遺跡ガイダンス施設内展示パネル詳細図－３……92
第 53図　板付遺跡ガイダンス施設内展示パネル詳細図－４……93
第 54図　板付遺跡ガイダンス施設内展示パネル詳細図－５……94

# 表　目　次

Tab. 1　板付遺跡発掘調査一覧 …… 8
Tab. 2　植栽樹種の構成 ……40
Tab. 3　板付遺跡展示要素一覧 ……46
Tab. 4　展示方針一覧 ……53
Tab. 5　工事種目一覧 ……55

# 図版目次


巻頭写真　板付遺跡航空写真

板付遺跡史跡整備完成想定図

PL. 1　1　遺跡全景空中写真（西から、昭和50年頃）

　　2　遺跡全景空中写真（南から、平成元年確認調査）

PL. 2　1　内環濠確認調査（西から、平成元年確認調査）

　　2　内環濠確認調査近景（北から、平成元年確認調査）

PL. 3　1　遺跡全景空中写真（西から、平成元年確認調査）

　　2　内環濠確認調査（北から、昭和63年確認調査）

PL. 4　1　ガイダンス施設建設場所（北から）

　　2　ガイダンス施設完成（北から）

　　3　環境整備園路広場工・植栽・張芝工事等前（南から、平成２年度）

　　4　環境整備園路広場工・植栽・張芝工事等完成（南から、平成２年度）

PL. 5　1　ガイダンス施設（南から）

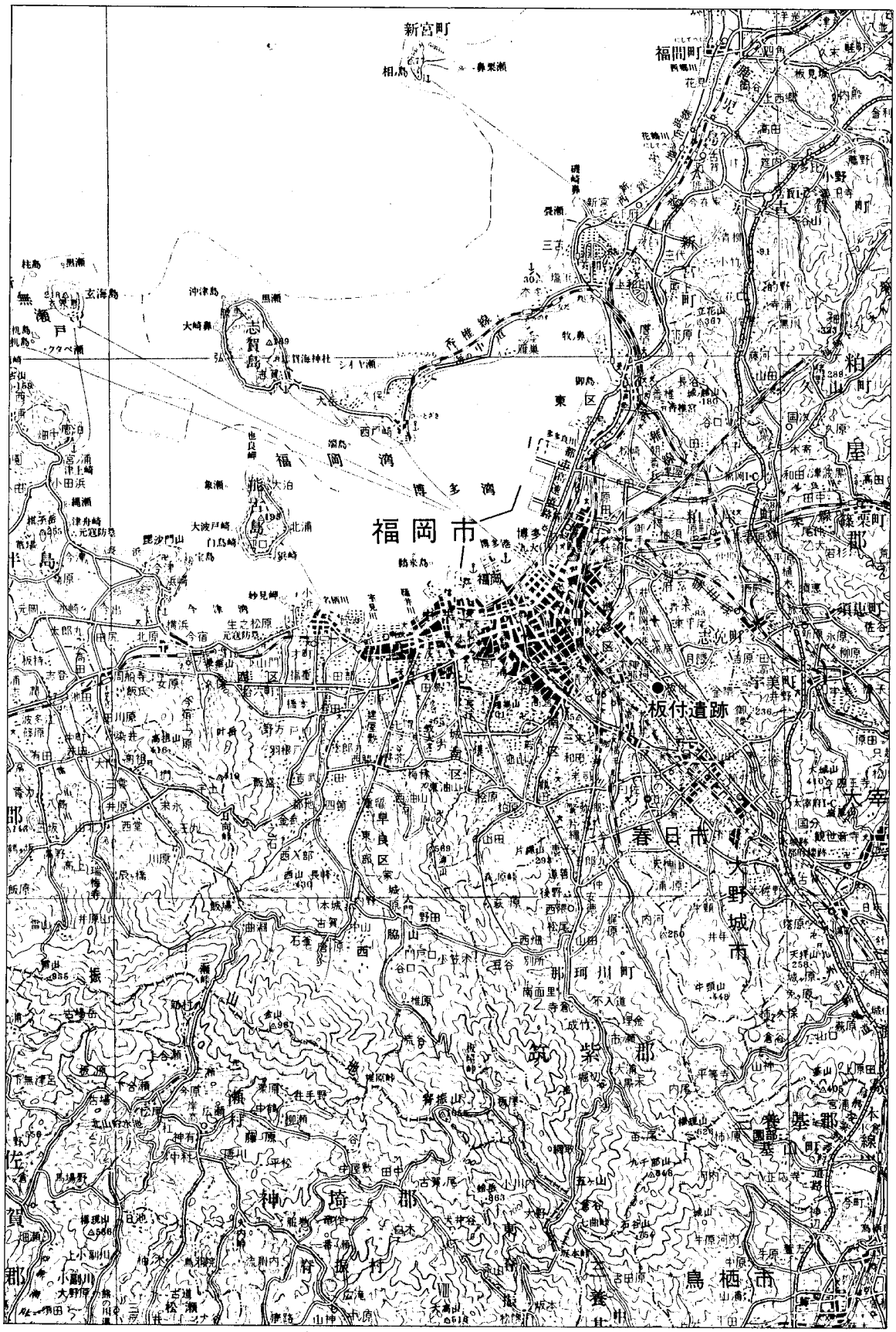
　　2　環境整備園路広場工・植栽・張芝工事等完成（東から、平成２年度）

　　3　ガイダンス施設内大型模型完成写真

　　4　ガイダンス施設内内装工事及び模型完成写真

PL. 6　1　環境整備事業完成写真（東から）

　　2　復原・外濠、水田跡完成写真（西から）




**第1図**　板付遺跡位置図（縮尺1/200,000）

# 第Ⅰ章　はじめに

## 1．環境整備に至る経過

早くからアジアの玄関口として開けた福岡市には、歴史的に有名な遺跡が多い。特に板付遺跡は、日本における稲作の発祥の地として、また二重環濠の弥生時代最古の集落である。

稲作の受容は、農業生産経済に基づくその後の日本の歴史の進展を考える上で記念すべき重要な遺跡である。

遺跡の発見は、1867（慶応３）年、中央台地の通津寺境内より銅矛５本が出土したことにはじまり、大正６年、中山平次郎博士の田端墳丘墓の銅剣、銅戈の発見、戦後、中原志外顕氏によって板付遺跡で縄文土器と弥生土器の共伴事実の確認とそれを受けた森貞次郎、杉原荘介、岡崎敬氏らの日本考古学協会の本格的な調査が昭和26年に開始をした。以来周辺地区を含め数多くの調査が行なわれている（Tab. 1)。昭和48年から開始された板付団地建設工事に伴う事前調査で、遺跡の広がりを確認し、昭和51年６月21日に国の史跡に指定された。

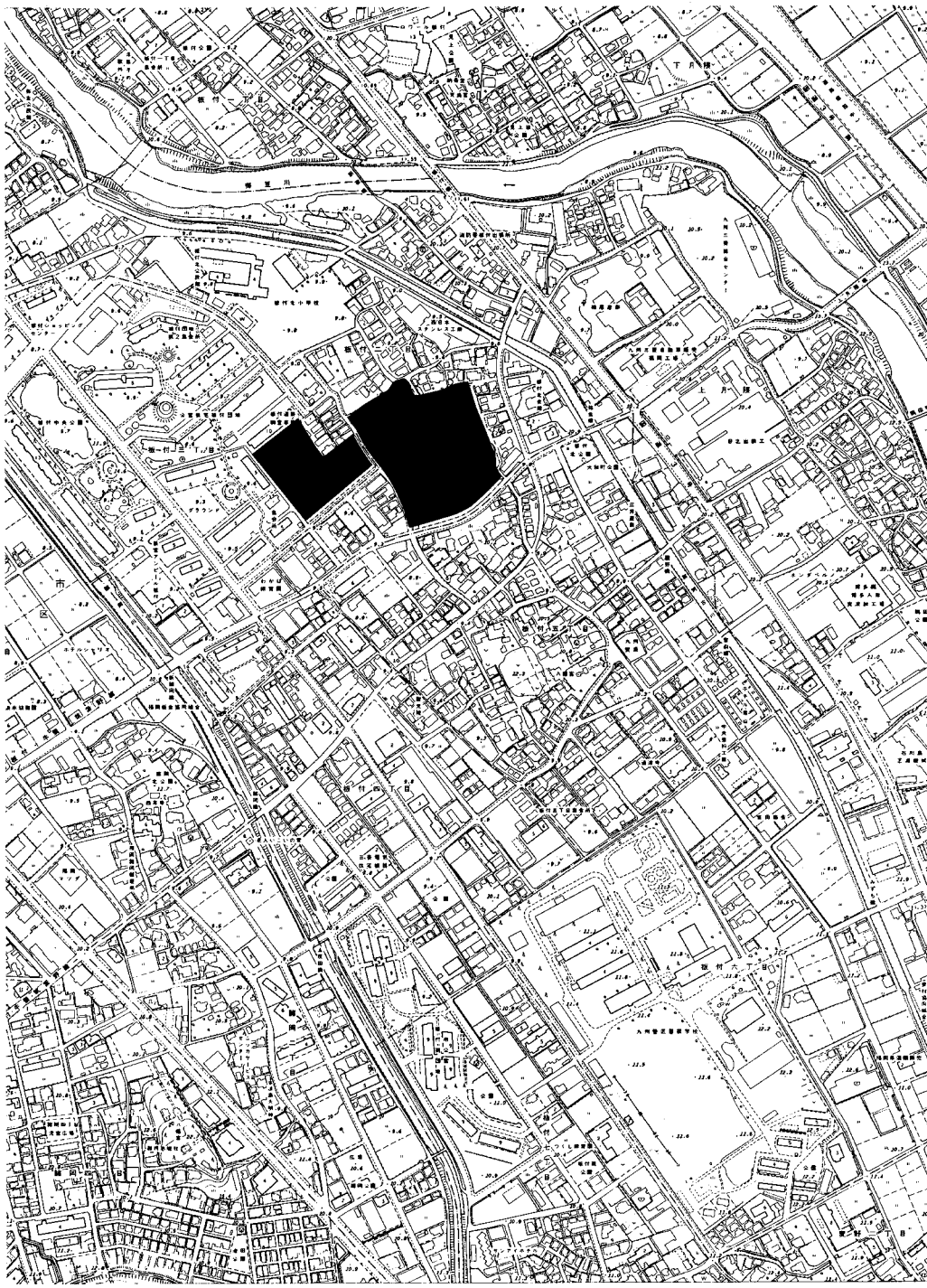
1978年、福岡市教育委員会によっておこなわれた緊急調査で、中央台地に接した両側の地点（Ｇ－７ａ、７ｂ調査地区）で板付Ⅰ式と縄文時代晩期終末の夜臼式土器の共伴時期の水田址が確認され、さらに下層において晩期の水田址が確認された。また東側沖積地（Ｅ－５ｃ、５ｂ調査区）でも板付Ⅰ式と夜臼式土器の共伴期の水田が確認されている。以上のように板付遺跡は縄文時代から弥生時代への変遷期を解明する最古の農村の一つである。

板付遺跡の保存、整備を図るため、昭和48年度から史跡指定地内の土地、建物の所有者及び借家人と用地取得と、家屋等の移動補償交渉を行ない昭和61年度に完了した。この14年間に52戸の家屋と通津寺の移転ならびに27,656㎡の用地取得を行ない、これに要した事業費は1,992,030千円である。長期にわたる立退き移転終了後、地元から遺跡の早期整備が強く要望されていた。

昭和63年、福岡市は、板付遺跡調査整備委員会を発足させ、板付遺跡の整備事業に着手した。

同委員会は、11月に６名の専門の先生方と文化庁主任調査官、福岡県文化課を交えて「整備はいかにあるべきか」の審議を検討した。平成元年度に文化庁の特別事業である史跡等活用特別事業（ふるさと歴史の広場）が開設され、同年６月板付遺跡が採択され、本格的な整備事業へ着手することとなった。

平成元年度は、基本計画作成とガイダンス施設建設を行い、確認調査の内環濠内の調査を行なった。この年に日本最古の二重環濠であることが判明した。



**第2図**　板付遺跡と周辺の遺跡（縮尺1/8,000）

平成２年度はガイダンス施設内装工事、史跡広場Ⅱ、大型遺跡復原模型等を行なう。確認調査では内環濠に陸橋部分を確認した。

平成３年度は内環濠部分の実施設計、ガイダンス施設、展示と水田址等の復原を行ない、３年度末に仮オープンの予定である。

平成４年～６年にかけて内濠の復原を手がけ、平成７年に福岡市で開催される世界の学生の祭典であるユニバーシアード大会にオープンの予定である。

## ２．環境整備の組織と構成

福岡市教育委員会は板付遺跡調査整備委員会を昭和63年10月に設置することを定め、坪井清足先生をはじめとして６名の先生方に指導を委託した。

第１回調査整備委員会を昭和63年11月11・12日の両日に開催した。

調査整備委員

坪井清足（考古学）大阪府埋蔵文化財協会理事長

横山浩一（考古学）九州大学教授

大塚初重（考古学）明治大学教授

佐原　真（考古学）奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター研究指導部長

宮本長二郎（建築学）　〃　建造物研究室長

牛川喜幸（造園学）　〃　藤原宮跡調査部長

文化庁

安原啓示　記念物課主任文化財調査官

河原純之　記念物課主任文化財調査官

福岡県文化課

葉石　勲　教育委員会文化課課長

宮小路賀宏　〃　補佐

磯村幸男　〃　技術主査

福岡市教育委員会

佐藤善郎（教育長）　川崎賢次（文化部長）

於保清登（文化課長）　柳田純孝（埋文課長）

折尾学、岩下拓二、山崎純男、緒方裕之、吉武学

議　題

1）正副委員長の選任について、委員長　横山浩一先生　副委員長　大塚初重先生

2）板付遺跡の整備計画について

3年間かけて調査、研究を続け、65年度をめどに基本計画を策定する。63年度の調査計画について検討。

平成元年度調査整備委員会

第1回委員会　平成元年5月11日、12日

委　員

横山浩一委員長（考古学）九州大学名誉教授

大塚初重副委員長（考古学）明治大学教授

佐原　真委員（考古学）奈良国立文化財研究所

牛川喜幸委員（造園学）　　〃

宮本長二郎委員（建築史）　　〃

福岡県文化課

宮小路課長補佐、浜田信也係長、磯村幸男技術主査

福岡市教育委員会

佐藤善郎教育長、川崎賢治文化部長、於保清登文化課長、柳田純孝埋蔵文化財課長、折尾学鴻臚館担当副主幹、岩下拓二管理係長、山崎純男鴻臚館担当主査、二宮忠司史跡整備担当主査、濱石哲也技術史員

会議　内容

(1)　昭和63年度の調査概要

昭和26年以降のこれまでの調査の結果、弥生時代前期の集落地として、二重環濠をもつことが確認された。

(2)　国の補助事業である史跡等活用特別事業（ふるさと歴史の広場）を申請中であることを報告。

(3)　昭和63年度調査の結果報告と板付遺跡の現地視察

(4)　平成元年度調査計画について

63年度の確認調査をひきつづき行ない、遺構の確認を行うこと。

平成元年6月15日付で史跡等活用特別事業（ふるさと歴史の広場）に採択される。このことを受けて平成元年度第2回整備委員会を開催する

第2回調査整備委員会　平成元年9月7日、8日開催

史跡等活用特別事業（ふるさと歴史の広場）に採択されたことで、平成元年度から保存整備

事業を実施するにあたり、調査整備委員会の充実を図るため、より学問的な意見を広くもとめることから委員の先生方の増員を図り委員会設置要綱を改定する。

委　員

横山浩一委員長、大塚初重副委員長、坪井清足委員、佐原真委員、牛川喜幸委員、宮本長二郎委員の先生方の他、山内豊聡委員（水工土木）九州産業大学教授、杉本正美委員（造園学）九州芸工科大学、西谷正委員（考古学）九州大学教授、小田富士雄委員（考古学）福岡大学教授、下條信行委員（考古学）愛媛大学教授

福岡県教育委員会

六本木聖久課長、宮小路賀宏課長補佐、磯村幸男主査

福岡市教育委員会

尾花剛教育次長、川崎賢治文化部長、於保清登文化課長、柳田純孝埋蔵文化財課長、

岩下拓二係長、山崎純男文化部主査、二宮忠司主査、濱石哲也、緒方裕之

議　題

(1)　平成元年度調査概要について

南北110m、東西80mの楕円形を呈する内濠は、断面がV字形をなし、幅1～4m、深さ1～2.2m以上である。ほぼ1～2m程度の削平を受けており、内濠自体大規模であったと想定される。新しい発見として、南西部で一部環濠が切れ、幅4mの陸橋が検出された。

弥生時代後期初頭の住居址内より埋納された小銅鐸を検出した。

(2)　国の補助事業、史跡等活用特別事業（ふるさと歴史の広場）に採択されたため全体基本計画・設計を早急に策定する。

(1)　板付遺跡環濠整備全体の基本計画を策定する。

(2)　ガイダンス施設の建設

ガイダンス施設は、遺跡の全容等を模型、映像等を使用して見学者にわかりやすく解説し、遺跡を理解してもらうための施設。

平成元年度　第3回　調査整備委員会開催　平成2年2月21日、22日

委　員

横山浩一委員長、坪井清足委員、山内豊聡委員、小田富士雄委員、佐原真委員、牛川喜幸委員、西谷正委員、下條信行委員

文化庁

田中哲雄記念物課主任調査官

福岡県教育委員会

六本木聖久課長、宮小路賀宏課長補佐、浜田信也係長、磯村幸男技術主査

福岡市教育委員会

佐藤善郎教育長、川崎賢治文化部長、於保清登文化課長、柳田純孝埋蔵文化財課長、折尾学文化部副主幹、後藤直埋蔵文化財センター所長、岩下拓二係長、山崎純男文化部主査、二宮忠司主査、緒方裕之、谷口哲也

基本計画・設計コンサルタント㈱歴史環境設計計画研究所（秋山邦雄、小山久美子）

議　題

(1)　板付遺跡環境整備基本計画（案）について

基本計画案についての検討と、基本計画・設計を定めた。

(2)　平成２年度整備事業について

ガイダンス施設内装、空調管工事、遺跡復原模型作成工事、史跡広場工事

平成２年度

文化庁記念物課、安原哲示主任調査官、田中哲雄主任調査官、加藤允彦調査官との協議で展示計画書の作成を求められる。

平成元年10月３日

地元説明会を開催、各町内会長および世話人の方々に史跡整備への着手と、調査報告を行ない、地元の協力を得る。

平成元年10月29日、内濠内の確認調査を終了するため現地説明会を開催、約1000人の見学者があった。

平成２年３月３日

第２回地元説明会を開催、基本計画・設計等を説明、地元の協力を要請。

平成２年度　調査整備委員会開催　平成３年３月22日

横山浩一委員長、大塚初重副委員長、山内豊聡委員、小田富士雄委員、佐原真委員、牛川喜幸委員、西谷正委員長、下條信行委員

福岡県教育委員会文化課

六本木聖久文化課長、石松好雄課長補佐、浜田信也係長、磯村幸男技術主査

福岡市教育委員会

井口雄哉教育長、川崎賢治文化部長、山田隆光文化課長、柳田純孝埋蔵文化課長、後藤直埋蔵文化財センター所長、折尾学文化部副主幹、岩下拓二係長、二宮忠司史跡整備担当、山崎純男文化部担当主査

歴史環境計画研究所　秋山邦雄、小山久美子

議　題

(1)　平成２年度確認調査概要について

縄文時代晩期の円形住居址を検出。外濠と水田址を確認したことを報告。

(2) 平成3年度事業について

ガイダンス施設内装工事、電気工事、管工事等、復原大型模型作成、敷地整備について

(3) 平成3年度事業計画について

環境整備、Bゾーン、水田址等の復原、園路広場修景施設工、ガイダンス施設展示工事、Aゾーン（内環濠分）実施設計

平成3年度調査整備委員会開催　平成3年7月9日、10日

委　員

横山浩一委員長、大塚初重副委員長、坪井清足委員、山内豊聡委員、佐原真委員、牛川喜幸委員、西谷正委員、小田富士雄委員、下條信行委員、杉本正美委員

平成3年度4月より機構改革により文化財部となり、文化課が文化財整備課となる。

文化庁

田中哲雄主任調査官

福岡県教育委員会文化課

石松好雄課長補佐、浜田信也係長、磯村幸男技術主査

福岡市

河野清一教育次長、花田免一文化財部長、後藤直文化財整備課長、折尾学埋蔵文化財課長、柳田純孝埋蔵文化財センター所長、後藤晴一係長、山崎純男主査（鴻臚館担当）力武卓治主査（史跡整備担当）瀧本正志、寺本博文、栗原智子

審　議

(1) 平成3年度の事業

(2) 平成4年度の事業

水田復原、展示内容、安全対策、環境についての検討を行ない実施設計に対する意見を得る。

| 年度 | 昭和63 | 平成元 | 2年 | 3年 | 小計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 主な整備内容 | 遺構確認調査<br>史跡調査整備委員会 | 遺構確認調査<br>史跡調査整備委員会<br>基本・ガイダンス施設実施設計<br>ガイダンス施設建設 | 遺構確認調査<br>史跡調査整備委員会<br>遺跡模型製作<br>ガイダンス施設整備工事<br>敷地造成工事 | 遺構確認調査<br>史跡調査整備委員会<br>ガイダンス展示設備<br>敷地造成工<br>水田復原<br>植栽工<br>Aゾーン実施設計 | 「ふるさと歴史の広場」事業終了Bゾーン終了 |
| 事業費 | 7,900<br>国<br>県<br>7,900 | 109,764<br>国 46,350<br>県 23,175<br>40,239 | 98,668<br>国 45,000<br>県 22,500<br>31,168 | 152,560<br>国 50,000<br>県 25,000<br>77,560 | 368,892<br>国 141,350<br>県 70,675<br>156,867 |

発　掘　調　査　一　覧　表

| 番号 | 地区地点 | 調査原因 | 調査種類 | 調査地所在地 | 調査面積 (㎡) | 調査期間 | 調査担当者 | 調査番号 | 報告書 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | | 学術調査 | | 博多区板付2丁目 | 880 | 51. 52. 53 | (日本考古学協会) | 5101 | 1002 |
| 2 | | 学術調査 | | 博多区板付2丁目 | 120 | | (杉原荘介) | 6804 | |
| 3 | | 範囲確認 | 補助事業 | 博多区板付2丁目12-16 | 160 | 690725～690812 | 下條信行 | 6907 | 008 |
| 4 | | 学術調査 | | 博多区板付2丁目 | 10 | 690800～690800 | (杉原荘介) | 6910 | |
| 5 | | 範囲確認 | | 博多区板付2丁目 | 80 | 701016～761022 | (県) | 7011 | |
| 6 | | 共住建設 | 公共事業 | 博多区板付2丁目3丁目 | 7,266 | 710816～740410 | 後藤、飛高、沢、横山、山口 | 7102 | 035 |
| 7 | H－8 | 専住建設 | 補助事業 | 博多区板付4丁目2-1 | 48 | 730700～730700 | 後藤直、山口譲治 | 7309 | 029 |
| 8 | D－6・7 | 専住建設 | 補助事業 | 博多区板付5丁目15-5 | 32 | 730900～730900 | 後藤直、山口譲治 | 7310 | 029 |
| 9 | 第2団地 | 公住建設 | 公共事業 | 博多区板付4丁目 | 68 | 730700～730800 | 後藤直、沢皇臣 | 7311 | 029 |
| 10 | F－9a | 専住建設 | 補助事業 | 博多区板付5丁目7－93外 | 150 | 740520～740620 | 後藤、沢、横山、山口 | 7408 | 031 |
| 11 | D・E－9 | 専住建設 | 補助事業 | 博多区板付5丁目10-5 | 100 | 740601～740629 | 後藤、沢、横山、山口 | 7409 | 031 |
| 12 | | 学術調査 | | 博多区板付2丁目 | 120 | | (杉原荘介) | 7417 | |
| 13 | F－8a | 専住建設 | 補助事業 | 博多区板付5丁目7-124 | 30 | 750423～750523 | 沢、横山、山口 | 7507 | 036 |
| 14 | G－5a | 専住建設 | 補助事業 | 博多区板付2丁目9-6 | 600 | 750700～750900 | 沢、横山、山口 | 7508 | 036 |
| 15 | G－6a | 専住建設 | 補助事業 | 博多区板付2丁目11-13 | 90 | 760500～760600 | 沢、横山、山口 | 7606 | 038 |
| 16 | G・H－5 | 専住建設 | 補助事業 | 博多区板付2丁目9-1 | 530 | 760409～760621 | 沢、横山、山口 | 7607 | 038 |
| 17 | H－5 | 専住建設 | 補助事業 | 博多区板付2丁目10-4 | 140 | 760700～761000 | 沢、横山、山口 | 7608 | 038 |
| 18 | 505号線1次 | 道路建設 | 公共事業 | 博多区板付2丁目地内 | 1,140 | 760705～761019 | 沢、横山、山口 | 7609 | 039 |
| 19 | 505号線2次(昭和52年度) | 道路建設 | 公共事業 | 博多区板付2丁目 | | 761000～761200 | 沢、横山、山口 | 7619 | 048 |
| 20 | F－5a | 専住建設 | 補助事業 | 博多区板付2丁目12-15 | 80 | 770500～770600 | 山崎、沢、横山、山口 | 7713 | 049 |
| 21 | F－7a | 専住建設 | 補助事業 | 博多区板付5丁目3-26 | 110 | 771124～771200 | 山崎、沢、横山、山口 | 7714 | 049 |
| 22 | F－5b | 専住建設 | 補助事業 | 博多区板付2丁目12-19外 | 100 | 771100～780100 | 山崎、沢、横山、山口 | 7715 | 049 |
| 23 | F－8b | 専住建設 | 補助事業 | 博多区板付5丁目7-18外 | 110 | 771100～771200 | 山崎、沢、横山、山口 | 7716 | 049 |
| 24 | F－9a | 専住建設 | 補助事業 | 博多区板付5丁目7-89 | 6 | 771200～771200 | 山崎、沢、横山、山口 | 7717 | 049 |
| 25 | F－5c | 専住建設 | 補助事業 | 博多区板付2丁目12－10外 | 160 | 780400～780400 | 山崎、沢、横山、山口 | 7837 | 049 |
| 26 | F－7b | 専住建設 | 補助事業 | 博多区板付5丁目3－26 | 165 | 780500～780700 | 山崎、沢、山口 | 7838 | 049 |
| 27 | F－6a | 専住建設 | 補助事業 | 博多区板付5丁目3-14 | 340 | 780406～780915 | 山崎、沢、山口 | 7839 | 049 |
| 28 | F－6b | 専住建設 | 補助事業 | 博多区板付2丁目12-54外 | 340 | 780700～780700 | 山崎、沢、山口 | 7840 | 049 |
| 29 | F－6b | 専住建設 | 補助事業 | 博多区板付5丁目3-4 | 80 | 780400～780500 | 山崎、沢、山口 | 7841 | 049 |
| 30 | G－7a | 専住建設 | 補助事業 | 博多区板付5丁目2-2 | 60 | 780400～780900 | 山崎、沢、山口 | 7842 | 049 |
| 31 | G－7b | 専住建設 | 補助事業 | 博多区板付5丁目2－1 | 520 | 780500～780900 | 山崎、沢、山口 | 7843 | 049 |
| 32 | F－7c | 専住建設 | 補助事業 | 博多区板付5丁目3-26 | 230 | 780400～780400 | 山崎、沢、山口 | 7844 | 049 |
| 33 | F－7b | 専住建設 | 補助事業 | 博多区板付5丁目3-26 | 90 | 780700～780700 | 山崎、沢、山口 | 7845 | 049 |

**Tab. 1　板付遺跡発掘調査一覧**

| | 番号 | 地区地点 | 調査原因 | 調査種類 | 調査地所在地 | 調査面積 | 調査期間 | 調査担当者 | 調査番号 | 報告書 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 34 | E－5・6 | 公民館施設 | 公共事業 | 博多区板付2丁目13-13外 | (㎡) 910 | 790709～791104 | 山崎、沢、山口 | 7934 | 073 |
| | 35 | G－5 b | 専住建設 | 補助事業 | 博多区板付2丁目7-24 | 30 | 800210～800217 | 横山邦継 | 7947 | 065 |
| | 36 | E－5 b | 専住建設 | 補助事業 | 博多区板付2丁目13-14 | 450 | 810209～810410 | 柳沢一男、二宮忠司 | 8136 | 083 |
| | 37 | E－5 c | 公民館建設 | 補助事業 | 博多区板付2丁目12-46 | 50 | 810422～810502 | 柳沢一男、二宮忠司 | 8137 | 083 |
| | 38<br>39 | G－8 a | 専住建設 | 補助事業 | 博多区板付5丁目1-10 | 50 | 810526～810530 | 横山邦継 | 8139 | 083 |
| | 40 | D－7 a | 宅地造成 | 民間受託 | 博多区板付5丁目14-3 | 480 | 810805～810910 | 柳沢一男、二宮忠司 | 8140 | 083 |
| | 41 | F－7 e | 専住建設 | 補助事業 | 博多区板付5丁目3-19 | 116 | 820604～820618 | 柳沢一男、杉山富雄 | 8223 | 098 |
| | 42 | G－7 b | 専住建設 | 補助事業 | 博多区板付5丁目1-14 | 370 | 840724～840806 | 柳沢一男、杉山富雄 | 8437 | 115 |
| | 43 | F－7 f | 専住建設 | 補助事業 | 博多区板付5丁目3-17 | 255 | 840809～840917 | 柳沢一男、杉山富雄 | 8438 | 115 |
| | 44 | E－7 a | 下水埋設 | 公共事業 | 博多区板付5丁目 | 80 | 840914～840927 | 柳沢一男、杉山富雄 | 8439 | 135 |
| | 45 | F－5 b | 下水埋設 | 公共事業 | 博多区板付2丁目 | 126 | 841027～850131 | 柳沢一男、杉山富雄 | 8440 | 135 |
| | 46 | G－6 b | 下水埋設 | 公共事業 | 博多区板付2丁目 | 135 | 850708～850812 | 小畑弘己 | 8531 | 135 |
| | 47 | F－5 e | 下水埋設 | 公共事業 | 博多区板付2丁目 | 122 | 850817～851023 | 小畑弘己 | 8542 | 135 |
| | 48 | H－8・9 | 専住建設 | 補助事業 | 博多区板付5丁目2-20 | 227 | 860519～860607 | 吉留秀敏 | 8607 | 154 |
| | 49 | F－5 f | 専住建設 | 補助事業 | 博多区板付2丁目12-28外 | 56 | 860624～860729 | 山口譲治、吉留秀敏 | 8614 | 154 |
| | 50 | H－5 b<br>H－5 c<br>G－4 a<br>F－5 g<br>F－5 h | 下水埋設 | 公共事業 | 博多区板付2丁目94外 | 140 | 860728～861001 | 横山邦継 | 8628 | 171 |
| | 51 | E－8 | 寺社建設 | 補助事業 | 博多区板付5丁目7-39 | 83 | 870117～870129 | 山口譲治、吉留秀敏 | 8654 | 154 |
| | 52 | F－8 f | 専住建設 | 補助事業 | 博多区板付5丁目7-133 | 5 | 860806 | 杉山富雄 | 8661 | 154 |
| | 53 | | 共同住宅 | 民間受託 | 博多区板付4丁目4-4 | 1,119 | 870612～870715 | 山口譲治、吉留秀敏 | 8711 | |
| | 54 | F－8 b | 運動場拡張 | 公共事業 | 博多区板付2丁目 | 130 | 871107～880128 | 田中寿夫、荒巻宏行 | 8737 | 206 |
| 史跡内← | 55 | 板付遺跡 | 史跡 | 公共事業 | 博多区板付2丁目 | 9,300 | 881201～890331 | 山崎、吉武 | 8866 | |
| | 56 | 板付遺跡 | 専用住宅 | 補助事業 | 博多区板付2丁目12-9外 | 288 | 890410～890422 | 山口譲治 | 8901 | |
| 史跡内← | 57 | 板付遺跡 | 史跡 | 環境整備 | 博多区板付2丁目 | 6,500 | 890410～891031 | 山崎、二宮、浜石、管波 | 8986 | |
| | 58 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 2丁目 | 800 | 901001～910331 | 二宮 | 9050 | |
| | 59 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 5丁目 | 152 | 901001～910331 | 〃 | 9051 | |
| | 60 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 2丁目 | 100 | 901001～910331 | 〃 | 9052 | |
| | 61 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 5丁目 | 750 | 911101～910331 | 力武卓治 | 9141 | |

## 報告書一覧表

福岡市埋蔵文化財調査報告書

第 8集　板付遺跡調査報告書 …… 昭和44年度刊行

第 29集　板付周辺遺跡調査報告書(1) …… 昭和48年度刊行

第 31集　板付周辺遺跡調査報告書(2) …… 昭和49年度刊行

第 35集　板付―市営住宅建設に伴う発掘調査報告書

1971～1974― …… 昭和50年度刊行

第 36集　板付周辺遺跡調査報告書(3) …… 昭和50年度刊行

第 38集　板付周辺遺跡調査報告書(4) …… 昭和51年度刊行

第 39集　板付―県道505号線新設改良に伴う発掘調査報告書(1)　昭和51年度刊行

第 48集　板付―県道505号線新設改良に伴う発掘調査報告書(2)　昭和53年度刊行

第 49集　板付周辺遺跡調査概報―板付周辺遺跡調査報告書(5)

1977～8年度― …… 昭和53年度刊行

第 57集　板付周辺遺跡調査報告書(6) …… 昭和54年度刊行

第 65集　板付周辺遺跡調査報告書(7) …… 昭和55年度刊行

第 73集　板付―板付会館建設に伴う発掘調査報告書― …… 昭和55年度刊行

第 83集　板付周辺遺跡調査報告書(8) …… 昭和56年度刊行

第 98集　板付周辺遺跡調査報告書(9) …… 昭和57年度刊行

第115集　板付周辺遺跡調査報告書(10) …… 昭和59年度刊行

第135集　板付周辺遺跡調査報告書(11) …… 昭和60年度刊行

第154集　板付周辺遺跡調査報告書(12) …… 昭和61年度刊行

第171集　板付周辺遺跡調査報告書(13) …… 昭和61年度刊行

第206集　板付周辺遺跡調査報告書(14) …… 昭和62年度刊行

第210集　板付周辺遺跡調査報告書(15) …… 昭和63年度刊行

その他の調査報告書・文献

日本考古学協会『日本農耕文化の生成』1966　東京堂

板付遺跡保存会（1968）板付遺跡　福岡

後藤直（1972）板付水田遺跡の発掘調査

ふるさとの自然と歴史16　福岡

中山平次郎（1917a）銅矛・銅剣の新資料　考古学雑誌第７巻７号　東京

# 第Ⅱ章

# 史跡板付遺跡環境整備基本計画

## 1．計画の概要

### 1．策定にいたる経過

福岡市では、板付遺跡の保存・整備を図るため、昭和48年度から史跡指定地内の土地、建物の所有者および借家人と用地取得、家屋等の移転補償交渉を行なってきた。

移転は昭和61年度に完了したが、長期にわたる立退き移転終了後、地元からは遺跡の早期整備が強く要望されるようになった。

市教育委員会ではこれをうけ、板付遺跡の保存・整備のあり方を検討してきたが、平成元年度、文化庁の新規事業「史跡等活用特別事業」（ふるさと歴史の広場）に採択されたことから、本格的な整備事業が開始されることになった。

これに伴い、今後の整備事業の指針となるべき基本計画が必要となり、本計画が策定されることとなった。

### 2．目的および基本理念

福岡市のかけがえのない歴史的遺産である史跡板付遺跡を永く後世に伝えながら市民に公開していくため、史跡整備の要素である保存・研究・活用の調和のとれた整備を目指す。

これを踏まえ次の理念に基づき整備を検討する。

イ．史跡の情報を将来に継承していくため、遺構等の保存を充分に考慮する。

ロ．整備が単なる対処療法的な具体策にとどまらぬよう、史跡の学術的、歴史的特色を正しく把握し、それをできる限り一般にわかりやすく表現していくことに努める。

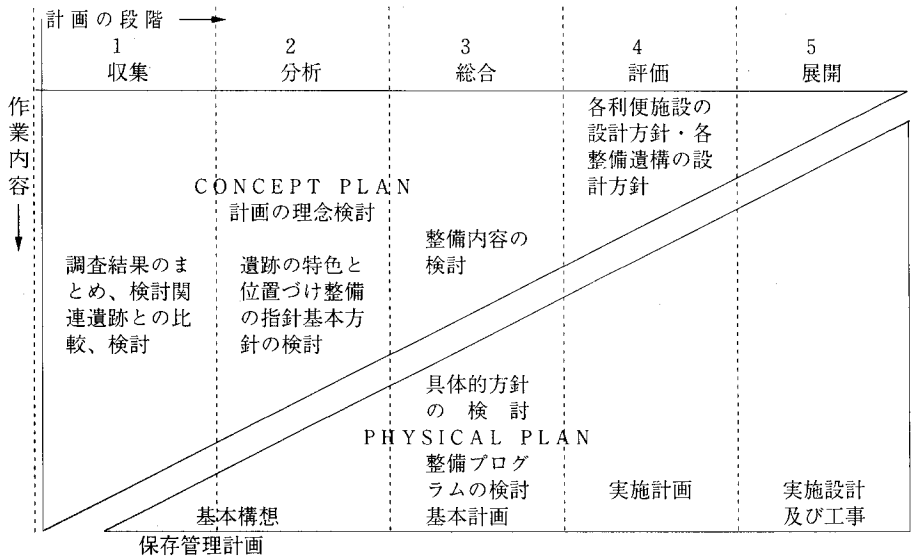
ハ．上記の条件を踏まえつつ、地域社会に親しまれ、育まれる環境の創出を目指す。

### 3．計画の位置づけ

先述した基本理念を踏まえ、検討を行なっていくためには、次のような段階をおった整備が望ましい。

一般に史跡整備は、遺構の展示方法や案内板・説明板の設置場所等、史跡のかたちを整えるPHYSICAL PLAN（P. P.）のみに終始しがちであるが、本来その基礎となり整備の基盤をなしていくのは、史跡の特色やその学術的・社会的位置づけ等の CONCEPT PLAN（C. P.）の検討である。そしてそれらを踏まえながら、それを実際にどのような「かたち」に転化させていくかの P. P. の検討を相互に関連づけながら行っていくことが望ましい。

本計画はこうした一連の段階のなかで、今後P.Pの基盤となっていくC.Pの検討と、それをうけた基本方針、および整備の具体的方針の検討を行うものである。




**第3図　遺跡整備計画の手順**

## 2）地　形

福岡県の地形は、東の大分県境の英彦山、南の熊本県境の御前岳、西の佐賀県境の背振山、中央の三郡山地等の山地と、これにより分けられる多数の小平野より成っている。

板付遺跡の位置する福岡平野は、主に高位、中位、低位の大きく3段に区分される段丘群と、平野の主要な面をつくる沖積面より成り、南から北へかけて緩やかな傾斜をみせている。

板付遺跡が立地する付近は、沖積面に中位段丘Ⅱ面が点々と独立丘陵状に分布する地形であり、板付遺跡もこうした段丘上に集落跡、墓地跡が形成されている。この中位段丘は、南北に細長い形状（東西150～200m、南北700m）であり、2ヵ所に鞍部が認められ、これにより北、中央、南に区分できる。

段丘周囲に広がる沖積面は、御笠川の氾濫源堆積物と、沖積世初めからの気候の温暖化に対応した海水面の上昇による海成層の堆積作用によって形成されたものと考えられ、福岡平野の大部分を占めている。これら沖積面は遺跡付近まで段丘を切った低地部や現河川沿いに発達し、段丘群と混在した状態を示しているが、これより北側では段丘の分布がなくなり、広く沖積面のみが広がる地形となる。

このように板付遺跡付近は、福岡平野における主要な地形的変換点にあたり、遺跡より南側は、低位、中位の段丘郡が分布し、段丘崖線が複雑な出はいりを示し、これに沿って沖積面が幅せまく入り込んで分布する。このような沖積面は、縄文末期から弥生時代にかけての小海退

期に湿地が形成され、初期水田耕作のかっこうの適地であったと推定される。

## 2．指定の概要

イ．指定年月日

昭和51（1976）年６月21日

ロ．指定面積

27,796㎡

ハ．基準

特別史跡名勝天然記念物及び史跡名勝天然記念物基準　史跡１（住居跡）による。

ニ．指定理由

板付遺跡は、福岡平野の低台地上に形成された環濠を伴う弥生時代の集落跡である。

低台地に南北約110ｍ、東西約82ｍの卵形を呈する周濠が巡らされいる。周濠内では住居跡、袋状貯蔵穴、井戸等が、周濠外の東南方の低地では水田遺構、溝等が検出され、また、出土品としては夜臼式土器、板付Ⅰ～Ⅳ式に属する壺、甕形等の土器、石鏃、石槍等の石器、土製品及び木製品が発見されている。北九州特に玄海灘に面する一帯は日本において最初に弥生文化が形成された地域として知られるが、板付遺跡はそのうちでも最も著明な遺跡であり、環濠集落が当時から作られている点からも弥生文化形成期における農耕村落の在り方を考える上で一典型を示すものである。このように板付遺跡は、弥生文化を解明していく上で欠くことのできないものであるとともに、農業生活に基づくその後の日本の歴史の進展を考える上で記念すべき重要な遺跡である。（昭和51年６月21日付け　文部省告示第125号）

ホ．公有地化

昭和61年（1986）年に指定地全域の公有地化が完了した。

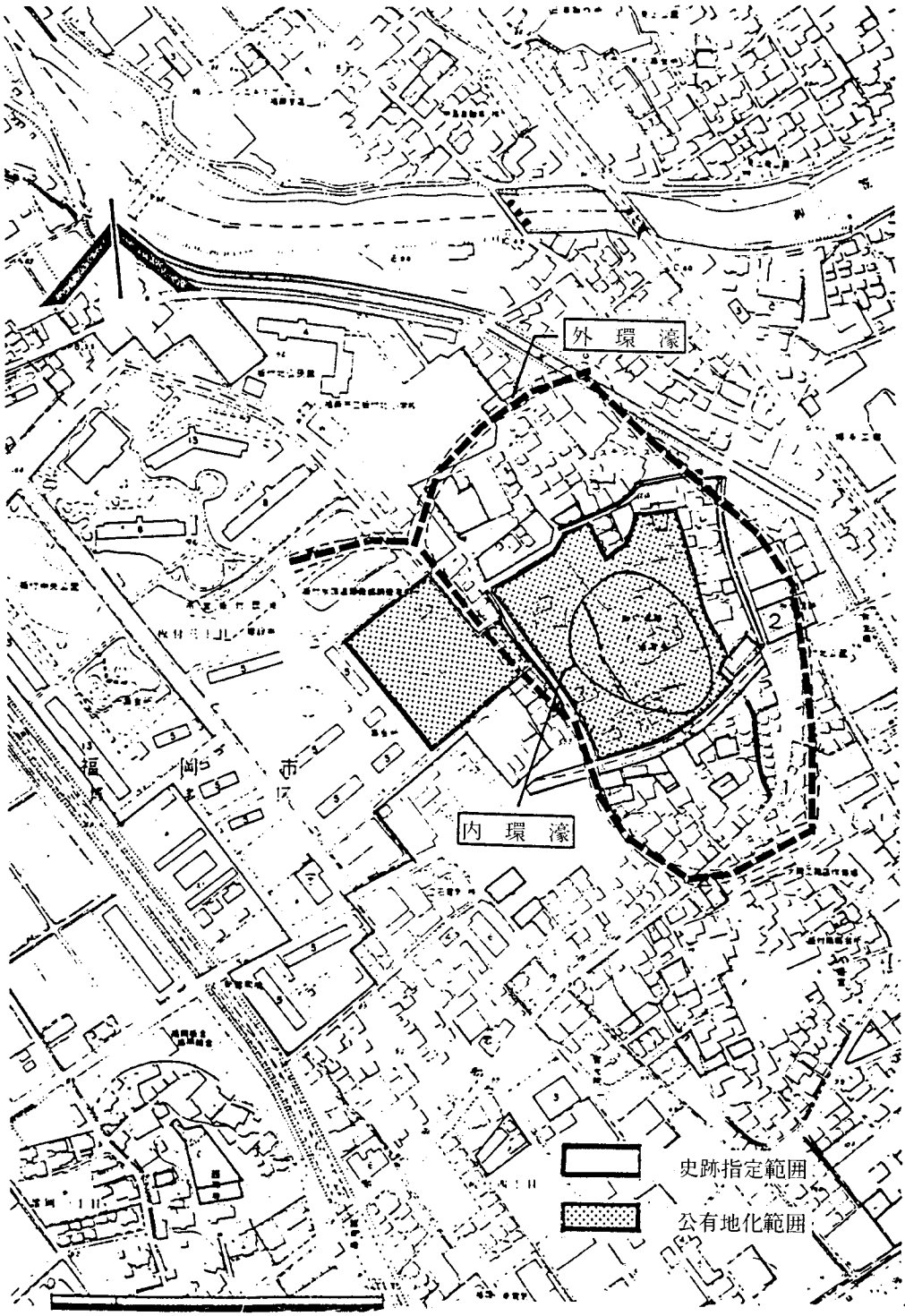
## 3．遺跡の現況

### 1）周辺の環境

附近はマンション、住宅が建ち並ぶ住居地域であり、かっての環境を偲ばせる景観は完全に失われている。

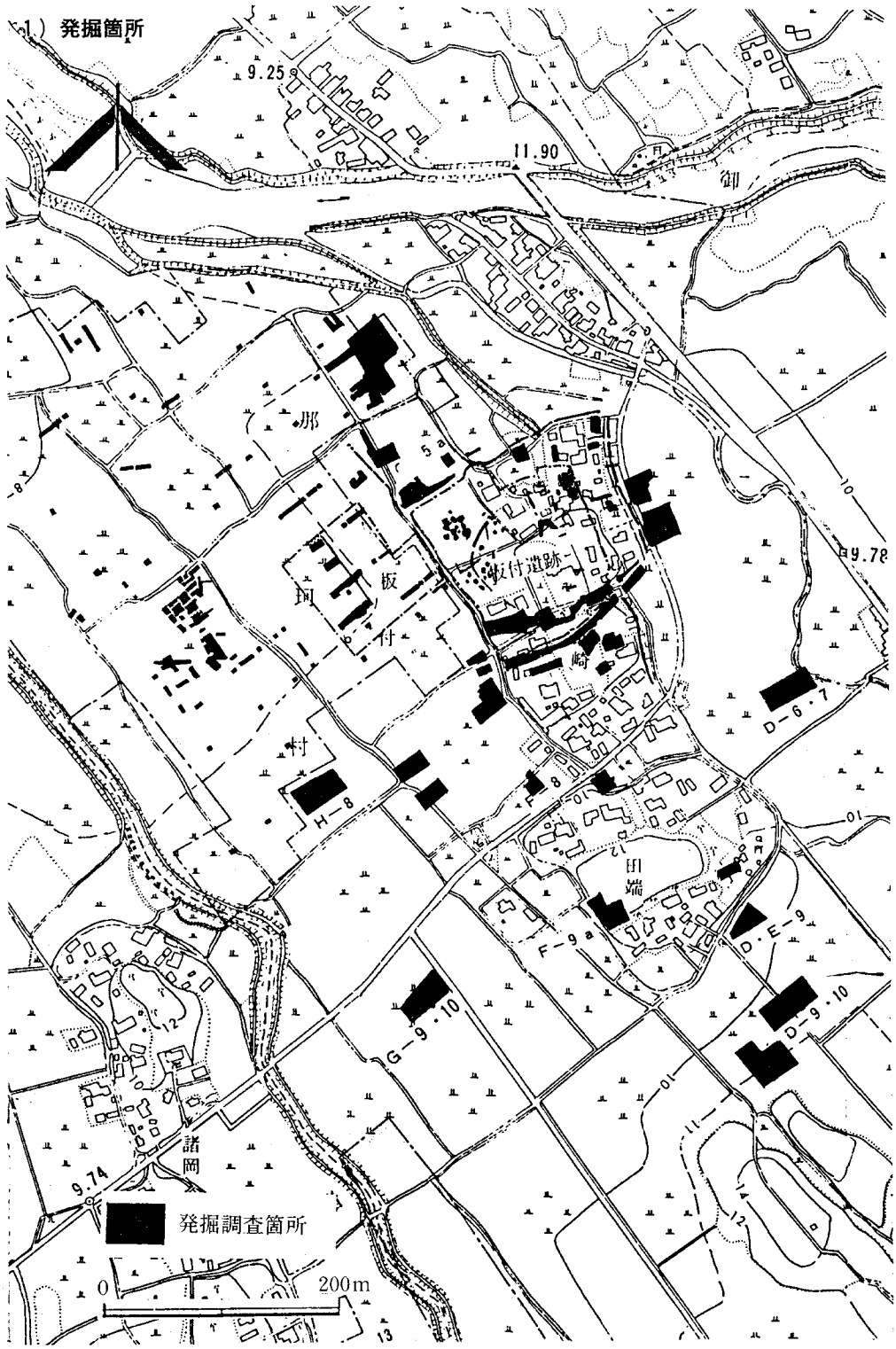
北東約２㎞には福岡県の空の玄関口である福岡空港が位置し、遺跡附近上空も航空機が多く飛行するところとなっている。

周辺には児童公園が分布するもののいずれも小面積なものにとどまるため、板付遺跡整備後は地域住民により都市公園的な利用がなされることが予想される。




**第4図**　板付遺跡周辺図及び史跡指定範囲図

## 3．これまでの発掘調査






**第5図**　これまでの発掘調査地点

## 2）調査結果のまとめ

### ①縄文時代晩期

現在までのところ明確に判断できる集落関連遺構は少ないが、出土土器や内環濠との切り合い関係から袋状竪穴４基、土壙墓１基の存在は確実である。これらの遺構の分布をみれば、中央、台地北西部には袋状竪穴が、その北側には墓地が存在していたと考えられる。

住居址については、手がかりとなる遺構は皆無であるが、台地下の廃棄土器の分布から中央台地東側を中心として住居が営まれた可能性が考えられる。

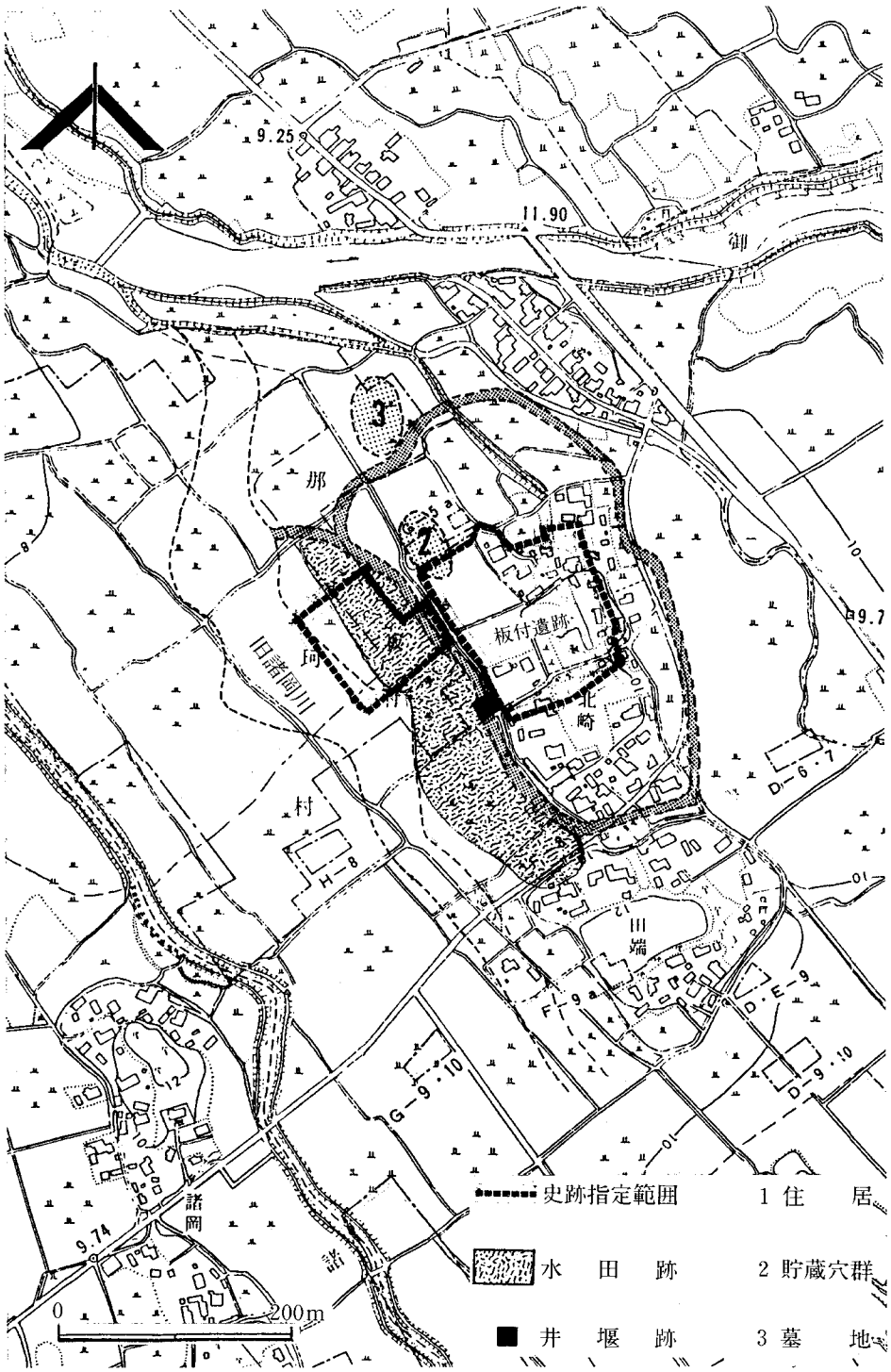
生産地である水田跡は、台地西側の沖積地のみから検出されている。集落と異なり残存状態が良好で構造的にはその細部まで明確にできる。水田跡はそれに付属する施設として水路・井堰・取排水口がある。水路は台地にそって人工的に掘削され、これが集落を画する外環濠の役割も兼ねていたと考えられる。水路中には水流を横断して杭を打ち込んだ井堰が設置されており、井堰のやや上流には水田の水口が存在し、ここに小規模の堰がつくられ水田の水量調整が可能になっている。水田は、水路にそった部分に幅１ｍのやや大きい土盛り畦畔があり、部分的に杭・矢板で補強している。水田間の畦は幅50㎝、高さ10㎝で、横木を杭で留め補強をはかっている。水田一区画は、水路にそった細長い長方形で東西幅６～10ｍ、南北長50ｍ以上である。水田の拡がりは南北は台地にそった約350ｍの範囲、西限は旧諸岡川にいたる約100ｍの間で、水田面積は約3.5万㎡と考えられる。

### ②弥生時代前期

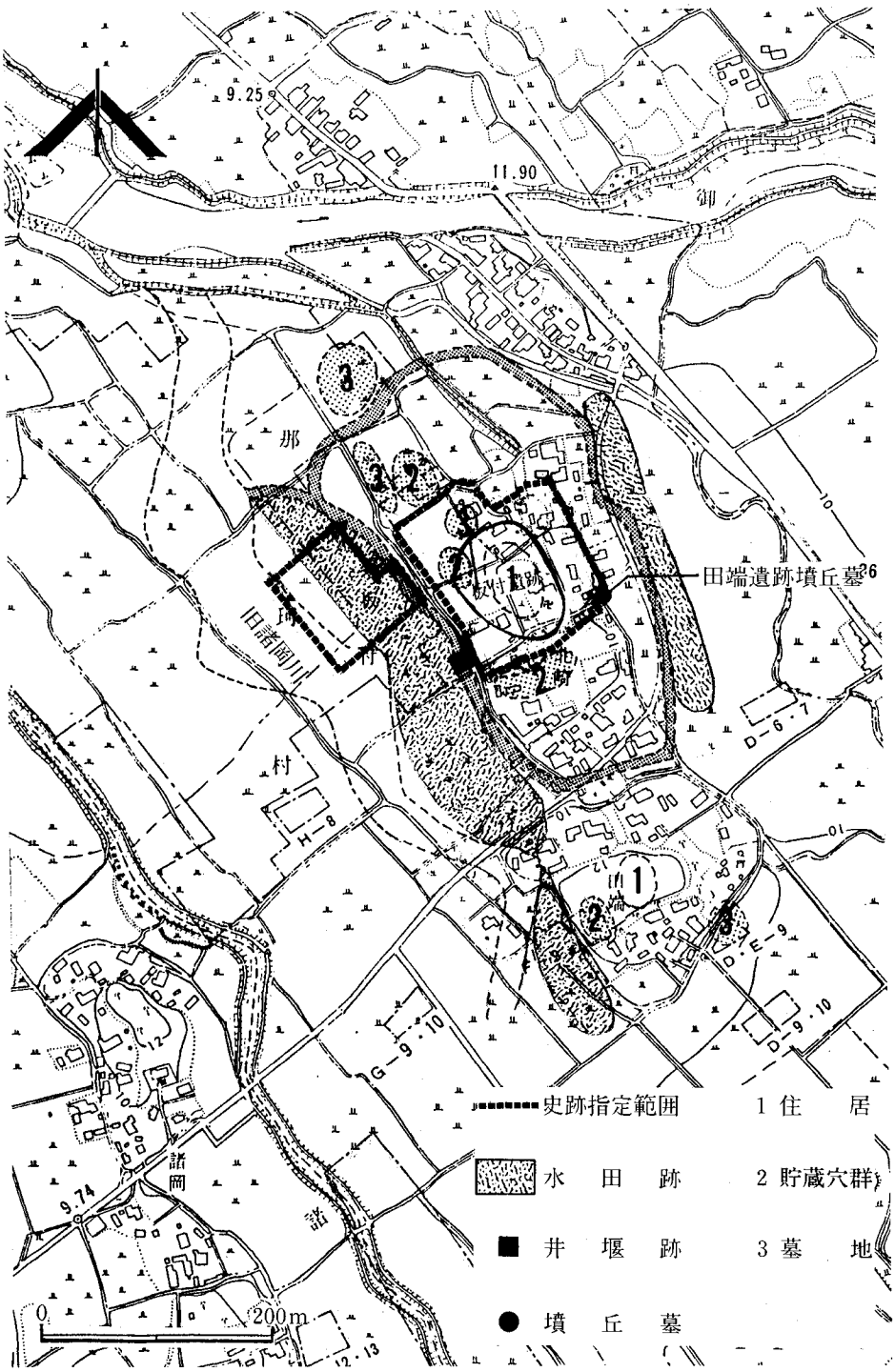
弥生時代前期になると、中央台地の頂部を囲む内環濠が出現する。内環濠は南北110ｍ、東西82ｍの大規模なもので、復原幅約６ｍ、深さは３ｍ～3.5ｍと考えられる。環濠内からは主に袋状竪穴が、内環濠の一部から枝のようにのびた弦状濠と内環濠に囲まれた範囲から集中的に検出されており、弦状濠が貯蔵穴を区画するはたらきを果していたことを推測させる。

袋状竪穴は、この他に環濠の南側でも集中的な分布をみせている。また、この時期の袋状竪穴は、環濠が存在する中央台地の他、南・北台地でも発見されており、各台地にそれぞれ分村というかたちで集落が拡大したことを思わせる。

墓地は、当初縄文時代晩期と同じく土壙墓、木棺墓が群在する形態であったが、新たに甕棺墓が出現する。甕棺墓はその大多数が副葬品をもたない集団墓的なものであるが、内環濠北側に隣接した地域から発見れた小児甕棺墓群からは管玉、小つぼ等の副葬品が出土しており、一般とは違う特殊な墓が出現してきたことを示すものとして注目される。さらに、前期末には、現史跡指定地の南東隅に接する地域に、円墳状の高まりをもつ墳丘墓的な墓が存在し、ここから発見された６基の甕棺のうち３基より細形銅剣、銅矛各３本が出土したことが報告されてお




**第6図**　板付遺跡縄文時代晩期の推定図




**第7図**　板付遺跡弥生時代前期の推定図

り、首長墓群としての位置づけが可能な墓が出現してきたことをうかがわせる。

生産地である水田は、新たに東側沖積地に拡がり、西側沖積でも水田面積に拡大がみられる。水田とそれに伴う井堰、取排水路等の施設の構造は、縄文時代晩期のものを基本的に踏襲しているが、井堰の規模は比較にならないほど大規模になりかつ整備されている。

以上のように弥生時代前期の板付遺跡は、特徴的な環濠の出現、集落および生産地の拡大、首長墓の発生など、遺跡として一つの画期をむかえたことをうかがわせる。

**③弥生時代中期**

中期には井戸が出現してくる。集落構造と密接な関係を有する井戸と、何軒か検出されている住居跡の分布から、中期には集落が台地全体に拡大したことがみてとれる。

生産地である水田も前期に比較して飛躍的に拡大した。東側沖積地では前期水田の拡張が認められ、西側沖積地では前期水田が旧諸岡川の流路によって西と限られていたのに対し、中期水田は旧諸岡川を越えた西側にも拡がり、少なくともその西限は現諸岡川近くまであったと推測される。東西は北～南台地の一部にそった範囲が想定され、その面積は推定約17万㎡に達する。

以上のように集落、水田ともに拡大しているにもかかわらず、中期には前期のような他と隔絶した墓はみられなくなる。墓はすべて甕棺墓であるが、特別な副葬品をもたず極めて共同墓地的性格が強いものである。前期末に出現した首長墓的な墓が、なぜ中期には姿を消すのか、あるいは末調査区から発見されるのか、板付遺跡および博多平野の弥生時代を考えるうえで極めて興味深い問題であり、今後の調査研究が期待される。

**④弥生時代後期**

井戸、住居跡と思われる竪穴遺跡等が検出されているが、現在までのところ集落に関する遺跡に関する遺構は断片的である。

水田はほぼ中期と同じであるが、南台地東側沖積地において溝が検出されており、拡大があったことが推定できる。

後期の板付遺跡からは、銅矛、小銅鐸、広形銅矛鋳型など青銅器に関する遺物が多く発見されており注目される。銅矛(5本)は、中央台地の中心にあった通津寺境内より出土したもので、慶応3(1867)年の通津寺過去帳にその記載がある。また、小銅鐸は内環濠北側の住居跡に切り込まれた土壙より埋納状態で出土し、九州地方で埋納した銅鐸が出土した初例として全国的な注目を集めた。現在史跡指定地となっている西側沖積地から出土した広型銅矛鋳型は、板付遺跡における青銅器生産の一端を示している。青銅遺物としては、他に西側沖積地より銅鏃および銅鏃鋳型が出土している。

以上のように後期においても、ムラが継続して営まれた跡が残る板付遺跡だが、それも後期末に絶え、一時廃絶されたことが推察される。

# 第Ⅲ章　基本方針の検討

前述までの検討から、板付遺跡の特色と現況を整理すると、以下のように考えられる。

## 1．特　　色

イ．弥生時代の集落の構造を総合的に示す遺跡である。

板付遺跡は最も集落のすがたが整っていたと考えられる前期を中心に、生活（貯蔵穴等）生産（水田跡とそれに伴う井堰等の施設）、埋葬、祭祀（小児甕棺、墳丘墓等）を比較的まとまったかたちで総合的に示すことができる遺跡である。このような遺跡は北部九州地方でも数少なく、大きな特色であると云える。

ロ．日本でも最古の二重環濠遺跡である。

板付遺跡が弥生時代の当初より、城の堀を思わせる大規模な環濠で二重に囲まれていることも重要な特色である。これは、板付遺跡が当時の北部九州地方の拠点的集落の一つであることを示すとともに、弥生時代の集落の特色やその時代的性質をも表すものと考えられる。

ハ．日本でも最古に属する稲作農耕遺跡である。

板付遺跡は日本でも最古に属する水田跡が発見された遺跡の一つである。弥生時代から始まった稲作農耕は、その後の日本文化に決定的な影響をおよぼした。板付遺跡はその起源を語る遺跡の一つとして大きな意味を有している。

ニ．福岡平野の弥生時代前期を代表する遺跡である。

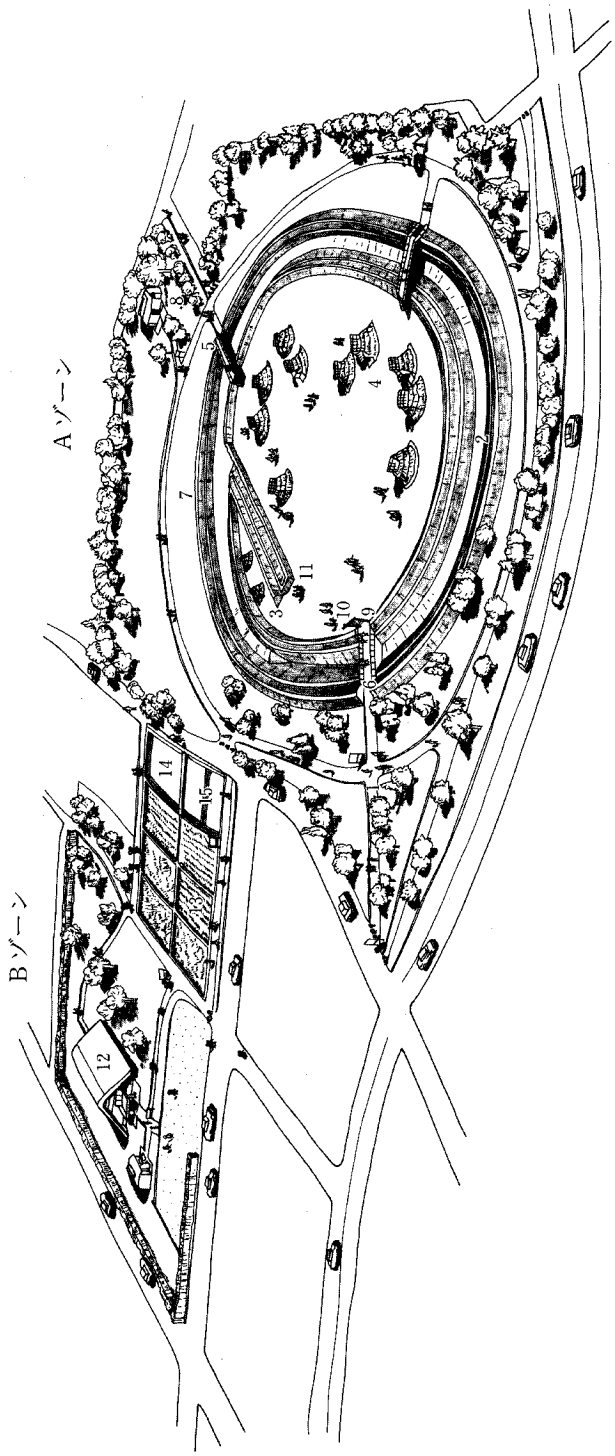
福岡市を含めた北部九州地方は、日本で最も弥生文化が華ひらいた地方の一つである。そのなかでも福岡平野は中心的な役割を果たした地域であり、奴国に相当する地域であるとされている。板付遺跡はその福岡平野の弥生時代前期を代表する遺跡であり、奴国のルーツとも位置づけられる。

## 2．整備の基本方針

前述した特色を踏まえ、整備の基本方針を次のように定めた。

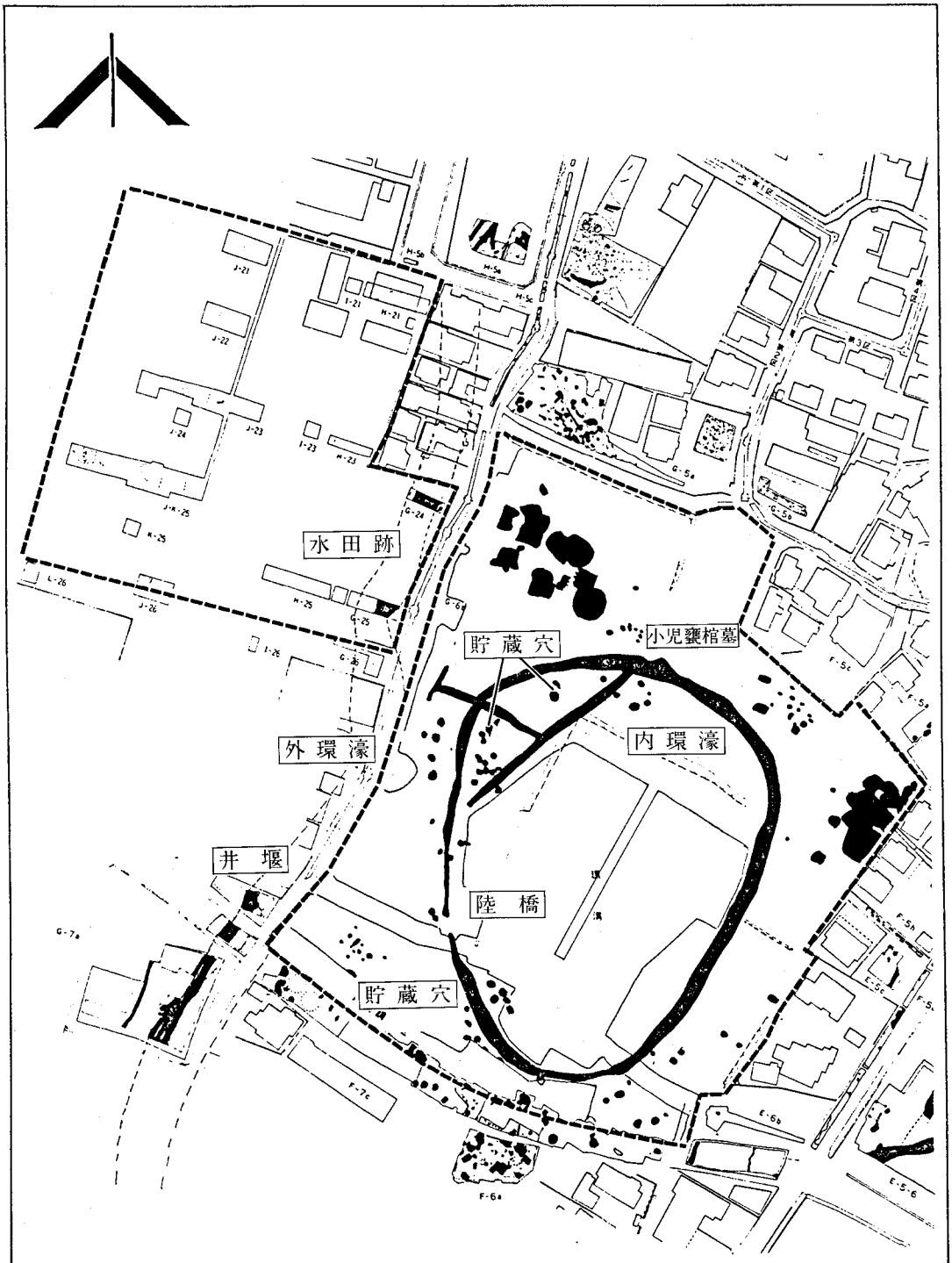
イ．板付遺跡は日本でも最古の稲作農耕遺跡であり、生活・生産・祭祀・埋葬等、集落のすがたが総合的に把握できる弥生時代北部九州地方を代表する遺跡である。

整備ではこれを踏まえ『弥生時代の前期の板付ムラの復原』を基本テーマに、遺構の保護に充分に留意しながら、各遺構の復原整備を行い、遺跡の姿を視覚的に総合的に示すことに努める。




1 道復原
2 内環濠復原
3 貯蔵穴復原
4 住居復原
5 ブリッジ
6 陸橋
7 小児甕棺墓復原
8 便所
9 鳥居
10 門
11 柵
12 ガイダンス施設
13 水田址復原
14 外濠復原
15 井堰復原

**第8図**　板付遺跡の完成予想図




**第9図**　板付遺跡遺構配置図

ロ．また、ガイダンス施設を設置し、当時の環境や板付遺跡の全体的なすがた等を模型やパネル・出土品・映像機器等を使用し展示する。

ハ．上記のような遺構整備とともに、園路、ベンチ、便所等の利便施設、防火用のポンプ室の設置、植栽等による環境整備を行い、見学者および地域住民の利便や、環境づくりを行う。

## 3．遺構整備方針

先述した基本方針から、整備が計画される遺構として具体的に次の遺構があげられる。

- 水田跡
- 外環濠
- 井堰および取排水口
- 内環濠および陸橋
- 貯蔵穴
- 住居跡
- 甕棺墓

これらの遺跡の整備方針を発掘調査結果を基に検討してみたい。

### 1）水田跡、外環濠、井堰および取排水口

①発掘調査結果

a）水田跡

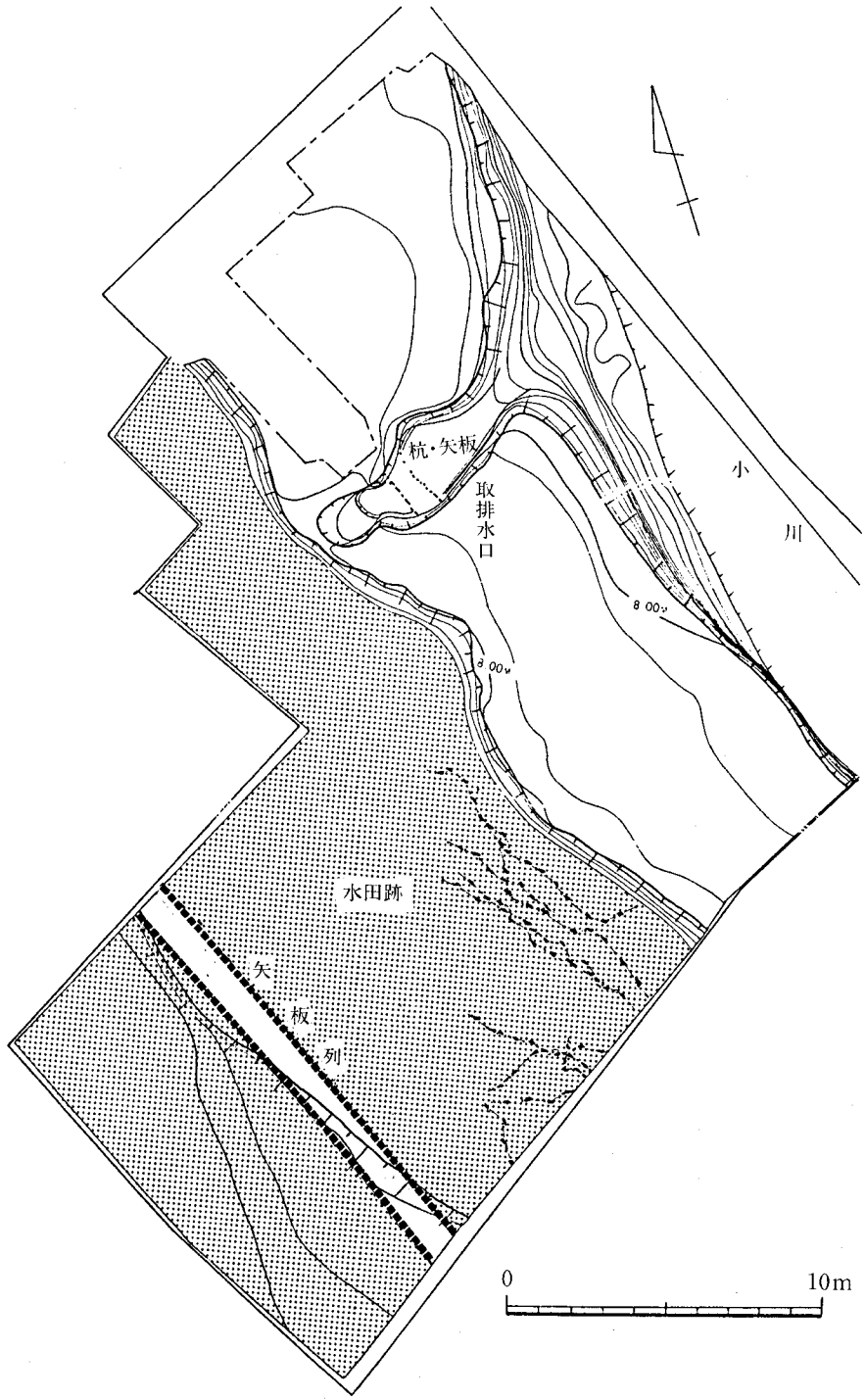
| | |
|---|---|
| 形　　態 | 南北に細長い長方形 |
| 規　　模 | 前期（旧）1区画11m×26m以上、前期（新）1区画18m×26m以上 |
| 主な出土遺物 | 土器、木器他 |

内容、その他

- 板付Ⅰ式期(前期)の水田跡は新・旧2枚確認されている。各々の規模は上記の通りである。水田跡は今回復原整備予定の指定地内よりG－7a・b地区でその形態がよく確認されている。
- その形態は、水路（外環濠）にそった細長い長方形で、水路と水田の間には幅約1m、高さ30cmのやや大きい土盛り畦畔を設け杭・矢板で補強している。水田間の畦は幅50cm、高さ10cmで、横木を杭で留め補強をはかっている。
- なお、現表土から遺構検出面までのレベルは約1.5～2mである。

b）外　環　濠

| | |
|---|---|
| 形　　態 | 断面U字形 |
| 規　　模 | 復原幅約10m、深さ3m以上 |
| 主な出土遺物 | 木器（木製農具等）土器、杭、流木群 |




**第10図**　板付遺跡Ｅ－7ｂ地点板付Ⅰ式期水田址実測図

内容・その他

- 指定地外のG－7ａ・ｂで最もよくその実態がよくつかめている。
- これまでの調査結果を総合すると、外環濠は東西に水田の用水路を兼ねて中央台地に沿って走り、南北は中央台地鞍部を切断して掘削されていることがほぼ確認できる。

ｃ）井堰・取排水口

| | |
|---|---|
| 形　　態 | 図・写真　参照 |
| 規　　模 | 図・写真　参照 |
| 主な出土遺物 | 大形壺・丹塗り木製品（祭祀用と推定される） |

内容・その他

- 井　堰

G－7ｂ調査区において確認された。川に直交して多量の杭が打ち込まれている。川底部に近い部分で基礎構築として、大きな又杭を打ち込み、又になった部分に横木を渡している。その後基礎部分を中心として多量の杭を幾重にも打ち込み井堰としている。この井堰は川の堆積に伴い補強されながら、板付Ⅱａ式土器の時期まで存続する。井堰周辺からは祭祀に供せられたと考えられる大形壺の完形品や丹塗りされた木製品が出土している。

- 取排水口

井堰に関連する遺構である。小川の両側に形成された。高まりに川と直交する長さ約９ｍ、幅１～３ｍ、深さ10～80㎝の溝が掘削されている。この溝は水田から川に向かって傾斜しており、水田と小川を結ぶ役割を果している。溝の途中には２列の杭・矢板列が存在し、ここで水田の水量調整を行っていたと想定される。

②　整備方針

ａ）水田跡

発掘調査結果を踏まえ６枚程度復原整備する。

水田の両側には見学用の園路を設け、畦畔は通常の管理用としてのみ使用する。

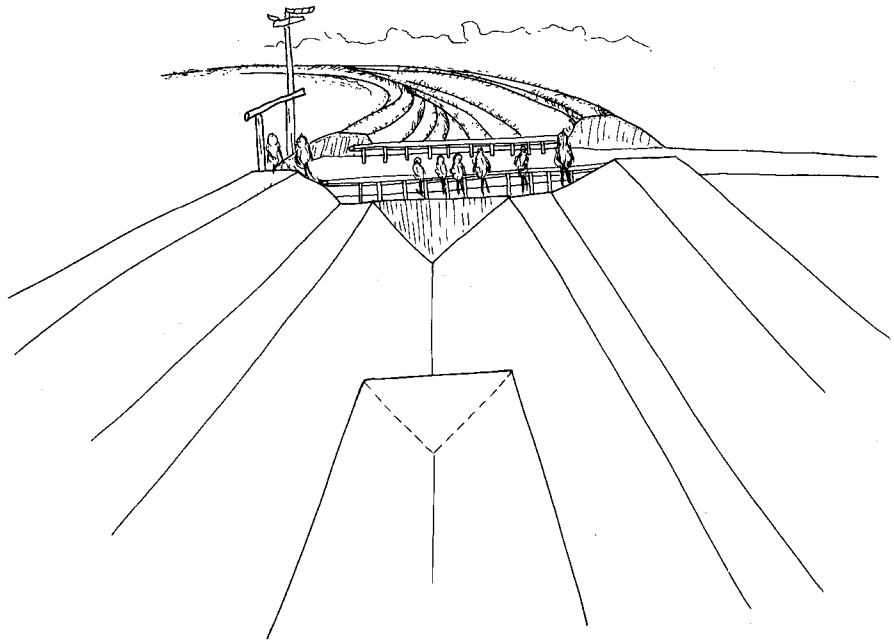
ｂ）外環濠

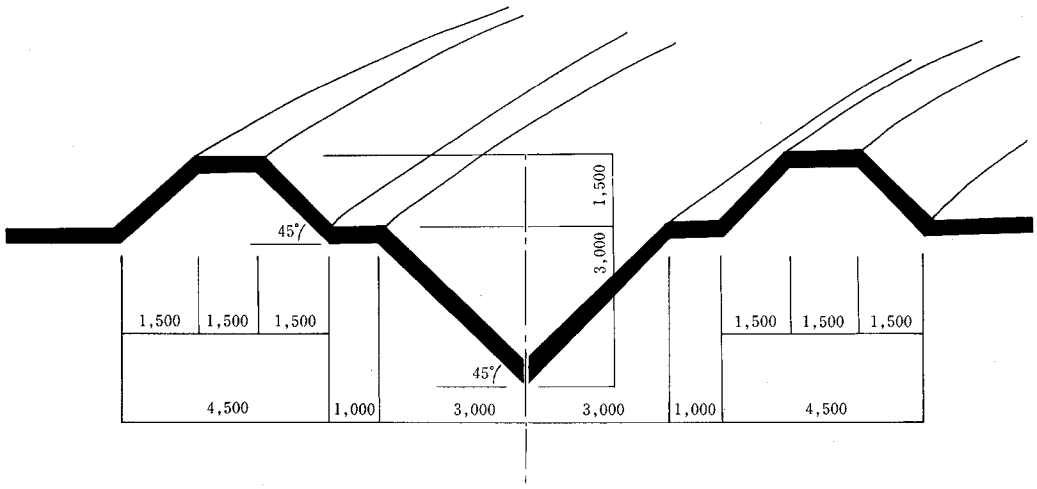
史跡指定地内……復原整備を行う。水の環流はポンプを使用して行う。水質保全の為、専用の濾過装置を設置する。

史跡指定地外……板付遺跡の特色の一つである二重環濠を示すため、可能な個所にポール等で表示を行う。

ｃ）井堰・取排水口

G－7ｂ調査区において確認されたものを発掘調査の結果に基づき、史跡指定地内外環濠内に復原する。






**第11図**　内環濠推定復原概念図及び断面透視図

## 2）内環濠および陸橋

① 発掘調査結果

| | |
|---|---|
| 形　　態 | 環濠断面Ｖ字形 |
| 規　　模 | 環濠　復原幅６ｍ前後・深さ３～3.5ｍ、陸橋　幅約４ｍ |
| 主な出土遺物 | 土器、石器等 |

内容・その他

- 埋土観察より環濠の内外には土塁をめぐらした可能性が高い。高さは１～1.5ｍと推定できる。
- 内環濠に伴う弦状濠は西側は土塁、東側は柵列であったと推定できる。

　また、内環濠の南西側には、一部掘り残された個所があり、ここが環濠の内と外を結ぶ陸橋として使用されていたと考えられる。

- 発掘調査結果の検討から、内環濠の角度は45°、弦状濠の角度は60°と考えられる。
- 環濠底には湧水点があり、湧水がかなり認められる。

② 整備方針

ａ）内　環　濠

板付遺跡の最大の特質であることを考慮し、遺構の広がり、規模が視覚的に認識できるような整備を計画する。整備法については、以下の方法が考えられる。

| | 方　　法 | 問　題　点 |
|---|---|---|
| Ａ案 | 全面的な露出展示を行う。覆屋等の施設は設けず、保存処理を施さないのり面の耐久性や様々な保存処理を行った個所との比較など、保存上の研究を行う場とする。 | 保存上、防災上、かなり問題が残ると共に、環濠の底に溜る水が汚濁することが予想され、維持、管理上も困難が予想される。 |
| Ｂ案 | 発掘調査の結果にもとずき、全面的に復原整備する。整備にあたっては、保存盛土を施し、遺構面が直接露出しないようにする。のり面60°の弦状溝は、防災上問題がない程度までのり面の角度をゆるくする。 | 遺構の本物の姿を示すことができない。また、のり面の保存方法、環濠底の湧水処理等に関しても、さらに検討が必要である。 |
| Ｃ案 | 基本的にはＢ案であるが、一部Ａ案をとり入れ、遺構の本物を示す個所を設ける。Ａ案をとり容れる個所には保存上覆屋を設けることを検討する。 | 視覚上、覆屋の個所で環濠のつながりが途切れ、遺構の広がりを有効に示せない恐れがある。 |
| Ｄ案 | Ｃ案同様、基本的にはＢ案であるが、一部Ａ案をとり容れる。Ａ案採択個所は露出展示とし、覆屋等は設けない。 | Ａ案採択個所に関し、保存上また、湧水処理上問題が残る。 |

上記４案が考えられるが、板付遺跡の場合特に湧水の処理と保存上の検討が難しく、今後専門家を含めてさらに検討、研究を進め、最終的な案を採択することとする。本計画ではとりあえず、これらの案のなかで一部問題は残るものの保存上景観上最も問題が少ないと考えられるＤ案を採択することにする。また環濠周囲の土塁については、安全対策上環濠から１ｍ内外の平坦部を設け復原することにする。

**３）住居跡**

①　発掘調査結果

| | |
|---|---|
| 形　　態 | 円形住居址 |
| 規　　模 | ６ｍの円形 |
| 主な出土遺物 | 甕、鉢、壺、石斧等 |

②　整備方針

これまでの発掘調査結果、関連遺跡の検出例などから分布および形態等を推定し、復原展示を行う。復原展示する住居址は当初４軒程度とし、その後は毎年市民参加で１軒ずつ復原していく等様々な整備方法を検討する。

また、復原方法も現在考えられている様々な方法を採り込れ、住居復原の実験的な場とすることを検討する。

**４）貯蔵穴**

①　発掘調査結果

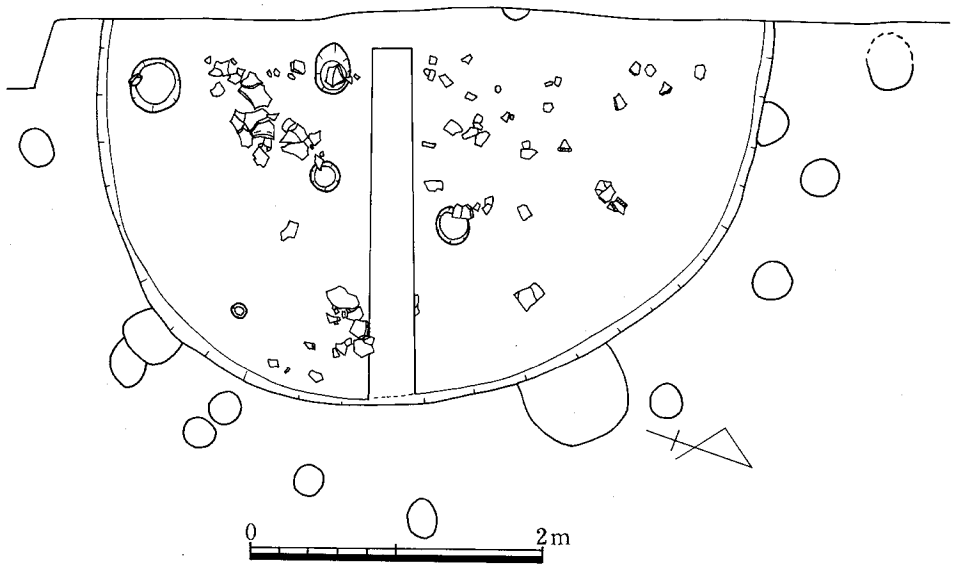
| | |
|---|---|
| 形　　態 | 平面形主に円形および楕円形、断面形袋状 |
| 規　　模 | 直径1.6ｍ～2.6ｍ、深さ２ｍ以上 |
| 主な出土遺物 | 土器、石包丁・石斧等の石器、木製農具等 |

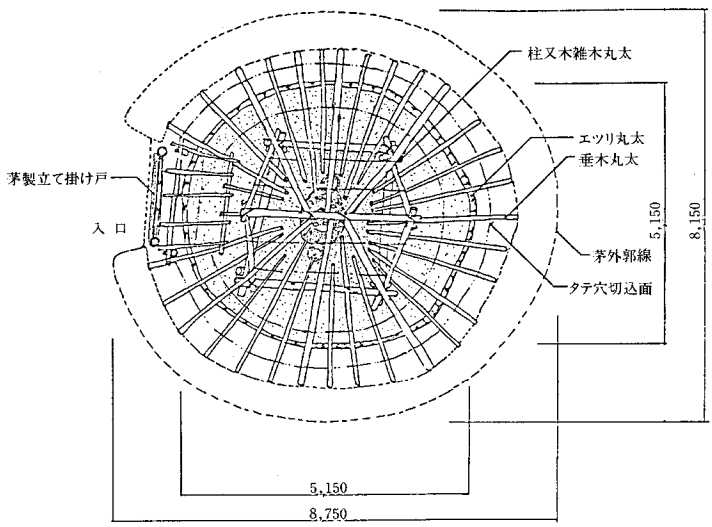
内容・その他

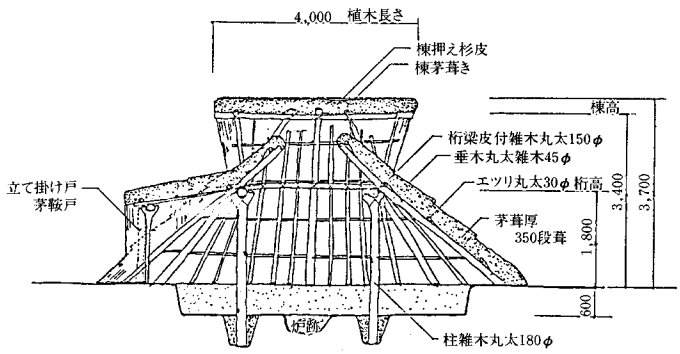
• 内環濠と弦状濠と、内環濠外南側に集中的に分布する。

②　整備方針

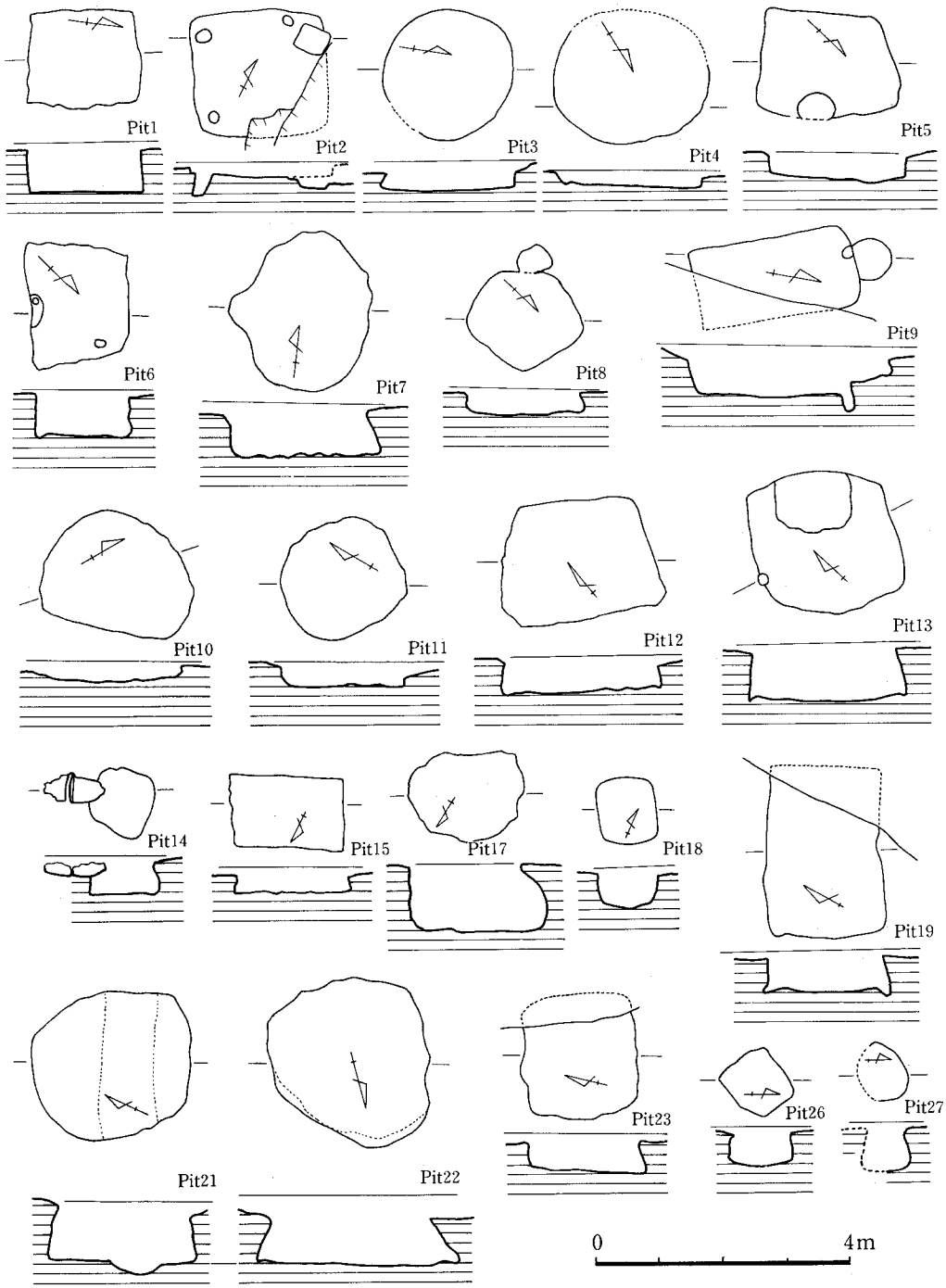
内環濠と弦状濠の間の区域に分布するもののうち、一基を選び復原整備を行う。復原を行うものには防水、安全対策等管理上の問題から覆屋および簡単な柵を設ける。同区域の他の貯蔵穴については平面表示を行う。また、内環濠外南側の貯蔵穴は現状保存とする。




**第12図**　竪穴式住居址（SC－01）と住居復原図




**第13図**　板付遺跡竪穴遺構実測図

### 5）甕棺墓

① 発掘調査結果

| | |
|---|---|
| 形　　態 | 合口、単棺　等 |
| 規　　模 | 1ｍ内外 |
| 主な出土遺物 | 管玉・小つぼ |

内容・その他

7基検出されている。いずれも小児用で、壺形土器に鉢の蓋をしている。うち4基からは管玉、小つぼ等の副葬品が出土しており、特殊な墓ではないかと推定されている。

② 整備方針

7基のうち1基はレプリカを使用した露出展示を行い、甕棺墓の形態、埋葬状態等を示すものとする。他は現状保存とし、上部のマウンドのみを復原する。

## 4．環境整備計画

### 1）ゾーニング

指定地内を台地上の環濠集落地区（Aゾーン）と、水田跡地区（Bゾーン）に分け、検討を行うこととする。Aゾーンでは都市公園的な機能が要求されることも考慮して、遺構展示の他に来訪者や地域住民が自由に楽しめる場所を設けることを検討する。

また、Bゾーンにはガイダンス施設を設置し、遺跡の内容を楽しくわかりやすく説明する場とする。

### 2）施設計画

① ガイダンス施設

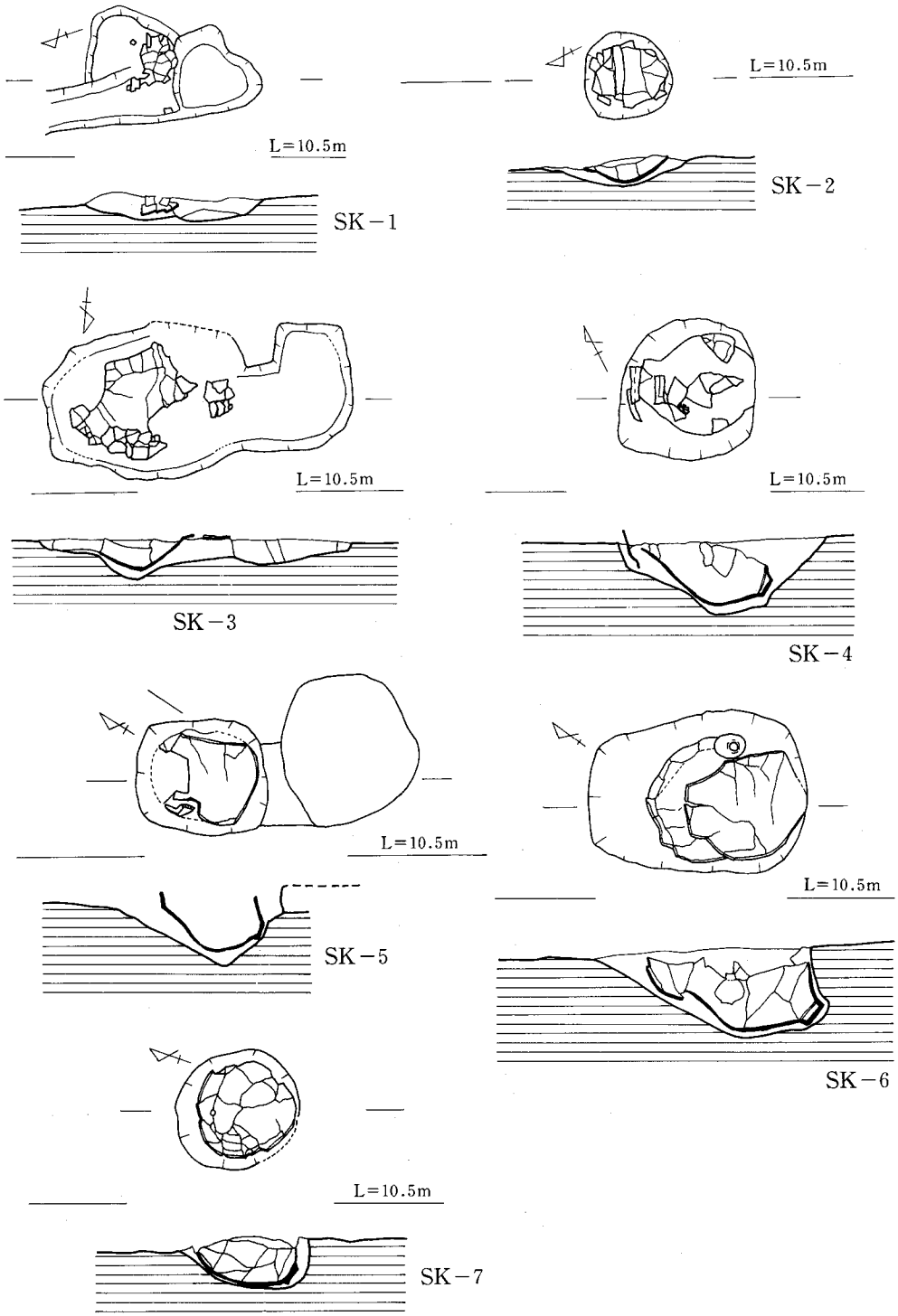
整備された弥生時代集落にふさわしいものとして構造的に簡素で初源的な形態とし、外壁、屋根等の素材も周囲の環境になじみやすいものを採用する。

内部の展示は、板付遺跡の特色を充分に踏まえながら、一般にわかりやすく楽しいものとすることを目指し、遺物、模型、写真、図面等の展示の他に、映像機器の設置も検討する。またここで遺跡の内容の他に板付遺跡の整備について、その目的や方法をやかりやすく説明することを計画する。

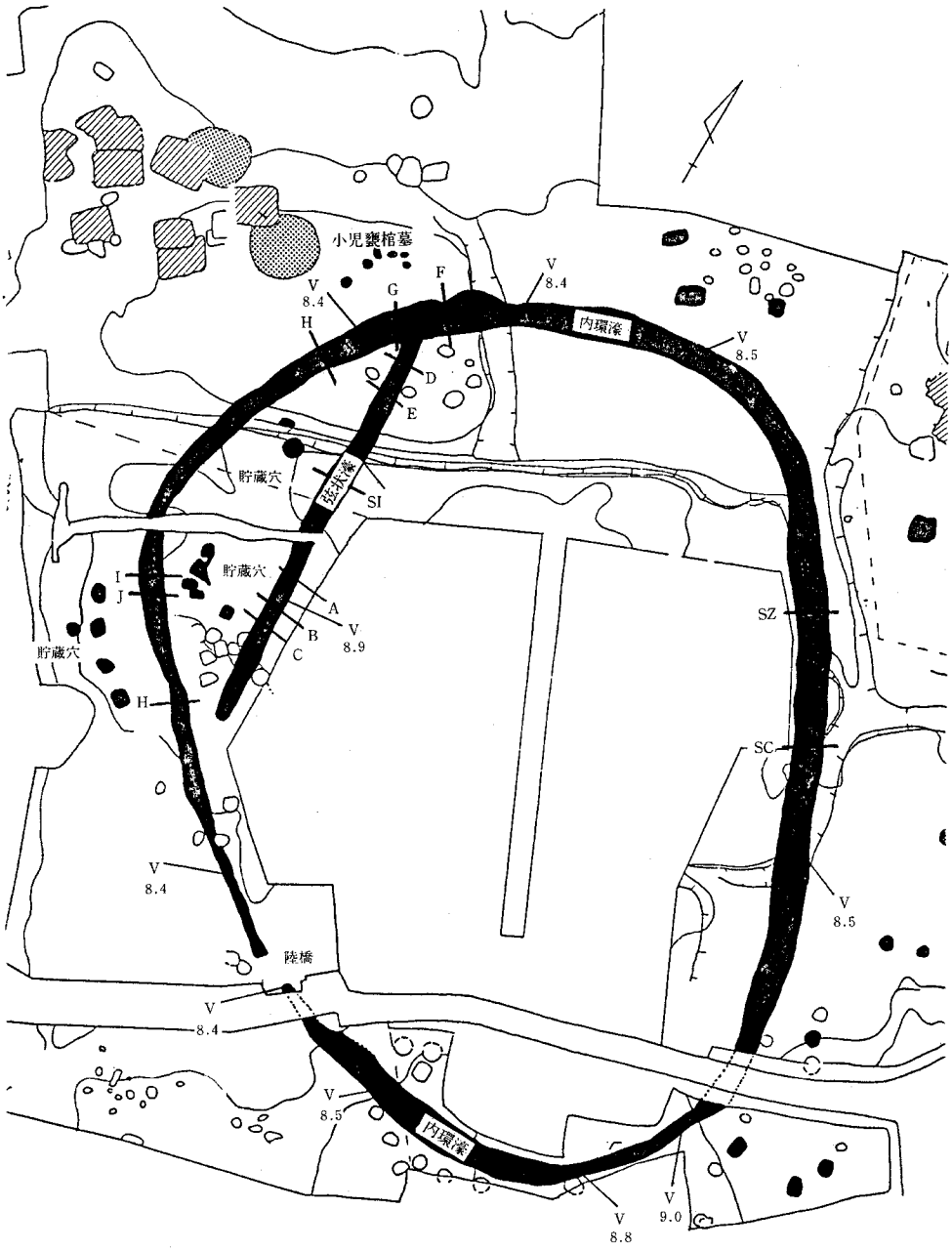
② 園　　路

Aゾーン

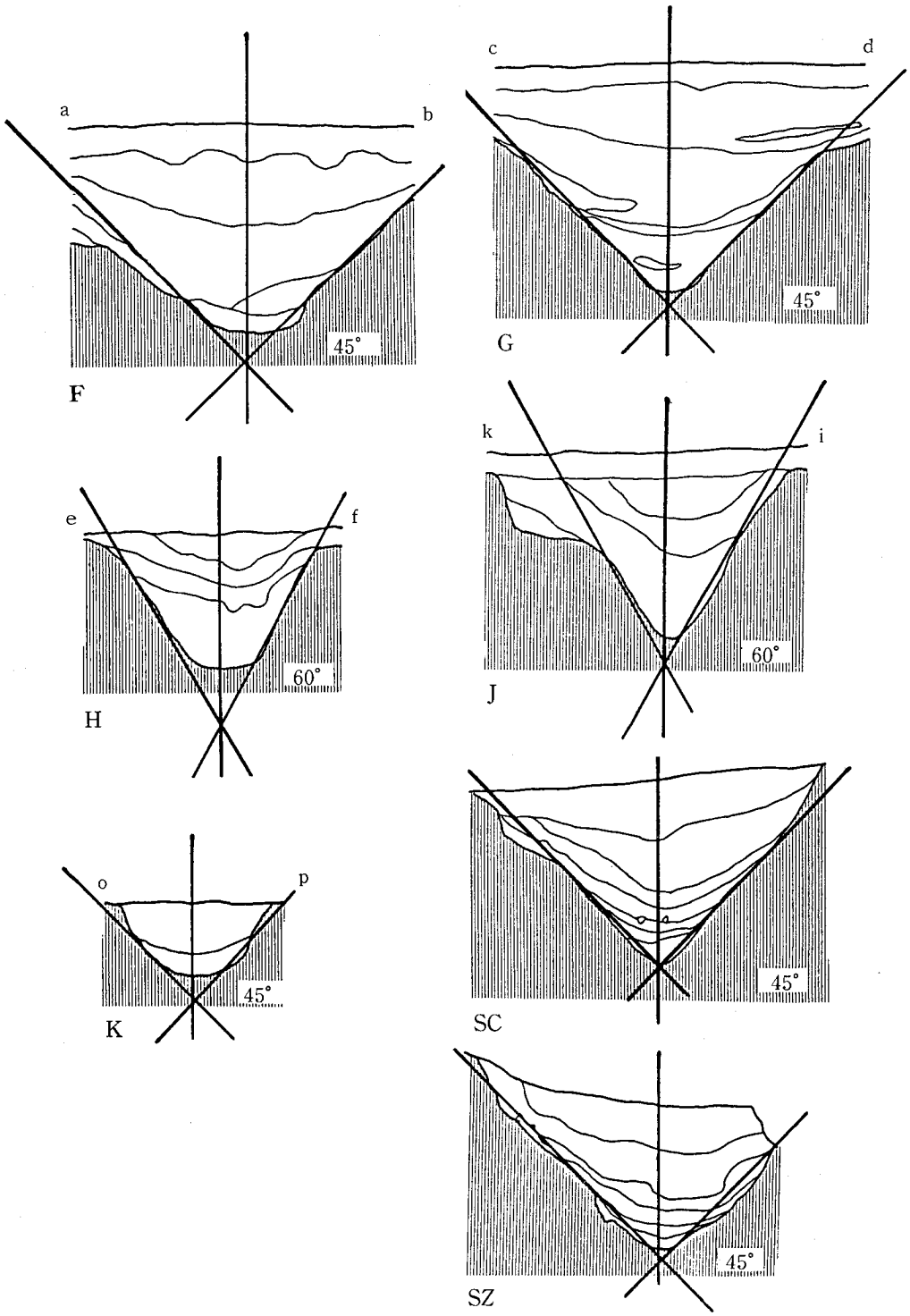
環濠集落の外周にゾーン内に廻る園路を設定しこれをメインルートとする。発掘調査で発見された出入口（陸橋）の他に、内環濠に2ヶ所程度橋を設置し、これとメインルートをむすんで補助的な出入口とする。橋の素材、デザインは後世のものであることがハッキリと確認でき



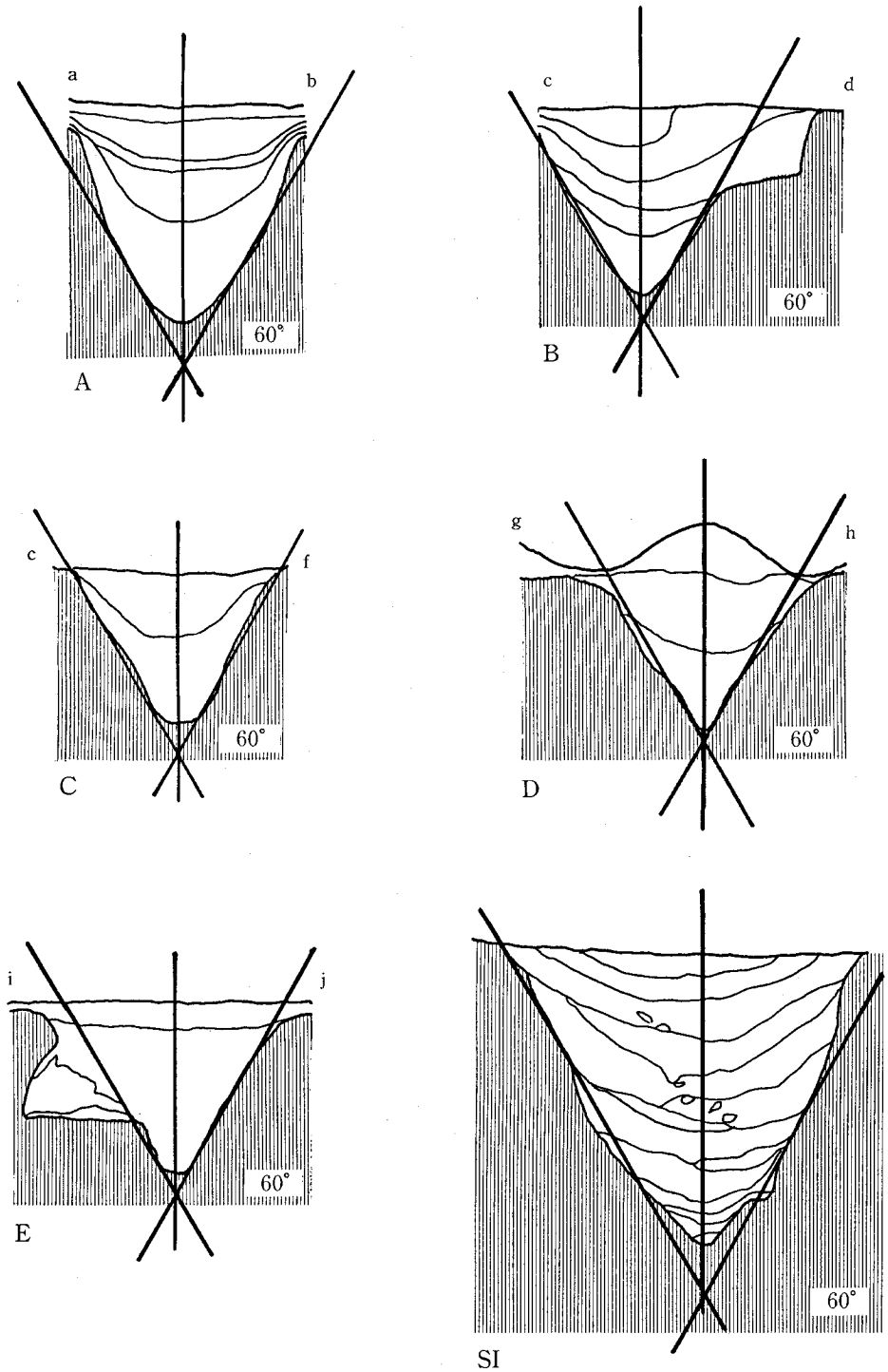

**第14図**　板付遺跡内環濠北側検出小児甕棺実測図




**第15図**　板付遺跡内環濠調査遺構配置図（縮尺約130）




**第16図**　内環濠断面図




**第17図**　弦状濠断面図

るようにする。

Bゾーン

ガイダンス施設から復原された水田両脇を通りAゾーンへと至る園路を設定する。

③ サイン

各遺構の説明板の他に、園路に沿って史跡内の案内板を数ケ所設置する。

また、板付遺跡を含めた市内の主な文化施設への道標を市内各所の幹線道路に設けることを計画するとともに、博多駅、福岡空港、市内公共施設等に遺跡の場所や概要を記したポスター・パンフレット等を設置することを検討する。

サインシステム表

| | 広　　域 | 遺　跡　内 | 遺　　構 |
|---|---|---|---|
| 道　　標 | ● | | |
| 案　内　板<br>(ポ　ス　ター) | ● | ● | |
| 説　明　板 | | ● | ● |
| | • 空港・駅<br>• 役所<br>• 博物館<br>• 埋文センター<br>• 金隈遺跡等他史跡<br>• バス・タクシー<br>• ホテル<br>• 高速道路 SA<br>• 市内幹線道路 | • ガイダンス施設<br>• 園路 | • 外環濠<br>• 水田<br>• 井堰<br>• 陸橋<br>• 内環濠<br>• 貯蔵穴<br>• 住居跡<br>• 甕棺墓 |

④ 便　所

Aゾーン、Bゾーンに各々1ケ所ずつ設置する。便所には、各々の身障者用便所を設ける。

⑤ その他

ベンチ……A、Bゾーン内に適宜配置する。

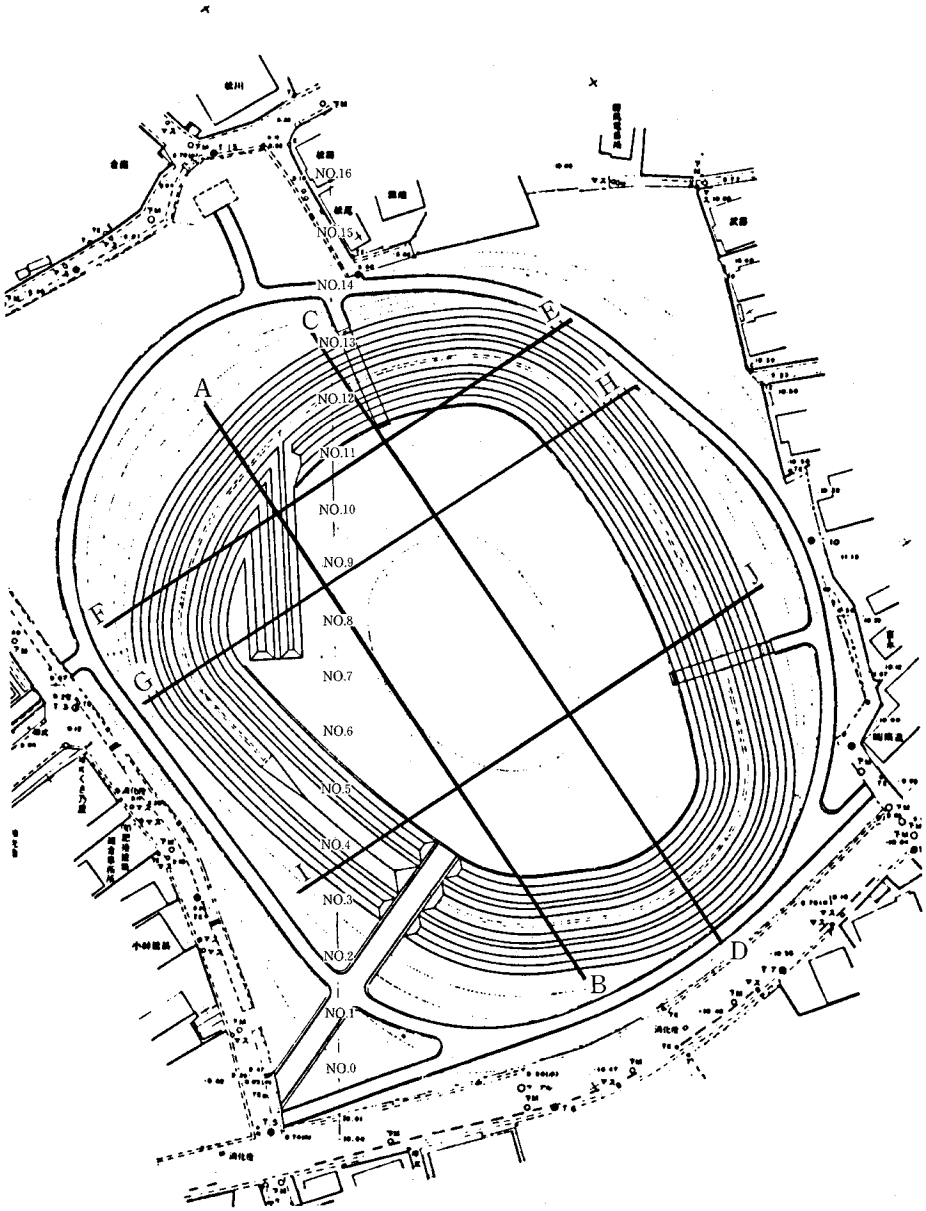
ゴミ箱……Aゾーン、Bゾーン内に適宜設置するが、ゴミは原則として持ち帰りとすることが望ましい。

外　灯……Aゾーン、Bゾーン内に適宜配置する。

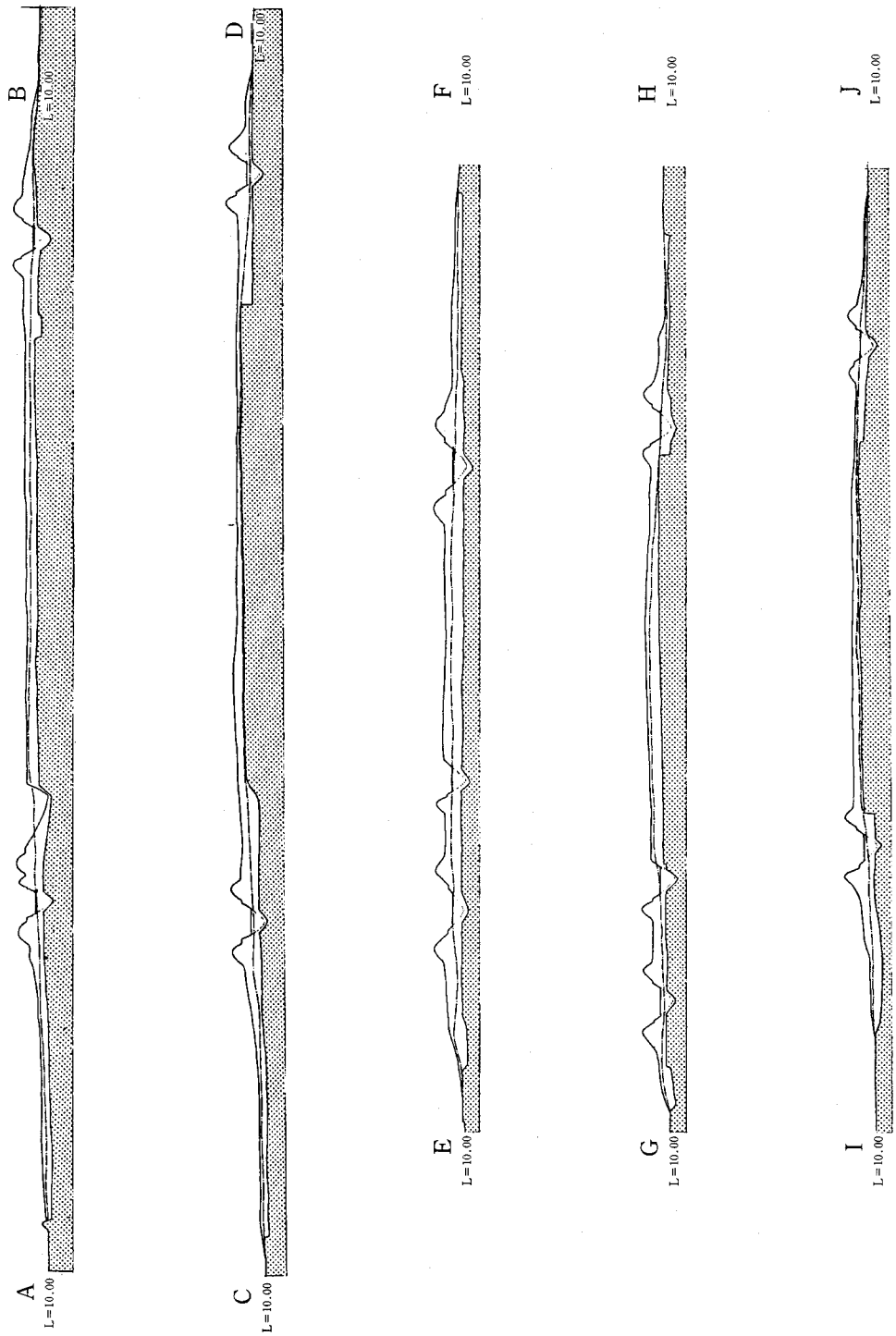
**3）造成計画**

整備の目的の一つである遺構の保存を基本とし、指定地全体に盛土を行うことを基本とする。

特にガイダンス施設等の建物を設置する場所や高木を植栽する区域は遺構面より最低1mは盛土する。




**第18図**　内環濠及び土塁復原図




**第19図**　内環濠及び土塁復原断面図

### 4）植栽計画

Aゾーン

環濠集落内およびメイン園路と環濠集落間の斜面は自然の草地とする。草地は年２～３回の草刈の他、必要に応じて除草、補植等を行う。

敷地周辺は、隣地との景観を遮断するため、高木類を配栽する。

樹種は花粉分析（板付遺跡報告書第35集）の結果を参考に選定した。

Bゾーン

水田復原区域以外は芝生の植栽とすることを計画する。敷地周辺は隣地のマンションとの遮断をはかるため、シラカシ等の高木類をかなり密に植栽する。

Tab. 植栽樹種の構成（1）

| | | | 高～中木 | | 低木 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 常緑 | 落葉 | 常緑 | 落葉 | 地被、その他 |
| 弥生時代の有用植物 | 食物とした植物 | | スタジイ<br>ツブラジイ<br>マテバシイ<br>アラカシ<br>アカカシ<br>シラカシ<br>イチイガシ<br>ヤマモモ | コナラ、クリ<br>クヌギ、クルミ<br>トチノキ、モモ | | ハシバミ | イネ、ムギ類<br>ハス |
| | 衣料に用いた植物 | | | シナノキ<br>ヤマグワ | | カジノキ | フジ、ヤマフジ<br>アサ、カラムシ |
| | 建材として用いた植物 | | クロマツ、モミ | ケヤキ | | | カヤ（ススキ）<br>ツタ類 |
| | 道具、木器として用いた植物 | | コウヤマキ<br>イヌマキ<br>クロマツ<br>クスノキ<br>タブノキ<br>シラカシ<br>ヤブツバキ | ヤマザクラ<br>ケヤキ<br>ヤマナラシ<br>ヤマグワ | サカキ<br>イヌツゲ | マユミ | |
| 弥生時代の植生（樹種は市内遺跡出土例による） | 照葉樹 | 常緑高木 | アラカシ<br>アカガシ<br>シラカシ<br>イチイガシ<br>スタジイ<br>ツブラジイ<br>マテバシイ<br>タブノキ<br>ヤブツバキ<br>ヤマモモ<br>モチノキ<br>ユズリハ<br>サカキ | | | 不適樹種<br>スギ、ヒノキ<br>クスノキ<br>カヤ、イヌガヤ | |

| | | | 高～中木 | | 低木 | 不適樹種 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 弥生時代の植生（樹種は市内遺跡出土例による） | 二次林 | 落葉高木 | ケヤキ、ムクノキ<br>ゴンズイ、エノキ<br>エゴノキ<br>チシャノキ<br>アカメガシワ<br>ヤマザクラ<br>クリ、ヤシャブシ<br>リョウブ<br>アオダモ、クヌギ | 落葉低木 | ヤマツヅシ、ウツギ<br>イヌビワ、イノバラ<br>ガマズミ、カマツカ<br>グミ | イチョウ、アワブキ<br>モクレン、トチノキ<br>カエデ（イロハモミジ）<br>カツラ、ハンノキ、ヤナギ<br>ザイフリボク、ホオノキ<br>サワグルミ、ムクロジ |
| | | 常緑高木 | クロマツ | | | |

植栽樹種の構成（2）

| | | 高～中木 | | 低木 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 常緑 | 落葉 | 常緑 | 落葉 | 地被、その他 |
| 修景用植栽 | 緑の骨格を構成する植物 | ツブラジイ<br>スダジイ<br>シラカシ<br>アカガシ<br>イチイガシ<br>マテバシイ | ヤマザクラ<br>ケヤキ<br>エノキ<br>ムクノキ<br>センダン | アオキ<br>ヒサカキ<br>シャリンバイ<br>クチナシ | | ノシバ<br>リュウノヒゲ<br>クマザサ<br>コクマササ |
| | 雰囲気作り等の修景に用いる植物 | ヤマモモ<br>ヤブツバキ<br>カクレミノ | ヤマザクラ<br>ミズキ<br>ヤマボウシ | ヤマツツジ<br>ミツバツツジ<br>ネジキ<br>アセビ | リョウブ<br>シャラ<br>ヤブムラサキシキブ<br>ヤマブキ<br>ハキ | ヒガンバナ<br>ヤブラン<br>エビネ<br>キボウシ<br>シャガ<br>ハラン<br>セキショウ<br>ツワブキ<br>オオイタビカズラ |

### 2）雨水排水計画

景観的に自然な状態となるようにすることを基本とする。

環濠の周囲は、環濠の中に集水し、環濠内の暗渠にて排水する。

## 5．維持・管理計画

住宅地域内に所在するため、特に防災、防犯には充分な注意をはらう必要がある。

防　災

住居跡の復原が計画されているＡゾーン内に火災時の消火がすみやかに行えるよう放水銃等を設置することが望ましい。

防　犯

環濠集落内は夜間の出入りは原則として禁止とし、現在計画されている出入口はそれぞれ管理用に扉を設ける。また、入口附近に設置が計画されている鳥形に防犯カメラを付設し、日中はガイダンス施設内でＡゾーンの防犯管理が可能となるように検討する。

その他

次表のような検討を行う。

## 6．活用の計画

以下のような活用が検討できる。

| | 項　　目 | 検　討　事　項 |
|---|---|---|
| 学習的活用 | • 土器づくり<br>• 石器づくり<br>• 復原住居跡づくり<br>• 木器づくり<br>• 織物づくり　等 | • 指導員の養成<br>• 組織づくり<br>• 材料確保<br>製作品の収納　他 |
| 日常的活用 | • 散歩<br>• ジョギング・ピクニック　等 | • 環境維持・管理<br>• 防犯・防災管理　他 |
| 季節的活用 | • 田植え<br>• ホタル狩り、トンボとり　等 | • 環境管理<br>• 指導員の養成<br>• 防犯・防災管理　他 |
| イベント | • 弥生キャンプ<br>• 弥生食大会<br>• 弥生祭り<br>• その他遺跡を利用した演劇<br>• コンサート等の開催 | • 企画の検討<br>• 指導員の養成<br>防犯・防災管理　他 |

## 1　ガイダンス施設の役割と機能

• ガイダンス施設の役割

イ．「アジアの玄関口」福岡市の文化施設の一つとして、板付遺跡を通して郷土の歴史的特色を日本および世界の中に位置づけ、知るための施設。
ロ．板付遺跡の特色や内容を一般にわかりやすく、楽しく伝えるための施設。
ハ．板付遺跡の整備方法や方針（どこまでが遺跡のオリジナルなものなのか、他遺跡の例から推定し復原した個所はどこなのかなど）を正しく一般に伝えるための施設。
ニ．板付遺跡の管理の拠点。

• ガイダンスの施設の機能

以上の役割を果すためには次のような各部機能が有機的に密接に関連し合うことが必要である。

イ．展示部門
　a．導入展示部門……外部と内部の接点となる部分であり、人々を内部に導く場所として重要な意味を持つ個所である。
　b．主要展示部門……ガイダンス施設の中心的な機能を担う部分であり、様々の展示により、板付遺跡の内容や特色、意義等を伝える個所である。
※展示方法として
• 遺物展示（板付遺跡から出土した遺物を展示する）
• 模型展示（板付遺跡およびその周辺を含めた復原模型を展示する）
• パネル展示（写真・図面・イラスト等を用いた説明パネルを展示する）
• 映像展示（大人数に対応できる映像ソフトを用いた説明を行う）
があげられる。
ロ．管理部門
　ガイダンス施設および板付遺跡の活用が円滑に行えるよう、施設および遺跡管理を行う部門である。
ハ．情報部門
　板付遺跡に関する情報、ガイダンス施設内の展示内容に関する情報、他の福岡市の文化施設に関する情報等を提供する部分。

## 2．展示計画の基本方針

板付遺跡ガイダンス施設展示実施設計案の検討にあたり、以下の基本方針を策定した。

①板付遺跡を中心としながら、北部九州、全国、さらには東アジアからの視点を持った展示を目指す。

②できるかぎり一般にわかりやすく、楽しいものとするため、視覚的な効果をもった展示方法を中心にしながら、これをより深く知るための学習的な展示を共に行う。

③具体的には、視覚的な要素の強い模型・遺物・大型スクリーンを使った映像等による展示方法を中心とし、これにより、一応の概論は理解できるようにしながら、さらに写真、パネルを配し、文字による説明を行うパネル展示を行い、映像等で説明されたことを確認できるようにする。

④こうした方針を踏まえ、板付遺跡の最大の特色であり、遺跡の成立要因とも考えられる「稲作の渡来」と、それにより開始された弥生時代の特質を板付遺跡を中心に見る「板付遺跡と弥生文化」を中心的テーマとし、これを基に展示の基本的流れを検討する。

## 3．展示内容の検討

### 3－1 板付遺跡の特色

#### 1）弥生時代の特質

①本格的な食糧生産（稲作を中心とした農耕）が朝鮮半島よりもたらされ、開始された時代である。

②これに伴い、金属器（鉄器・青銅器）の使用・生産、紡績、養蚕等の新技術が大陸より伝えられた時代である。

③石器や玉作り等に従事した工人、海や大陸との交易等に従事した海人等、社会的な分業が本格化しはじめた時代である。

④農耕を開始して600～700年大規模な王墓・古墳が出現するなど、急速に「古代化」が進んだ「高度成長」の時代である。（西アジア、中国、その他の古代文明に比較して農耕開始から王墓出現までが異常に早い。）

⑤環濠集落や高地性集落等が出現し、日本ではじめて人々が「戦争」を始めた時代である。

⑥生産力の増大に伴い、多くを持つ者と従う者との格差が生まれはじめた時代。

| 社会が成熟し、飛躍する輝かしい出発であったと同時に、差別や争いの始まった時代である。 |
|---|

#### 2）板付遺跡の特色

イ．弥生時代の集落の構造を総合的に示す遺跡である。

板付遺跡は最も集落のすがたが整っていたと考えられる前期を中心に、生活（貯蔵穴等）、生産（水田跡とそれに伴う井堰等の施設）、埋葬、祭祀（小児甕棺、墳丘墓等）を比較的まとまったかたちで総合的に示すことができる遺跡である。

このような遺跡は北部九州地方でも数少なく、大きな特色であると言える。

遺跡整備……各種遺講整備によって対応

ガイダンス施設……復原模型（集落および周辺環境）

ロ．日本でも最古の二重環濠遺跡である。

板付遺跡が弥生時代の当初より、城の掘を思わせる大規模な環濠で二重に囲まれていることも重要な特色である。これは、板付遺跡が当時の北部九州地方の拠点的な集落の一つであることを示すとともに、弥生時代の集落の特色やその時代的性質をも表すものと考えられる。

遺跡整備……復原整備によって板付遺跡における環濠の空間的な規模を表す予定

ガイダンス施設……環濠集落の分布、ルーツ、なぜ環濠をめぐらしたか等について説明する

※日本の歴史上、戦国時代と弥生時代のみに出現した環濠集落は、弥生時代が戦乱の時代であったことを示すとも考えられている。これは、弥生時代の大きな時代的特質の一つ。

ハ．日本でも最古に属する稲作農耕遺跡である。

板付遺跡は日本でも最古に属する水田跡が発見された遺跡の一つである。弥生時代から始まった稲作農耕は、その後の日本文化に決定的な影響を及ぼした。板付遺跡はその期限を語る遺跡の一つとして大きな意味を有している。

遺跡整備……水田跡復原

ガイダンス施設……
- 稲作伝播の道（どこから来たのか）
- 弥生時代の稲作技術（どのようにつくったのか、現在と比較）
- 当時の調理法（どのようにして食べたのか）
- 食生活上での割合（どの程度食べたのか、食べられたのか）
- アジア稲作文化圏との文化比較
- 後の社会、歴史、文化に与えた影響（弥生時代に始まった稲作がその後に与えられた影響、現代とのかかわり）

※長く日本では米が国の経済の基盤であり、江戸時代までは米により税が納められた。米は農作物でありながら、貨幣的な性格を併せもっていた。

※現在でも宮中で毎年行われている新嘗祭も米の豊作を祈る行事、天皇は米の豊作を祈る最高位の祭官とも考えられる。

※しかし、日本の歴史、文化の基層を稲作のみに求める考えには近年多くの疑問が寄せられており、弥生文化研究でも主に交易に従事したと思われる海人や、畑作・工人集団についての考察が重要な課題となっている。

ニ．福岡平野の弥生時代前期を代表する遺跡である。

福岡市を含めた北部九州地方は、日本で最も弥生文化が華ひらいた地方の一つである。そのなかでも福岡平野は中心的な役割を果した地域であり、奴国に相当する地域であるとされている。板付遺跡はその平野の弥生時代前期を代表する遺跡であり、奴国のルーツとも位置づけられる。

| No. 1 | | 板付遺跡でわかったこと |
|---|---|---|
| 環境 | | 沖積平野内に島状に分布する低丘陵上に集落および墓地が、丘陵東西に広がる沖積地に水田が形成されている。<br>遺跡は二重の環濠で囲まれており、このうち外側の環濠は用水路の役割を果していたと考えられている。内側の環濠は、低丘陵上のほぼ中央部を南北約110m、東西82mの範囲でぐるりと卵形に囲っているが、前期前半に掘削され、前期末にはほぼ埋められていたと推察される。<br>花粉分析の結果から、遺跡の周辺には水田、畑のほかに、モモ、スモモ、カシ等の樹木が存在したと考えられる。 |
| 生活 | 食べる | 植物質<br>米 ⟶ 水田が検出され、炭化米も出土している。種類は赤米か。<br>雑　穀 ⟶ 花粉は検出されていない。<br>豆　類 ⟶ アズキ<br>野　菜 ⟶ マクワウリ、ヒョウタン<br>（農作物）<br>果実類 ⟶ モモ、スモモ<br>堅果類 ⟶ オニグルミ、カシ類<br>その他 ⟶ ヤマモモ、キイチゴ、セリ<br>（採集物）<br>※花粉等は検出されていないが、この他、山菜類、キノコ、ヤマイモ等食用可能な採集食物は当然食べていたと思われる。<br>動物質 ⟶ 弦状溝より魚骨、貝殻出土。<br>魚とり用の網枠出土。<br>※周辺の林野等で捕獲できる動物等は食用としていたことが推測できる。<br>※この他、玄海灘周辺では、漁業を主としていたらしい集落も発見されているので、それら海のムラの交易により、魚介類を入手したことも考えられる。 |
| | 着る | • 貯蔵穴中から紡錘車が出土しており、織機が行われていたことが推定できるが、直接的な形状を示す遺物は出土していない。<br>• 勾玉、管玉等が板付遺跡からも出土している。<br>※日常的な装い、祭・結婚式・喪中の装い、未・既婚の別、成年・未成年の別、社会的な身分による区別等があったことが推測できる。 |

**Tab. 3　板付遺跡展示要素一覧**

## 弥生文化一般

前期後半の遺跡は、沖積地内の微高地上に集落を形成している例が多く、沖積平野内に点々と集落が存在する状態であったと考えられる。

前期末から中期になると遺跡数が急激に増加し、遺跡の平野奥の丘陵地帯にまで進出するようになった。また、この時期、東北地方にまで稲作が広がった。

・植物性食品

米 ⟶今日でも日本人の食生活の中心。各地の遺跡の出土例から当時は赤米が主流であり、これを深鉢形の土器で蒸して食べていたと考えられる。

雑　穀⟶アワ、ヒエ、キビ、ソバ、ムギ等（花粉および種子が出土）

豆　類⟶アズキ、エンドウ、ダイズ等（花粉および種子が出土）

野　菜⟶マクワウリ、ゴボウ、シソ等（花粉および種子が出土）

果実類⟶モモ、スモモ、ウメ、アンズ、ナシ等

（農作物）

堅果類⟶クリ、クルミ、ドングリ等

その他⟶山菜、キノコ、ヤマイモその他食用可能な野菜等

（採集物）

※奈良時代の記録等から推定すると、弥生時代の米の収穫量は大きな時期がもてず、他の澱粉質食糧に大きく依存していたとする研究もあるが、一方、考えられている以上に米を食べていたとする説がある。

※嗜好品としては、酒があった。（魏志倭人伝）

※各地域を見ると西日本はコメを中心とした雑穀主体、畿内地方ではコメとアズキ、東日本では陸稲を含めた畑作物が主体と推定される。

・動物性食品

動物および鳥類⟶ブタ（飼育されていたと推定される）

シカ、イノシシ、ウサギ、タヌキ、キジ等の野山の動物（狩猟による）

魚介類⟶クロダイ、スズキ、アワビ、ハイガイ、ハマグリ、マガキ等、フナ、コイ、シジミ、ドジョウ等

---

糸を紡ぎ、織機を使用して布を織る紡織の技術が新しく渡来した。

「魏志倭人伝」には、倭が魏へ綿を献上したことが記されており、すでに絹織物が生産されていたと考えられる。（遺跡からの出土例あり）。登呂遺跡からは麻が検出されている。

南海産の貝類、青銅器の腕輪、ガラス・碧玉製の首飾り、櫛等、様々のアクセサリーが発見されているが、腕輪や玉類は、身につけられる人々とつけられない人々の差があったらしい。

※「魏志倭人伝」は、倭人の服装を女は貫頭衣、男は横幅衣を着用とあるが、具体的な形状は明確ではない。

※青銅製腕輪は、貝輪より変化したものと考えられている。

| No. 2 | | 板付遺跡でわかったこと |
|---|---|---|
| 生活 | 住む | • 削平が著しいため、確実な遺構は中期以降の何軒かの竪穴住居を除き未発見である。<br>• 土器等の出土状態から、前期前半の住居は、環濠の内側に広がっていたと推定され、その数は貯蔵穴の数から16～17軒程度と考えられる。<br>• 前期の貯蔵穴は、環濠と弦状濠に囲まれた個所から集中的に検出されている。<br>• 中期には井戸が出現した。 |
| 生産 | | • 農　業<br>水量調節のための堰や取排水口を揃えた、縄文時代晩期に遡る水田跡が発見され、当初より極めて完成された状態の水稲耕作が存在したことが確認された。<br>• 石　器<br>今山産の石斧他、石庖丁等多くの石器が発見されている。<br>• 金属器<br>銅矛、銅戈等の鋳型が発見されており、青銅器の製作を行っていたことが知られる。<br>• 木器<br>多くの木製農具が発見されており、集落内で農具の製作が行われたことが推定される。 |

遺跡からは、竪穴住居の他に多くの柱跡が発見されており、掘立柱形式の高床式の建物も一部住居として使用されたものと考えられる。

竪穴住居の中には屋根の上に土をのせる土屋根のものもあったことが近年明らかになってきた。収穫物等を納める倉庫は、当初地面を深く掘り込むんだ貯蔵穴をその役割にあてていたが、北部九州や近畿地方を中心とした西日本では、弥生時代中期頃から高床式の建物に変っていった。また、おなじ弥生時代中期頃から井戸が出現した。

アジアの他の民族例から、他に初源的ホコラや、集落の入口を表す門等も存在したと推定される。

※「魏志倭人伝」には「宮室」の文字がみえ、一般の成員とは異なる家に住む人々が出現してきたことを伝ている。こうした「特別な家」の遺構らしきものは吉野ケ里遺跡等から検出されている。

・農　業

水稲耕作の他に、様々な畑作植物の花粉や種子の検出から、当初より稲作とともに畑作を行う複合農耕であったことが明らかにされている。各地の水田跡遺跡の発見例の増加から、弥生時代前期末には青森県にまで水稲耕作が及んだことが明らかにされ、岡山県の百間川遺跡では、田植えの跡も検出された。

・石　器

鉄器が普及する弥生時代中期頃まで、縄文時代より盛んに石器が製作された。それらは主に、開墾用の樹木の伐採や、木製農具製作のための利器（太型蛤刃石斧、偏平片刃石斧等）や農具（石庖丁、石鎌等）として使用された。

石器の製作を主とした石器づくりのムラも発見されており、北部九州の立岩の庖丁や今山の石斧等は著名である。

・金属器

弥生時代後期頃より、石器に代って鉄器の使用が盛んになる。鉄器化はまず、農具を製作する利器より行われ、次に農具そのものの鉄器化が進行した。鉄器生産は、原料を朝鮮半島よりの輸入に全面的に頼っていたのか、一部国内で原料を入手し、生産したのか定かではない。

青銅器生産は、各地で出土する鋳型より、その存在が明らかにされているが、これも原料の入手を大陸・朝鮮半島のみに求めていたのか、国内産の銅を使用したか明確にされていない。福岡市を中心とした地域は、日本有数の青銅器生産のメッカであり、北部九州から出土した鋳型の約半数がこの地域から発見されている。

・その他

漁業とともに製塩を行い、さらに交易を行った遺跡も発見されている。他に、木器作り、甕棺等の特種な土器作り、玉作りなど様々の手工業が行われた。

| No. 3 | 板付遺跡でわかったこと |
|---|---|
| 交易交流 | • 板付遺跡そのものが、朝鮮半島より水稲耕作の技術を携えて渡来した人々により開墾された可能性が大きい。<br>• 集落間交易の遺物としては今山製の石斧が、大陸との交流を表す遺物としては墳丘墓に副葬されていた銅剣、銅矛が挙げられる。<br>• 板付遺跡で発見された前期末金海式の甕棺は、朝鮮半島南部釜山市の金海貝塚から出土したものと同型式のものである。 |
| 祭祀 | • かって小川であったと思われる河岸から大量の土器が出土し、川の祭祀があったことを推定させる。<br>• 井戸からも祭祀土器が発見されている。<br>• 前期の墳丘墓から銅剣、銅矛が、また、江戸時代に5本の銅矛が出土したことが、通津寺の過去帳に記されている。<br>近年の調査では、後期の住居跡より小銅鐸が出土した。 |
| 戦い | • 環濠により囲まれた環濠集落である。<br>• 銅剣・銅矛・銅鏃等武器の出土。<br>• 投弾（？）の出土。 |

| 弥生文化一般 |
| --- |
| • 弥生文化そのものが、大陸、朝鮮半島とのかかわりから生まれたものであり、大陸、朝鮮半島との交流は弥生文化の一旦を担っている。<br>• 大陸、朝鮮半島との交流を最も雄弁に語るものは、鏡を主とした大陸製青銅器である。前期には朝鮮半島製が、後には楽浪郡を通じての中国製が主流となる。<br>• 北部九州は、こうした大陸、朝鮮半島との交流・交易の中心地域であり、朝鮮半島南部釜山市の金海貝塚からは北部九州製と見られる甕棺が出土している。<br>• さらに、ゴボウラガイやイモガイ等南海産の貝ガラを使用した腕輪が、北海道からも発見されており、弥生時代の交易・交流が予想外のひろがりを持っていたことが知られる。<br>• この他、今山や立石の石器からもうかがえるような集落間の交易や、地域間の交流はかなり頻繁であったと推測される。<br>• これらの交易・交流に大きな役割を果したのが舟であり、これを操る海人である。弥生は、農民であるとともに、海原に乗り出す海洋民としての性格を色濃くもっていた。 |
| • 最も盛んに行われたと推測されるのが、農耕の基盤にかかわる農耕祭祀である。現在の民俗例から考えて、春・夏・秋・冬、各季節ごとに豊作祈願や虫送り、雨乞い祈願、収穫儀礼、予祝行事などの祭が行われたと思われる。<br>• 農耕祭祀と関連して、田の水口の祭り等水稲耕作に最も重要な役割を果たす、水の祭りも行われたと考えられる。これは田の用水路と思われる小川跡から丹塗りの土器が多く出土することで推定できる。同じ井戸の祭りも行われたらしい。<br>• こうした農耕祭祀のすがたを明確に示す遺構、遺物は多くないが、土器の中には、シャーマンらしきものが描かれたものもあり、鳥取県稲吉角田遺跡から出土した土器には、一連の物語らしきつづき絵が認められた。<br>また、「魏志倭人伝」の馬韓（朝鮮半島南部）の条には、馬韓の農耕祭祀の様子が詳しく記述されており、弥生時代の祭りを考えるうえで、参考になる。<br>• 弥生時代の祭祀遺物として最も著名なものは、銅剣、銅矛・銅戈・銅鐸等の青銅器である。これらの青銅器は、九州から中部地方までの各地方で、地方ごとの特色を示しながら発見されている。<br>• この他弥生時代の祭祀遺物として、鳥形木製品、占いに用いたと思われるシカの骨、丹塗り土器等がある。<br>• 土器に描かれたシャーマンらしき人物も、鳥のすがたに扮しているものがあり、鳥は神聖なものとして考えられていたらしい。これは、アジアの稲作地帯やシベリア等にも共通した要素であり、これらの地域との比較も興味深い。<br>• 出産、結婚、死など人生の節目に行われる祭りも多くあったと思われるが、その実態は明確ではない。ただ、「死」については、葬儀の様子はわからないながら、死後の葬り方は、各地の墓地の発掘から確認されている。<br>• 墓は、そうした祭祀面ばかりでなく、弥生時代の階級分化の様子を表すものとしても良好な資料である。これらから、弥生時代には特別な墓に葬られる人々が出現してきたことがみてとれる。<br>• 北部九州の墓を代表するものは甕棺であり、これらのうちには多くの大陸製青銅器を副葬したものも存在する。 |
| • 環濠集落、高地性集落が出現し、緊張状態があったことが推測される。<br>• 剣・矛・戈等、縄文時代にみられなかった新しい武器が大陸、朝鮮半島より渡米した。これらのうちに青銅製のものは、祭祀の道具としても、また副葬品としても活用され、わが国に武器を崇める傾向が生じたことがうかがえる（特に九州、中国地方に多い。）<br>• 九州、近畿、中国地方では、武器が突き刺さった埋葬人骨も発見されており、これらの武器が実際に使用されたことを証明している。<br>• これら傷を受けた人骨は、福岡県北部～中部地域に多く発見されており、この地位の緊張状態が大きかったことを思わせる。<br>• この他、楯・冑も少数ながら発見されている。また、奈良県天理市石上出土の第２号銅鐸の鈕には、楯と戈とみられる武器をもつ人物像が鋳出され、佐賀県川寄吉原遺跡出土の銅鐸形土製品の身の片面には左手に楯を持ち、腰に刀剣を帯びる人物が描かれている等、戦士のすがたをうかがわせる遺物も出土している。 |

遺跡整備では、十分に表すことが困難。ガイダンス施設での説明が特に必要な特色。

北部九州→弥生文化の中心地の一つ。これは北部九州の気候、風土が初期の稲作耕作に適していただけではなく、朝鮮半島に近いという地理条件を生かして、当時の先進地域である大陸と交流していたことが要因と思われる。

・北部九州の弥生時代と板付遺跡

板付遺跡の変遷と北部九州の弥生文化の流れを併せて概観すると興味深い。

・北部九州の弥生文化の特質

他地域との比較が必要。

## 4．展示計画のテーマ

次のような展示テーマを設定した。

イ．米の来た道……稲作2000年の源流

ここでは、板付遺跡が日本最古の稲作農耕遺跡であるとともに、稲作の日本への渡米が東アジア全体の交流のなかからもたらされたこと、板付遺跡はその日本への玄関口であったことを示すことが主な目的である。

ロ．板付遺跡とは何か……その概要と特色

ここでは板付遺跡とはどのような遺跡であるか、その概要を板付遺跡の特色を踏まえながら、わかりやすく示すことが主な目的である。

## 5．展示方針一覧表

| 部　門 | テ　ー　マ | 目　　的 | 課　　題 |
|---|---|---|---|
| 入り口および導入部門 | 米に来た道稲作2000年の源流 | • 日本への稲作の渡来が東アジアの大きな交流のなかからもたらされたこと、板付遺跡はその玄関口であったことを示す。 | • 通常とは違った空間・世界（ガイダンス施設）への入口として、通常と違った視点による驚き、次への期待を抱かせる演出が必要。 |
| 主要展示部　門 | 板付遺跡とは何かその概要と特色 | • 板付遺跡の概要を、特色を踏まえながらわかりやすく示す。 | • 遺跡の概要と特色を視覚的かつ総体的に示し、遺跡に対して理解と興味が持てる演出が必要。 |
| | 板付遺跡からみた弥生文化の特質 | • 板付遺跡の特色から弥生文化一般の特質を探り、板付遺跡をさらに大きな視点から位置づける。 | • 提供すべき情報の量がかなり多様になってくるためこれをわかりやすく一般に示せるような装置（例：Ａ・Ｖソフト）が必要となる。<br>• 一般にわかりやすく、興味深いものとするため、展示の切り込み方に工夫が必要。 |

**Tab. 4　展示方針一覧表**

## 展　示　方　法

### 大型地図パネル「米の来た道」整備方針

通常の視点とは逆になる、アジアから見た日本の大型地図に、現在考えられている稲作の伝播ルートを描き、板付遺跡が稲作の日本への玄関口であったこと、さらにここが外部からガイダンスへの導入となることを象徴的に示す。

### 弥生時代に残された「絵」の画廊

### 年　表

### 大型模型

弥生時代前期前半の板付ムラおよびその周辺のすがたを示す全体模型により、当時のムラのすがたを総体的に示す。

### 発掘時の遺構写真パネル

水田跡、環濠、堰、甕棺墓等、板付遺跡を代表する遺構の発掘時、発見時の写真を大型パネルにし、これに簡単な説明を添えて、板付遺跡の特色を示す。

### 影像ソフト

ストーリーをもって物語風に展開するものを考え、わかりやすく楽しく学べるように検討する。

例→「米物語」

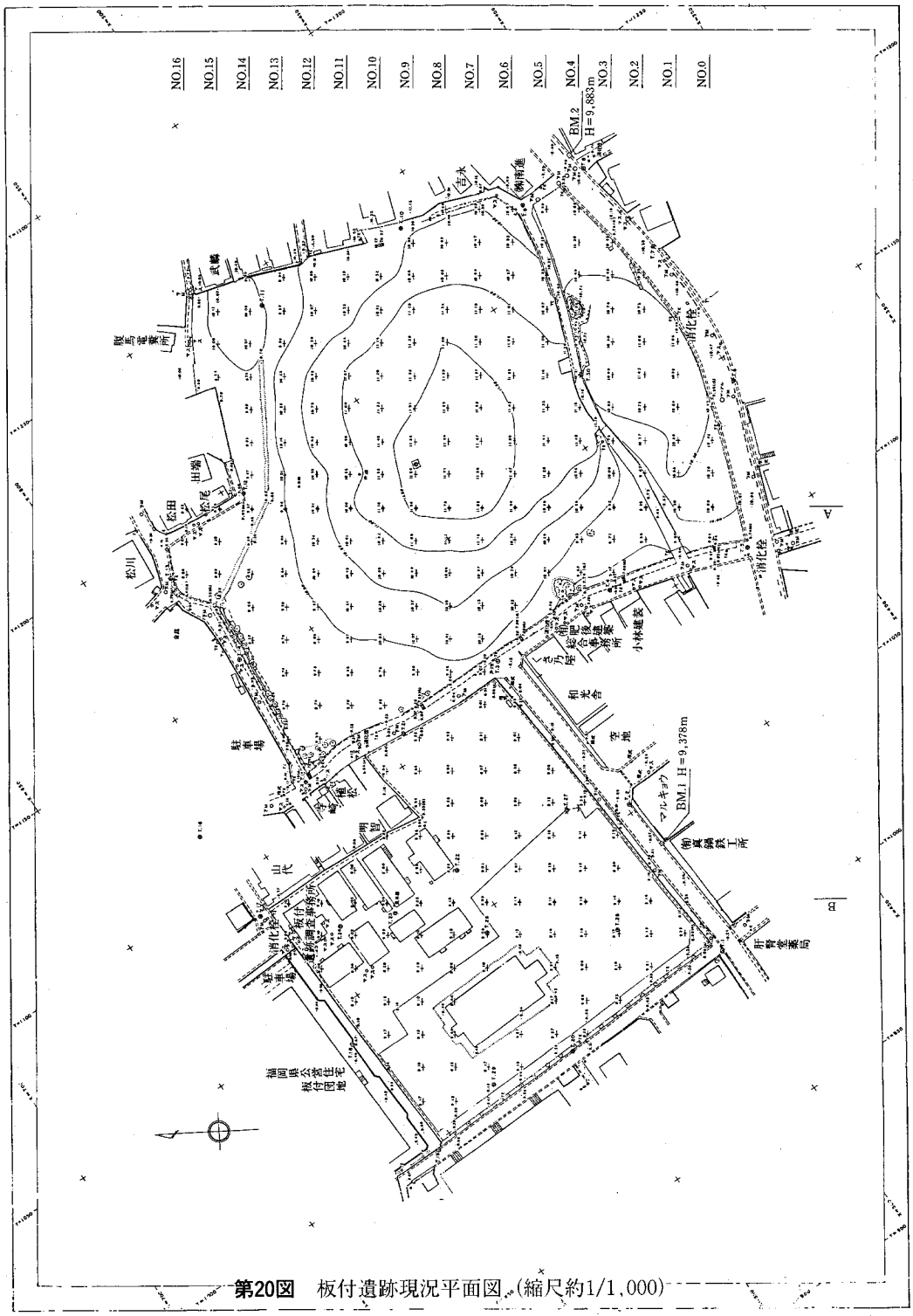
米である僕（私）は、アジアの国々をめぐり、ここ福岡の板付ムラに着いた。日本で最初の米づくりがはじまった。田に残る足跡は、最初の農民の足跡だ。

そして、米（僕／私）は、その後の社会を大きく変えた。その影響は今日まで続いている。

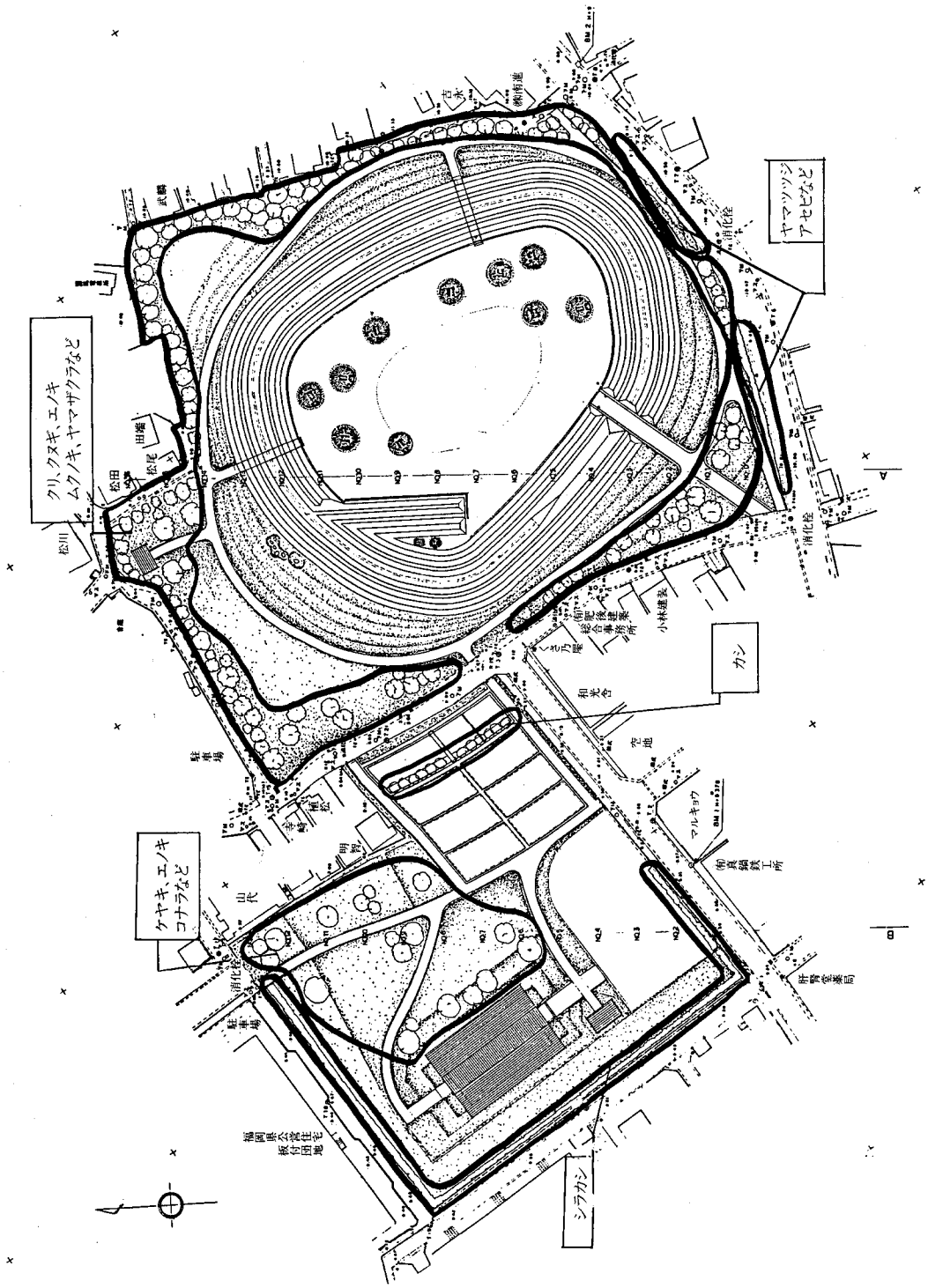
| 工種 | 種別 | 細目 | 数量 | 単位 |
|---|---|---|---|---|
| 敷地造成工 | | | | |
| | 切土 | | 1,500 | m³ |
| | 盛土 | 盛土及び敷均し | 20,000 | m³ |
| | 搬入土 | | 18,000 | m³ |
| 排水工 | | | | |
| | 集水枡 | 300×300mm | 41 | 基 |
| | 開閉バルブ排水口 | | 1 | 基 |
| | 環濠内暗渠 | ポラコン | 300 | m |
| | 園路内暗渠 | φ200mm | 1,200 | m |
| | 暗渠 | φ150mm | 200 | m |
| | U型側溝 | φ100mm | 1,000 | m |
| | | 300×300の暗渠を含む | | |
| 園路広場工 | | | | |
| | 自然石舗装 | 透水性 | 2,500 | m² |
| | 土タタキ仕上 | | 5,000 | m² |
| | 砂利仕上 | | 1,200 | m² |
| | コンクリート舗装 | | 100 | m² |
| | フェンス | | 1,000 | m |
| | 土止め | | 1,000 | m |
| | コンクリート縁石 | 100×100×600 | 20 | m |
| | 丸木橋 | | 1 | 基 |
| | 環濠横断橋 | | 2 | 基 |
| | 車止めⅠ | | 40 | 基 |
| | 車止めⅡ | 脱着式 | 10 | 基 |

| 工種 | 種別 | 細目 | 数量 | 単位 |
|---|---|---|---|---|
| 修景施設工 | | | | |
| | 高木 | h=3.0～5.0m | 400 | 本 |
| | 低木 | | 300 | 本 |
| | 張芝 | 7割 | 10,000 | m² |
| 休養施設工 | | | | |
| | 木製ベンチ | | 10 | 基 |
| 公開施設工 | | | | |
| | ガイダンス施設 | | 1 | 棟 |
| | ガイダンス展示 | | 1 | 式 |
| | 貯蔵穴復原 | | 2 | 基 |
| | 小児甕棺 | 複製品 | 7 | 基 |
| | 復原住居 | | 10 | 基 |
| | 史跡名称板 | | 2 | 基 |
| | 説明板 | | 3 | 基 |
| | 道案内板 | | 6 | 基 |
| | 濾過装置 | (300t水量) | 1 | 基 |
| | 堰 | | 1 | 基 |
| 管理施設工 | | | | |
| | 野外照明施設 | | 1 | 式 |
| | 便所(A) | | 1 | 棟 |
| | 便所(B) | | 1 | 棟 |
| | 便所設備 | 給排水 | 1 | 式 |
| | 便所設備 | 電気 | 1 | 式 |
| | 柵 | 木製 | 100 | m |
| | 門 | 鳥居込、木製 | 1 | m |
| | 防災設備 | | 1 | m |

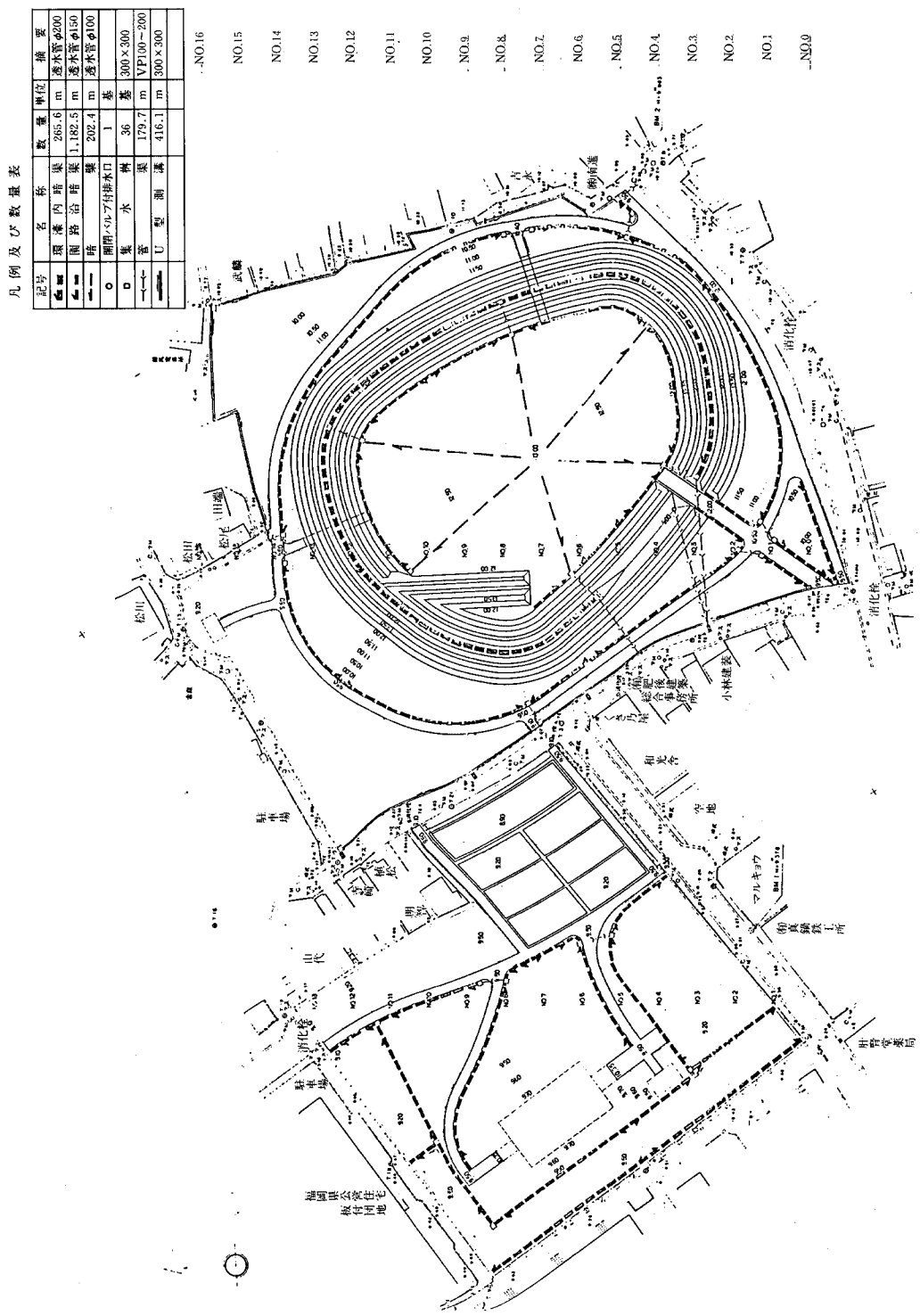
**Tab. 5　工事種目一覧**



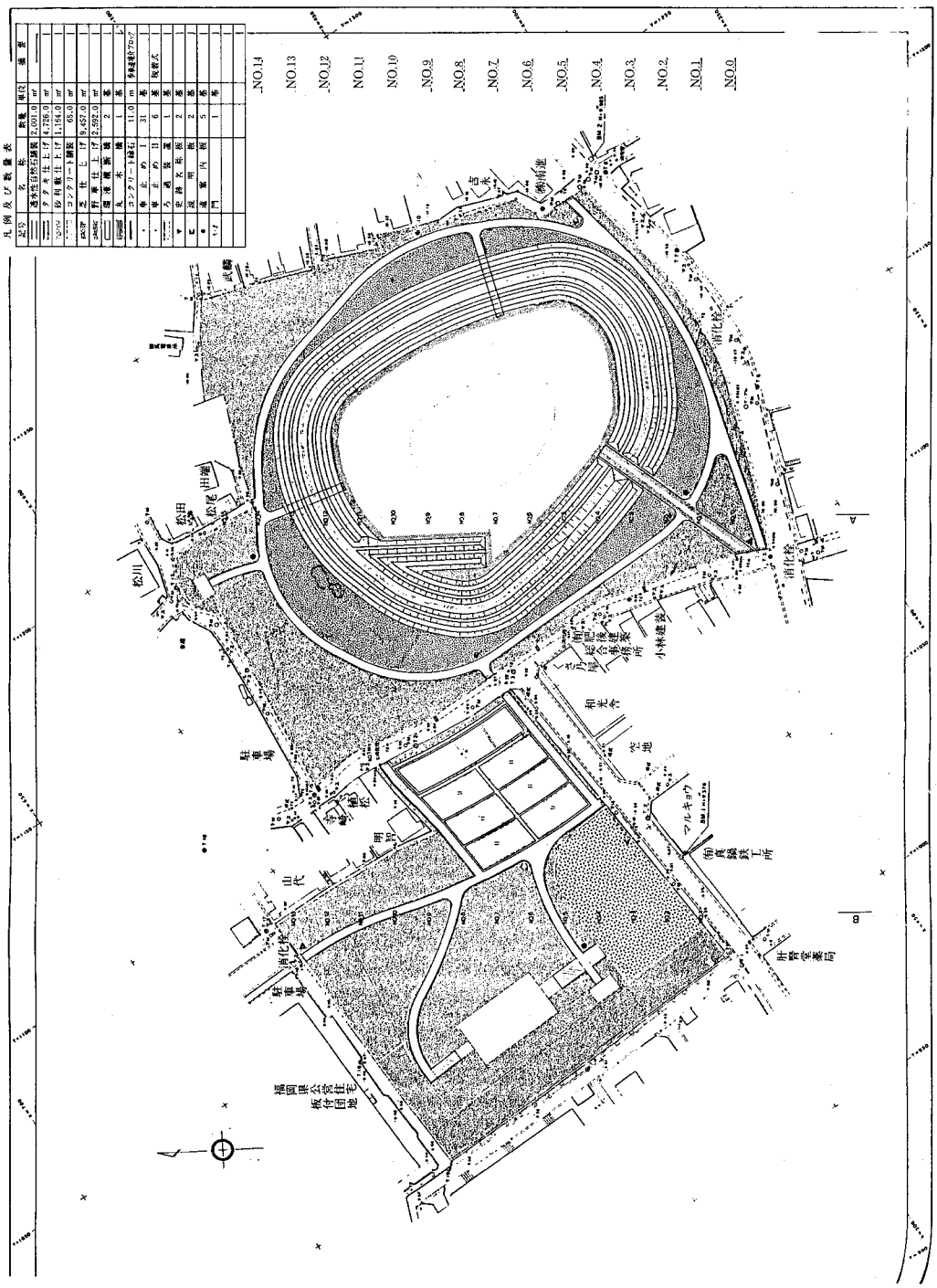

**第20図**　板付遺跡現況平面図（縮尺約1/1,000）



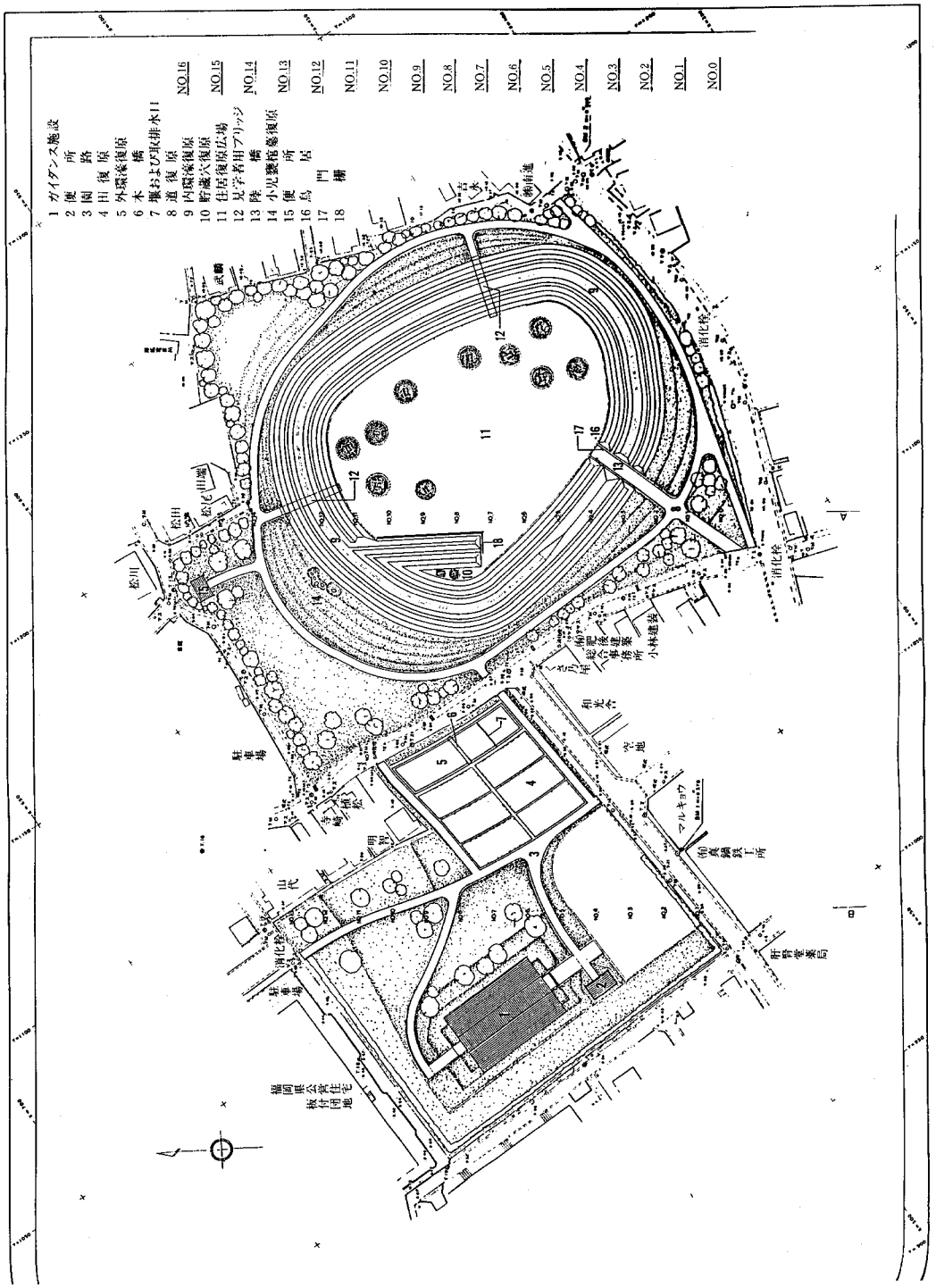

**第21図**　板付遺跡基本設計図－１（縮尺約1/1,000）



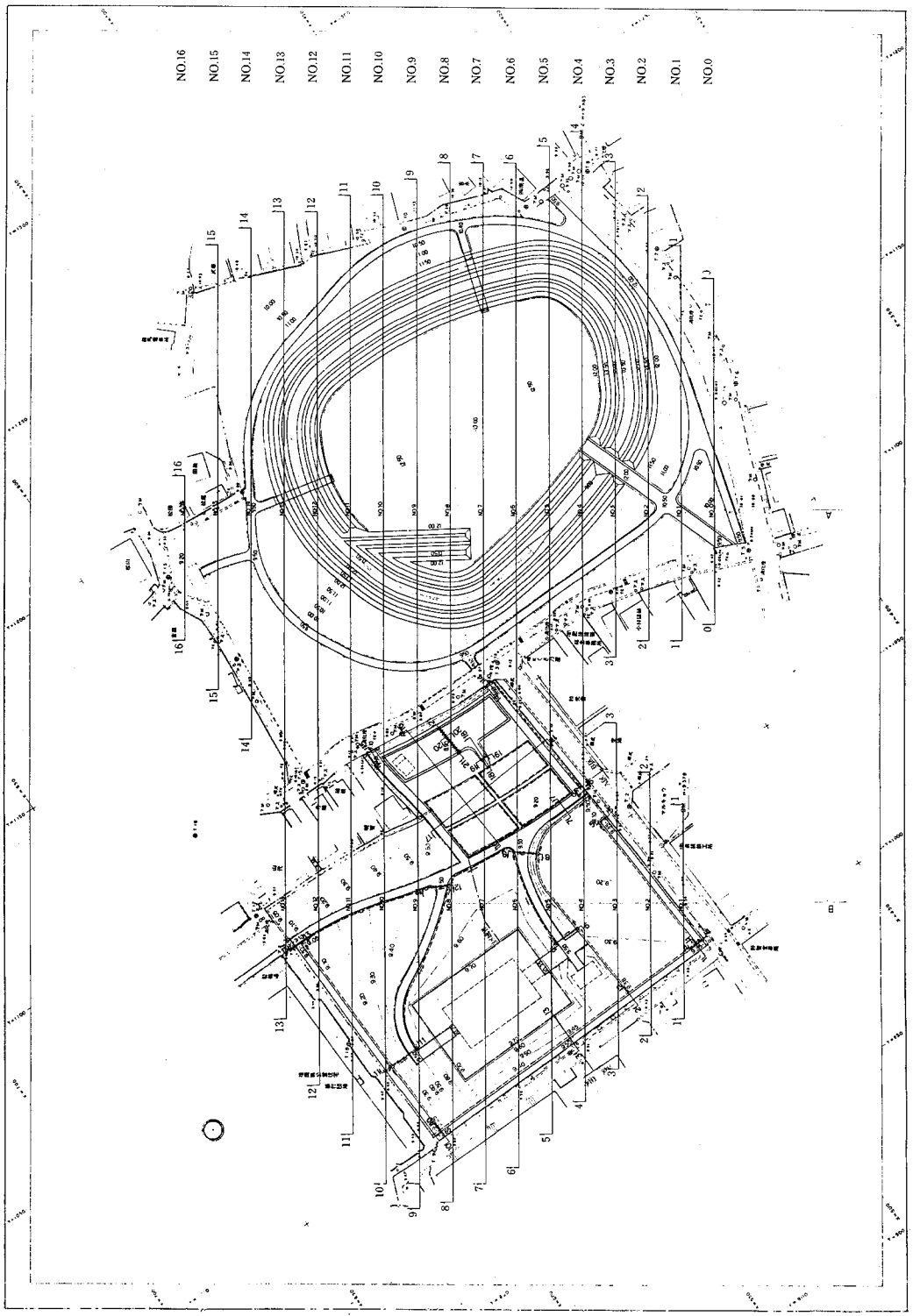

**第22図**　板付遺跡基本設計図－２（縮尺約1/1,000）



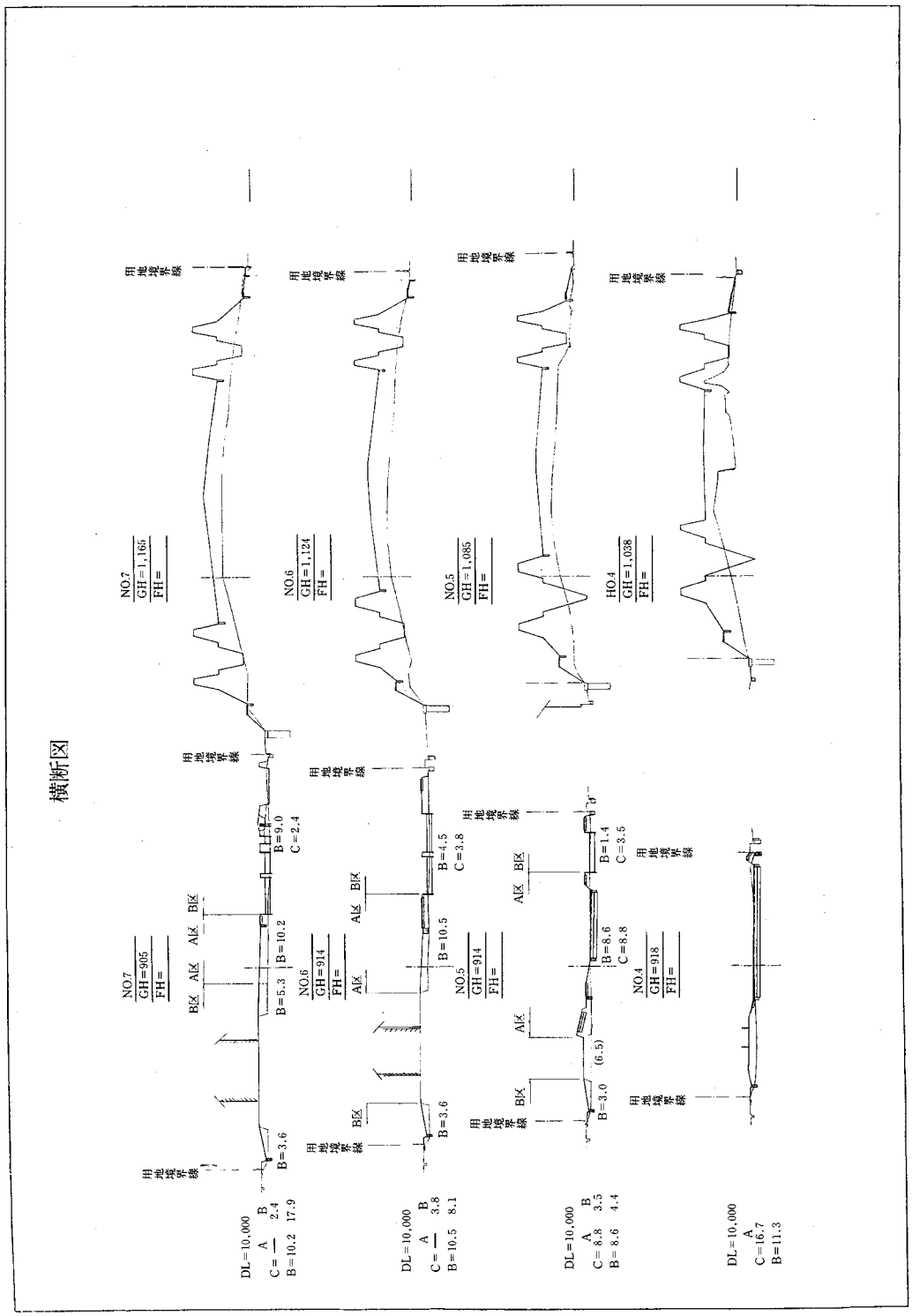

**第23図**　板付遺跡基本設計図－３（縮尺約1/1,000）



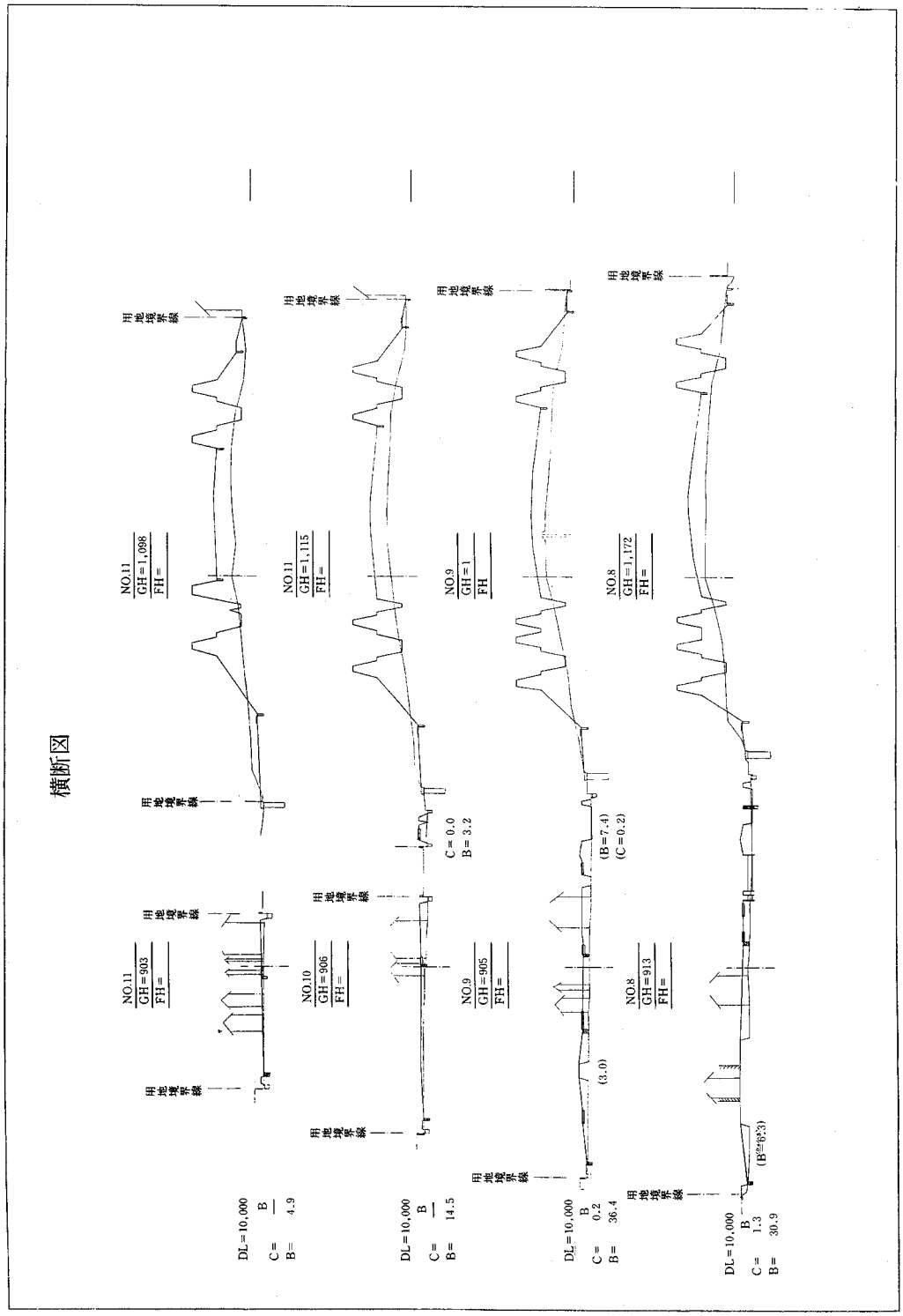

**第24図**　板付遺跡基本設計図－４（縮尺約1/1,000）




**第25図**　板付遺跡基本設計図－５（縮尺約1/1,000）




**第26図**　板付遺跡基本設計図－6（縮尺約1/1,000）




**第27図**　板付遺跡基本設計図－7（縮尺約1/1,000）

## (1) 水田の復原と活用について

Bゾーンに40.5×37.5mの面積で水田を復原する。

**整備工事基本仕様**

復原水田のモデルは、板付遺跡G－7b区で発見された弥生時代前期の水田とする。

G－7b区の発掘調査では、1枚の水田の大きさや井堰の規模など全貌が確認されているわけではないが、可能な限り発掘調査の結果に基づいて復原する。

外環濠の井堰や水田の取、排水口、および各水田の水口、水尻などで配水の仕組みがわかるようにする。

**① 復　　原**

**水　　田**

1．実施設計図では長方形区画の水田になっているが、G－7b区の発掘調査をもとに4枚の水田を復原する。

2．G－7b区では水田の長さは確認されていないが、1枚の水田だけは畦畔で囲む。

3．畦畔や各水田の段差は、ガイダンスの遺跡模型と整合性をもたせるようにする。

4．耕作土の厚さは、現在の水田耕作土にあわせて15cmにする。

（福岡市の現在の水田耕作土平均は12～15cmの厚さ）

**畦　　畔**

1．4枚の水田を区画する畦畔は外環濠の線にそろえて自然な感じに湾曲させる。

2．畦畔の幅は南北方向を東西方向に比べてやや幅広くする。

3．水口は発掘では確認されていないが、水の流れがわかるように4ケ所に設ける。

4．南北方向の畦畔には、発掘所見に合せて30～50cmの間隔で杭を打ち込む。また植物の茎を押し込んだ状況も確認されているので実際の農作業の時に入れ込む。

5．杭は長さや加工のわかるものが少ないが、約70～100cmの丸太杭や割杭を用いる。

6．杭は打ち込まれたように頭部を潰しておく。

**外 環 濠**

1．外環濠は井戸水を汲み上げ、絶えず水が流れているようにする。

2．両岸は直線ではなくまた傾斜も均一にしないで、現在の小川のような景観にする。

3．丸太杭や横木を組んで井堰を作り、水位が上がり水田に配水されるようすがわかるようにする。

4．岸部には水田雑草を植え、外環濠には魚やアメンボウ、タイコウチなどの水中動物も飼う。また将来的には蛍やトンボが羽化するような環境づくりを考えたい。

5．井堰に接して丸木橋を作る。

**土　　手**

1．外環濠西側には、幅約８ｍの土手をつくる。

2．土手には、数本のカシを植える。

3．発掘所見に合わせて、水田への取水口を設ける。

4．この取水口には、丸太杭や割杭を２列に打ち込む。

5．水田耕作中には雑木や草などで水量を調整する。

**②復原水田の活用計画について**

1．弥生時代の水田を見せるだけでなく、この水田を使っての農作業や農耕儀礼も重要な展示物と考えられる。

このため季節ごとに農作業や農耕儀礼がわかるようにする。

**例**

- 外環濠の土手やガイダンス施設には、季節ごとの農作業や祈りがわかるように関連の道具を置いておく。

　　（春）　田起こしの道具（鍬や鋤）

　　（夏）　田植や草取りの道具

　　（秋）　収穫や脱穀の道具（石包丁、臼、杵）

　　（冬）　藁細工などの土間仕事の道具

- 外環濠の近くには、弥生土器の大壺、取水口には彩文小壺（いずれもレプリカ）を投げ入れて置く。
- 取水口の近くには、数本の杭を組み合わせて水田への祈りを表現する。

2．１年間の農耕行事と関連づけて、地域の人達や見学者の方々が参加する各種のイベントを企画する。

3．ガイダンス施設にも、弥生時代や最近までの農耕具を展示し、実際に農作業を実感できるようにする。

4．見学者の要望があればいつでも農作業をして貰えるように、各種の農具を用意しておく。

**問 題 点**

- 水田の維持管理
- 耕作土の確保
- 種籾の選定と確保（600㎡だと20キロの種籾が必要）

## (2) ガイダンス施設の展示等について

ガイダンス施設の展示については、「展示設計報告書」を委員会に提出し、審議していただいている。

これまでの審議結果に基づき、次のような展示計画を作成した。

日本の歴史に米が果たしてきた役割から板付遺跡をあらためて見直すと、単に「わが国で最古の水稲耕作のムラ」ということだけではなく、板付遺跡での米作りの開始が現代の生活に直結している事を理解できるような展示方法を考える必要がある。

そこで復原水田、ガイダンス施設の展示や映像内容、そしてAゾーンの竪穴住居や環濠などを関連させて活用する方法を計画してみた。

### ガイダンス施設

**1．映　　像**

見学者の年齢構成、目的などの違いに対応できるように3分程度のものを3本製作する。

A　「米作りを始めたムラ　板付遺跡」

板付遺跡の発見からこれまでの経過を追い、板付遺跡の内容とその重要性を明らかにする。（一般向け）

B　「板付ムラにようこそ」

板付ムラの腕白少年が、見学にきた現在の子供達を案内して、当時のムラのようすや家族の生活を説明する。（子供向け）

C　「激動の弥生時代」

板付遺跡で始まった米作りが、その後どのような結果を招いたかを他の遺跡の資料などを使って構成し説明する。（一般向け）

**2．展　　示**

- ガラスケースは1～2個。

板付遺跡の土器や石器などの基本資料を展示する。

壁側を春、夏、秋、冬の四つのパートに分け、農耕生活がわかるような資料を展示する。

例　(春)　道具作り→土器や石器

　　(夏)　田植え　→木製農耕具

　　(秋)　収穫　　→石包丁　臼と杵

　　(冬)　年越準備→機械　藁細工

• これらの資料は、直接手にすることができ、また復原水田でも実際に使用できるように復製品を製作する。

比較のため最近の農具も展示する。

**3．リーフレット**

子供、一般向けの２種を作る。

• 子供向け→ワークシート形式で構成する。

　子供達はクイズを解きながら映像や内部の展示を見るように動機づける。

　一般向け→稲のきた道や板付遺跡の紹介をする。

**4．連絡誌「板付ムラ便り」の発行**

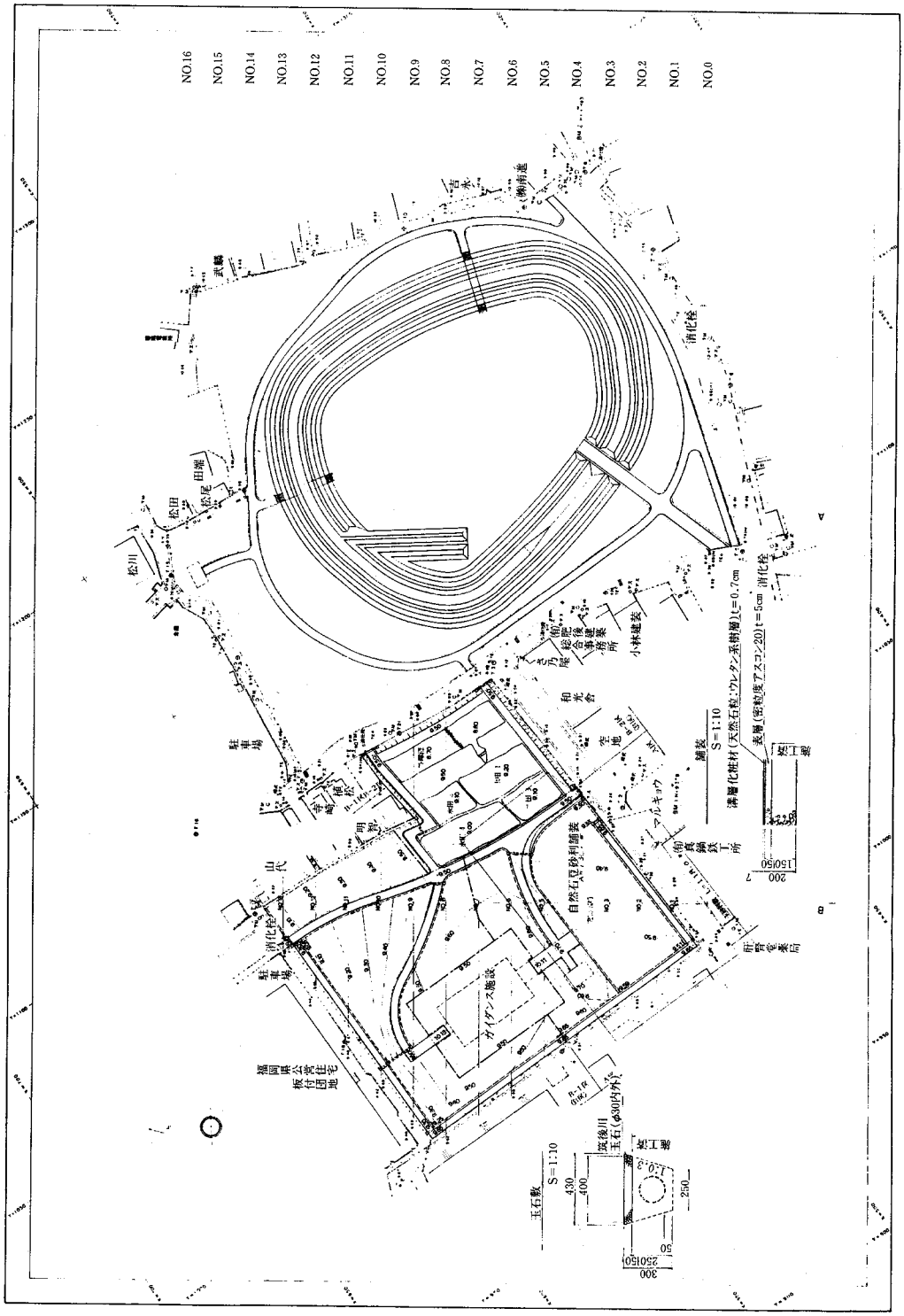
板付遺跡の催しや稲の生育状況などを周辺町内会や学校、そして関係者に配布して、たえず板付遺跡に関心を寄せて貰うようにする。

## 歴史の広場とＡゾーン

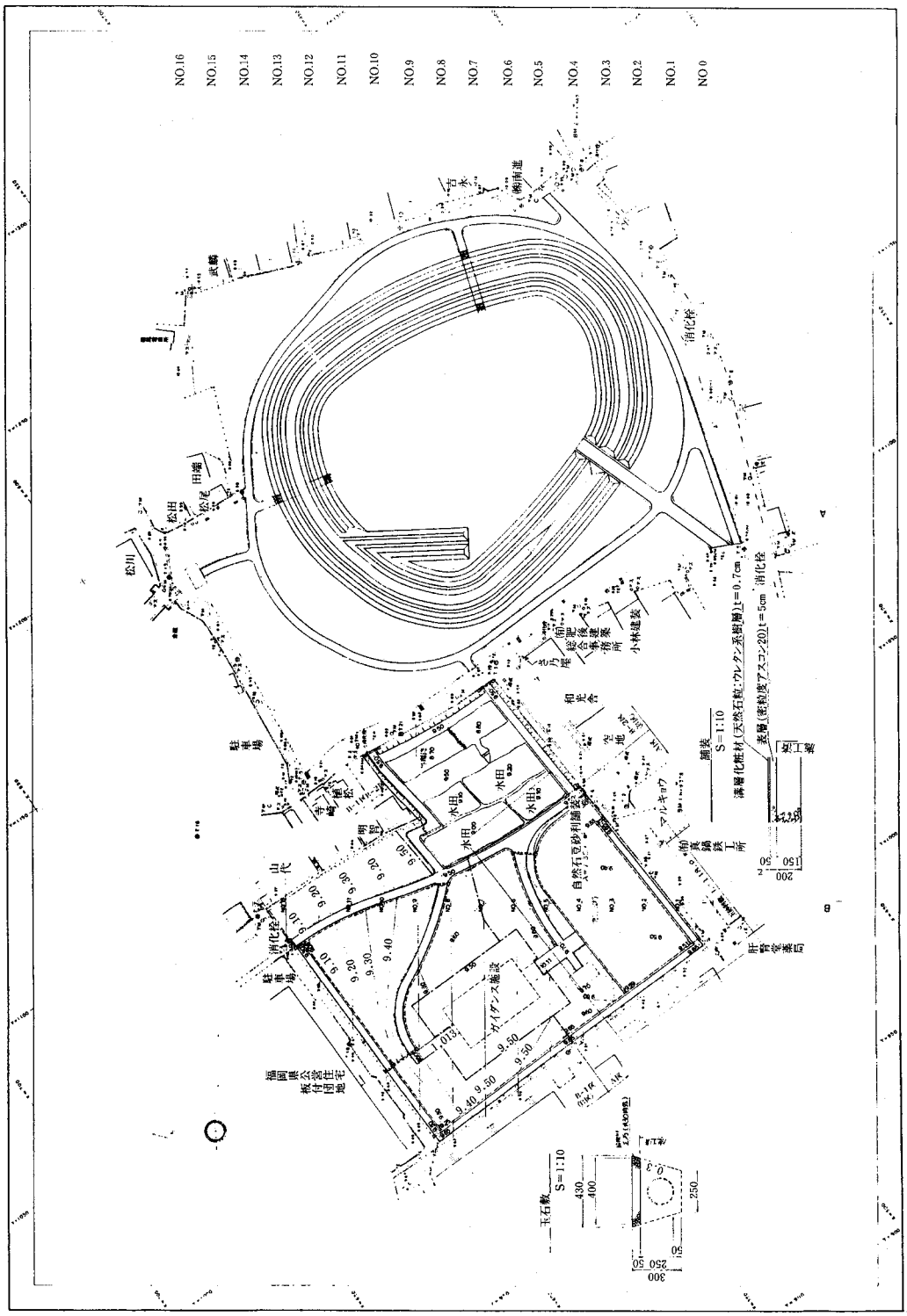
1．「板付ムラこよみ」に沿って定期的に子供、市民を対象とする体験教室を聞く。

2．地域作りや新しい文化の創造に関する市民の催しに対し場所と知恵を提供する。

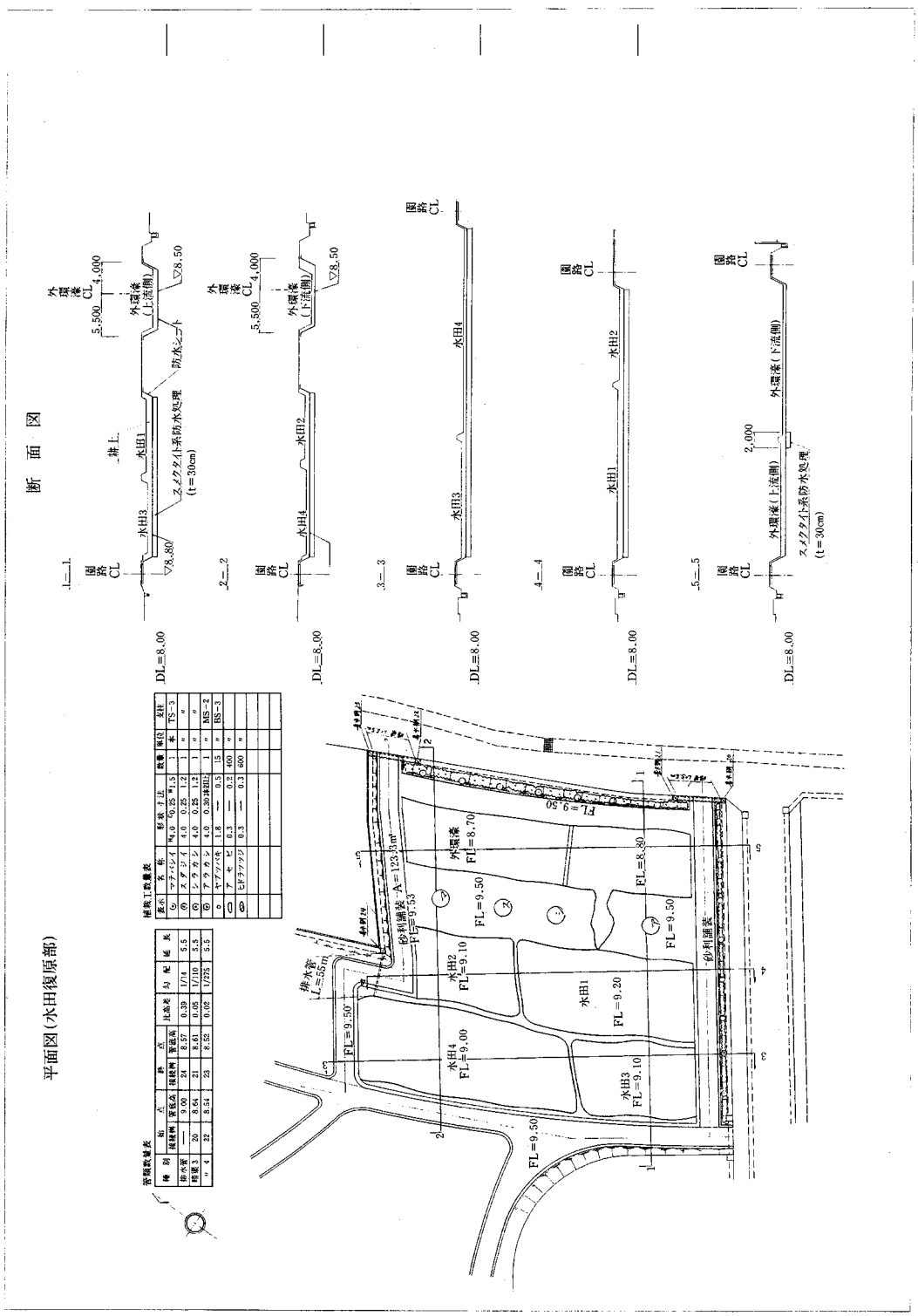
3．埋蔵文化財センター、博物館などの関連施設と密接に連携をとり、また他遺跡とのネットワークを図る。



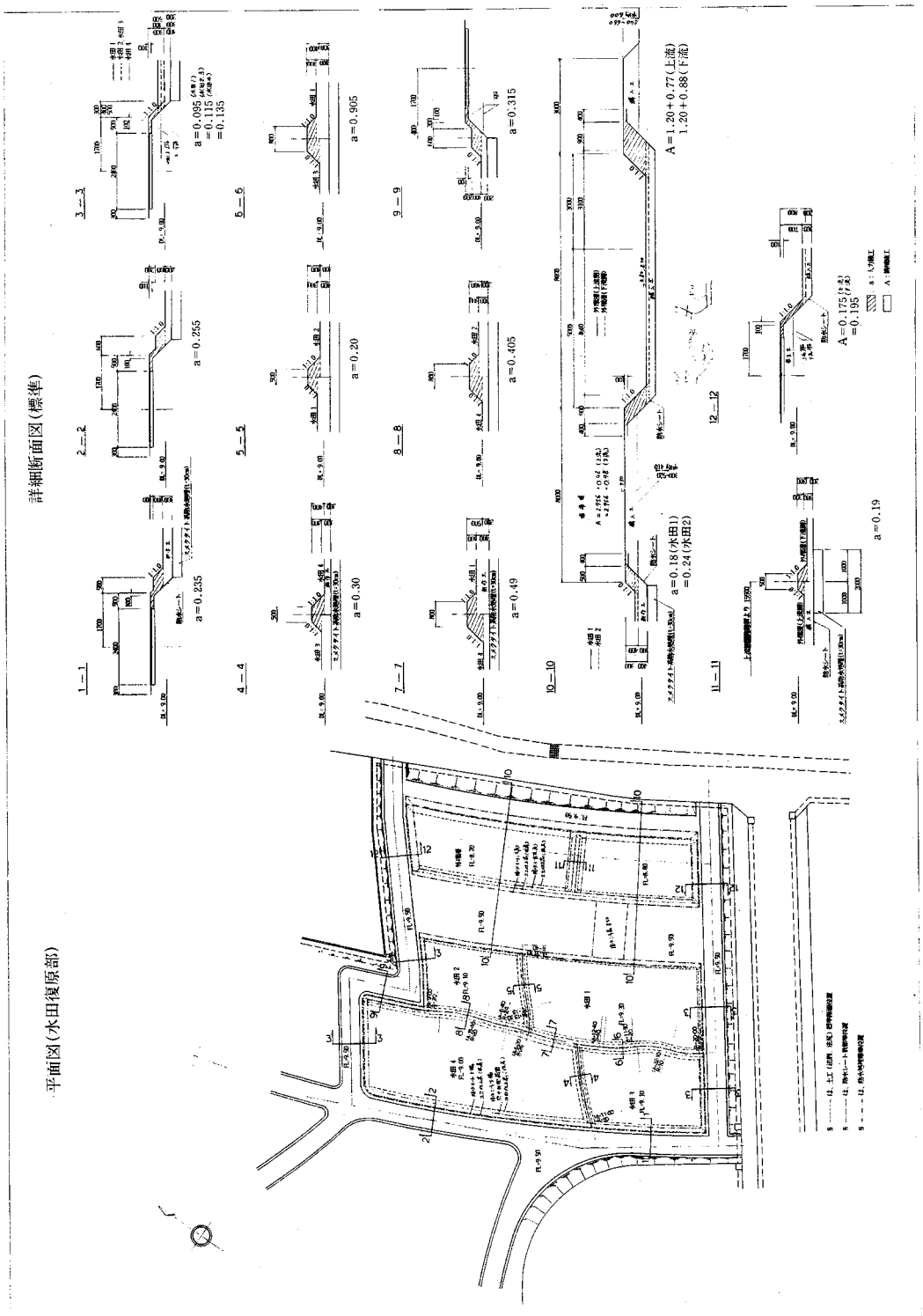

**第28図**　板付遺跡実施設計図－１（縮尺約1/1,000）




**第29図**　板付遺跡実施設計図－２（縮尺約1/1,000）

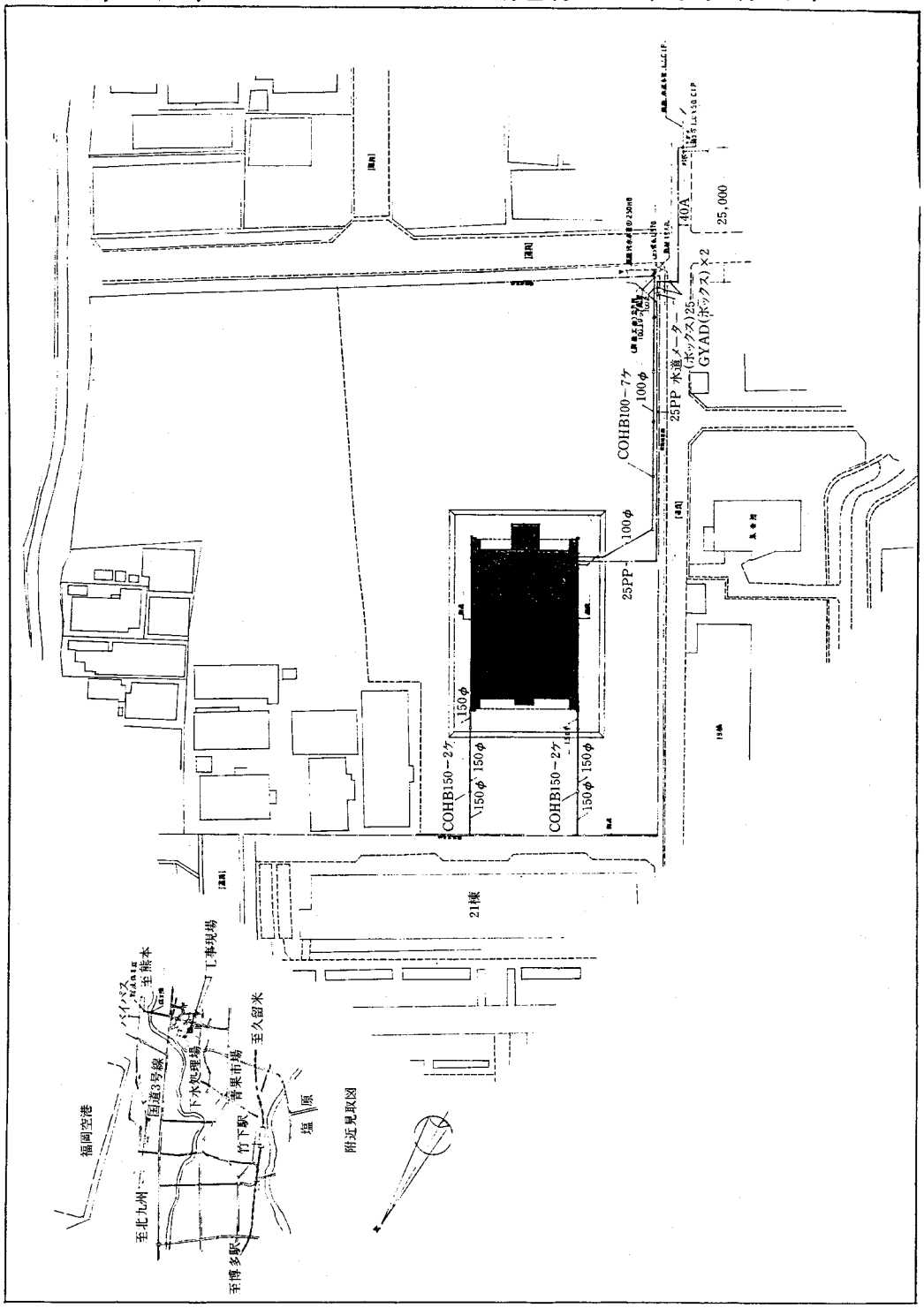



**第30図**　板付遺跡実施設計図－３（縮尺約1/1,000）

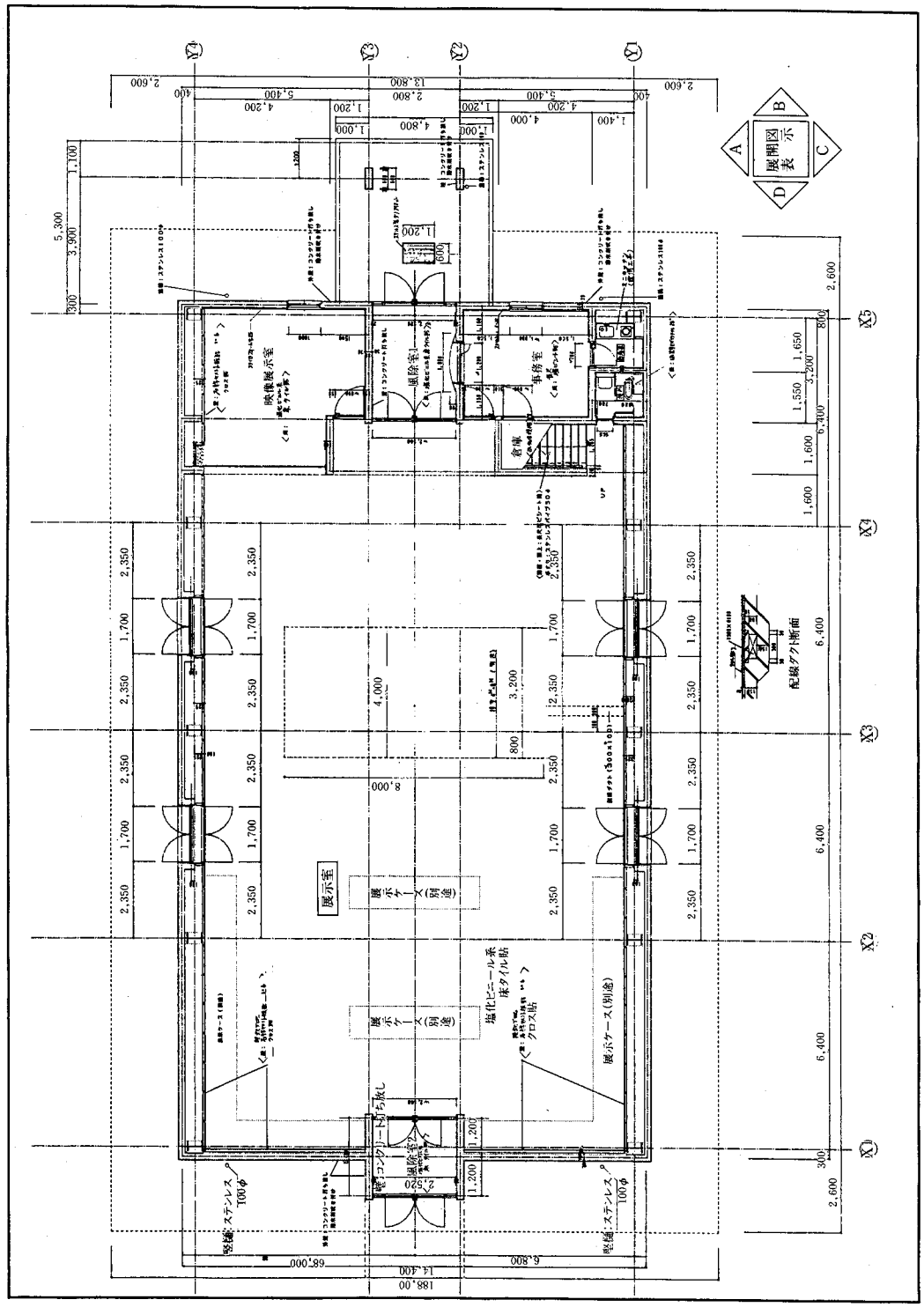



**第31図**　板付遺跡実施設計図－４（縮尺約1/1,000）

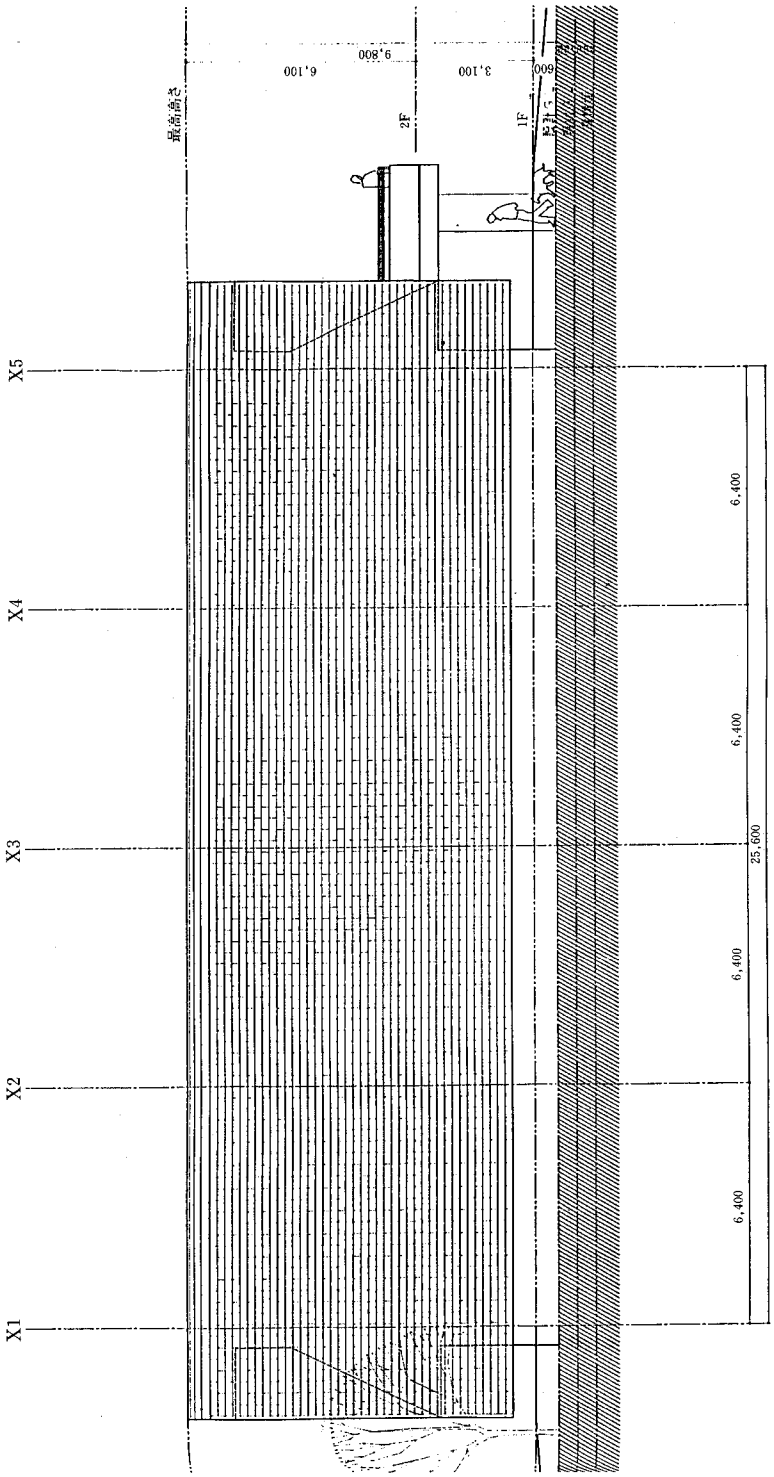
# 第Ⅳ章　ガイダンス施設と展示設計



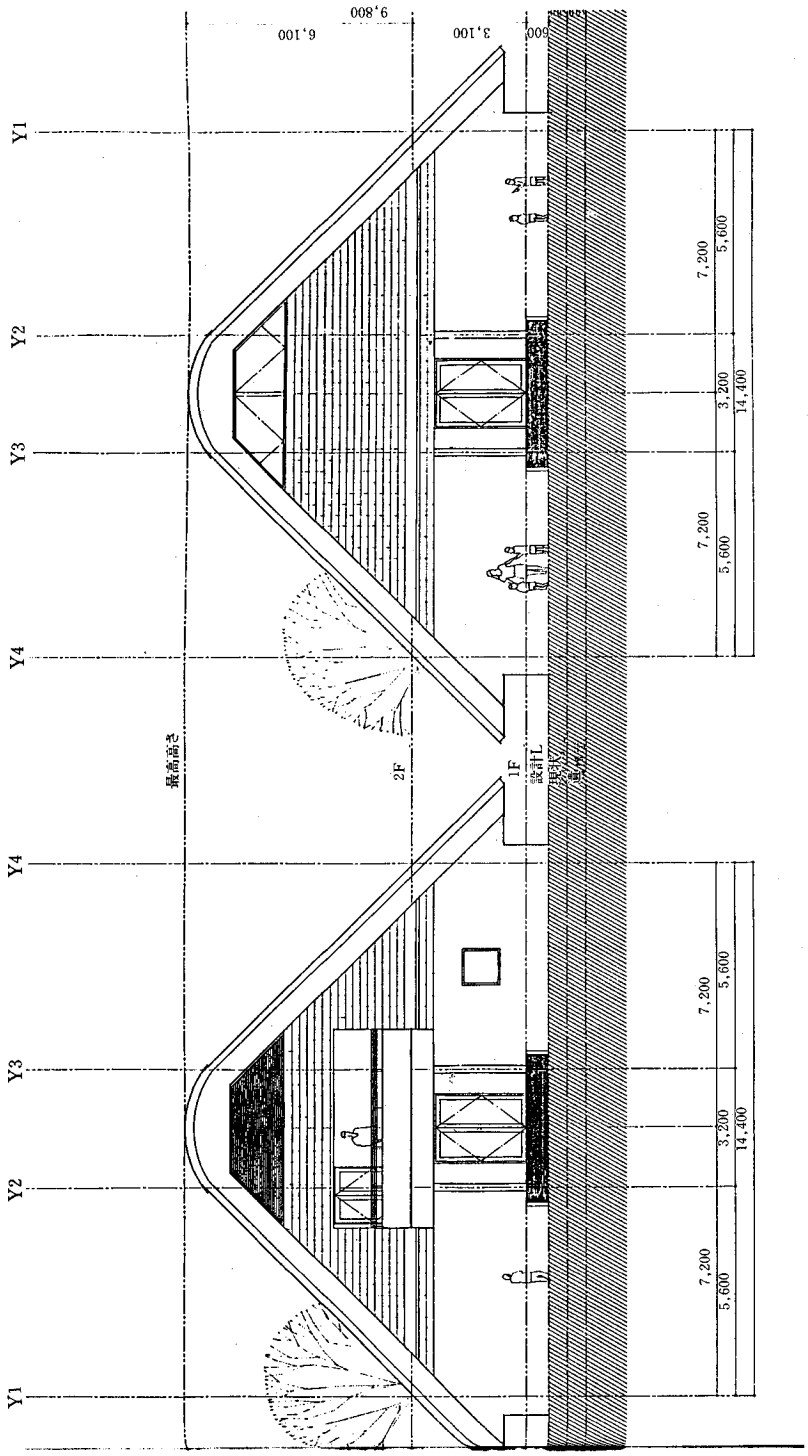

**第32図**　板付遺跡ガイダンス施設建設位置図



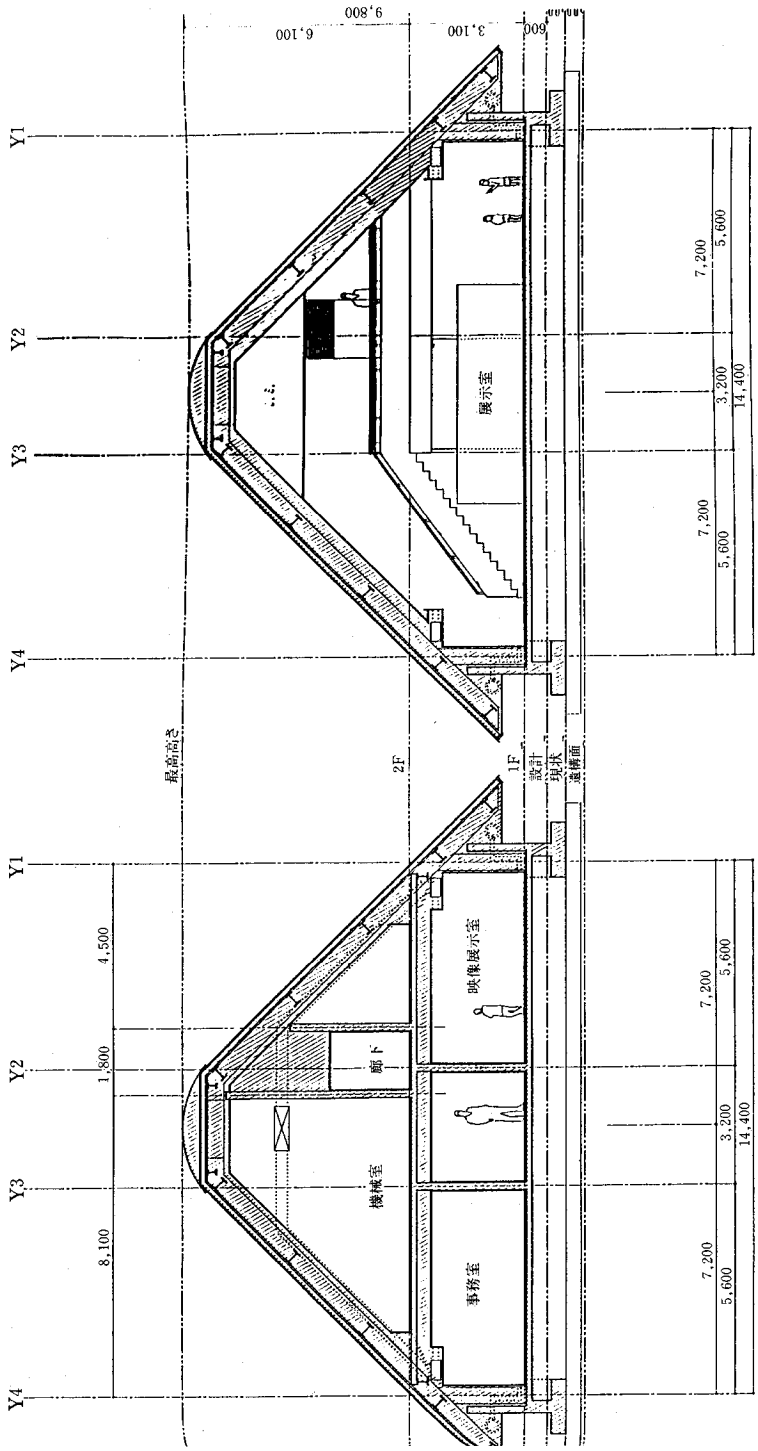

**第33図**　板付遺跡ガイダンス施設実施設計図－1



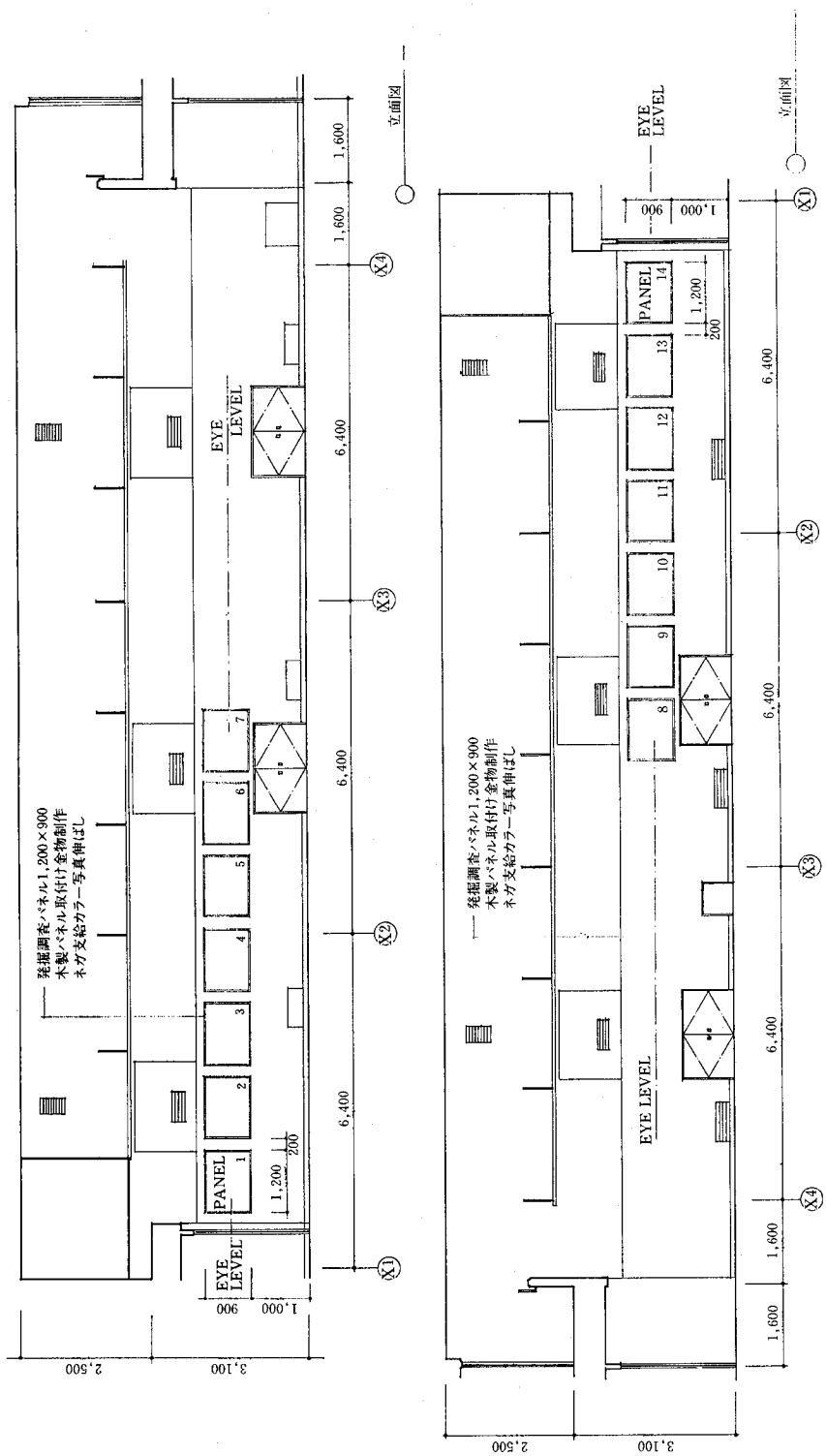

**第34図**　板付遺跡ガイダンス施設実施設計図－2



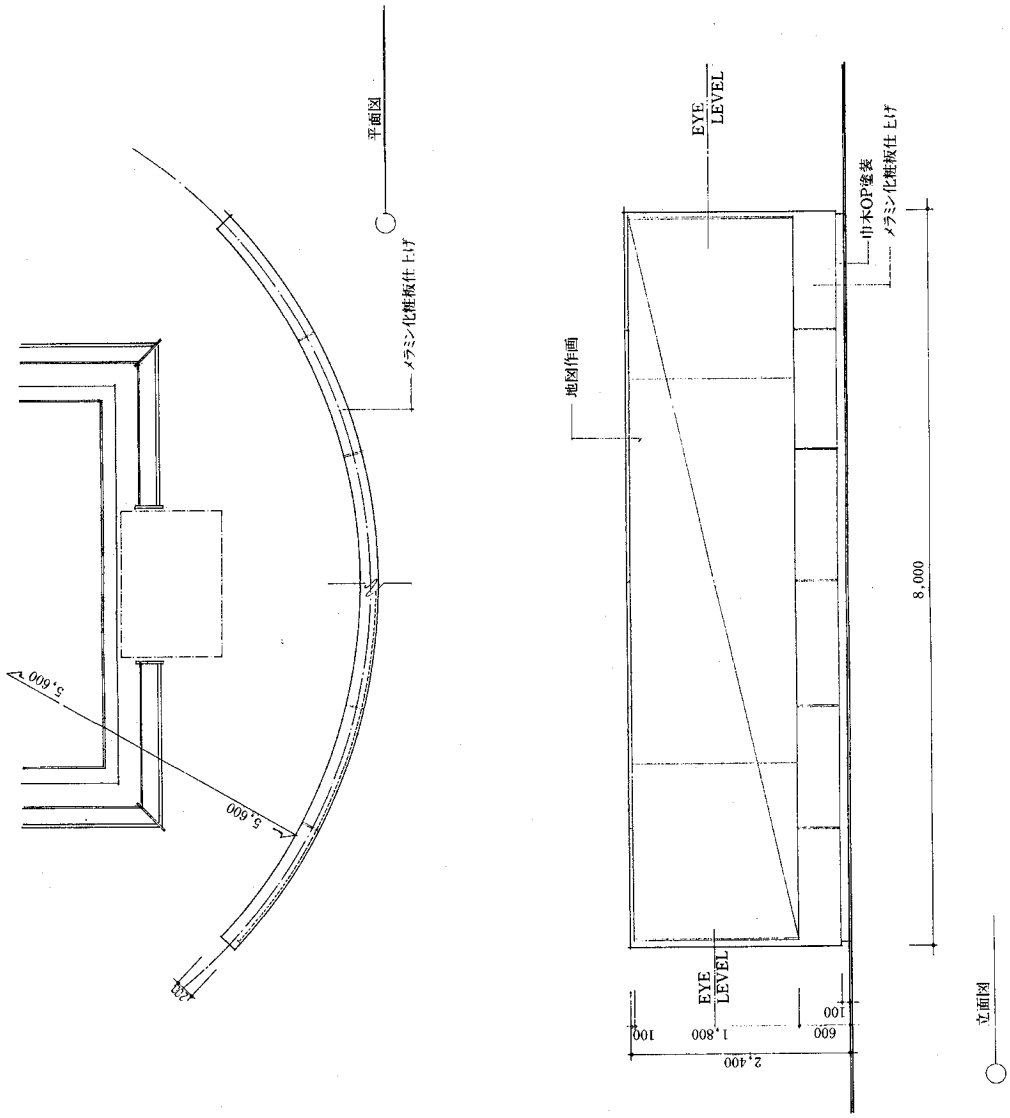

**第35図**　板付遺跡ガイダンス施設実施設計図－3



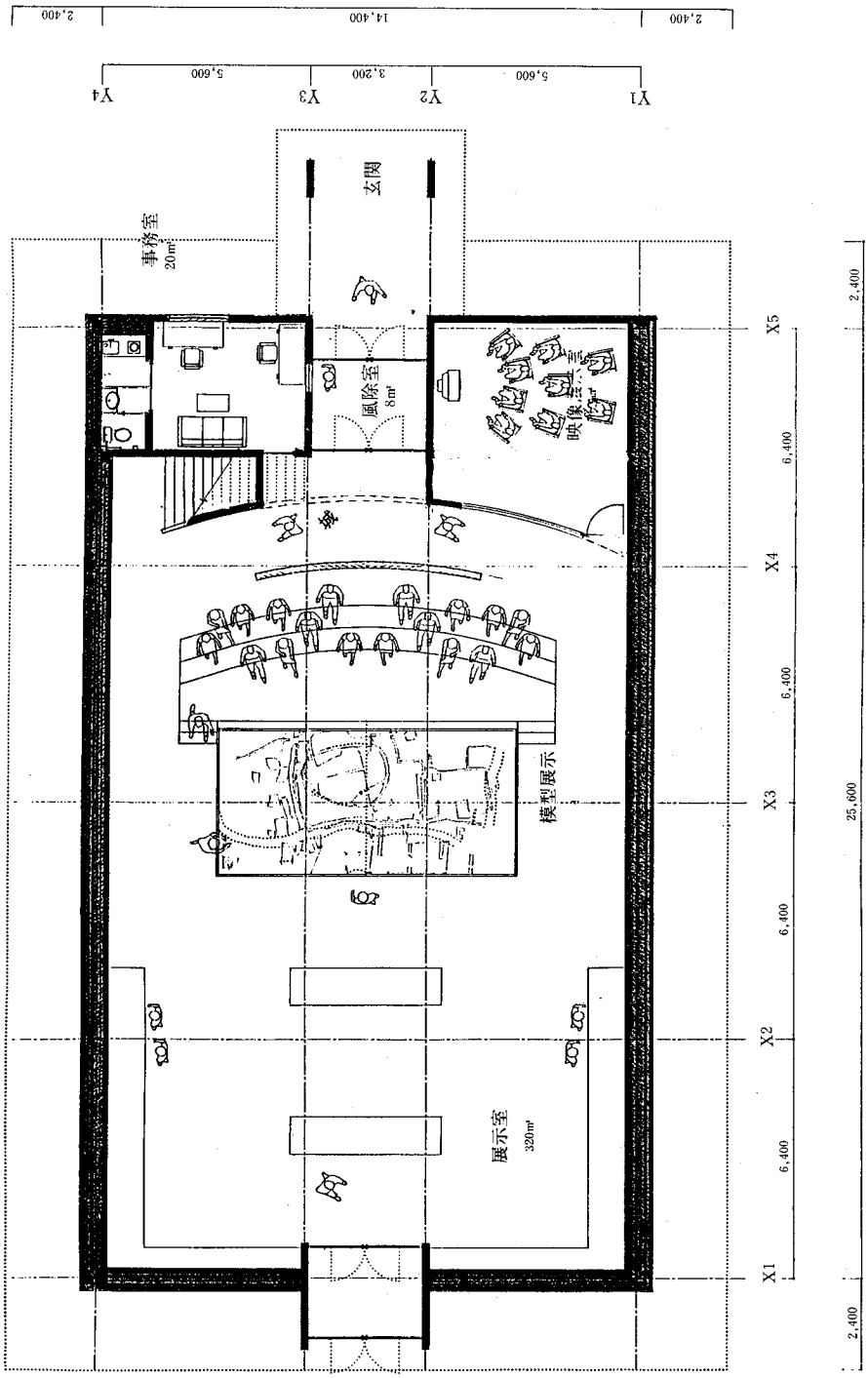

**第36図**　板付遺跡ガイダンス施設実施設計図－4



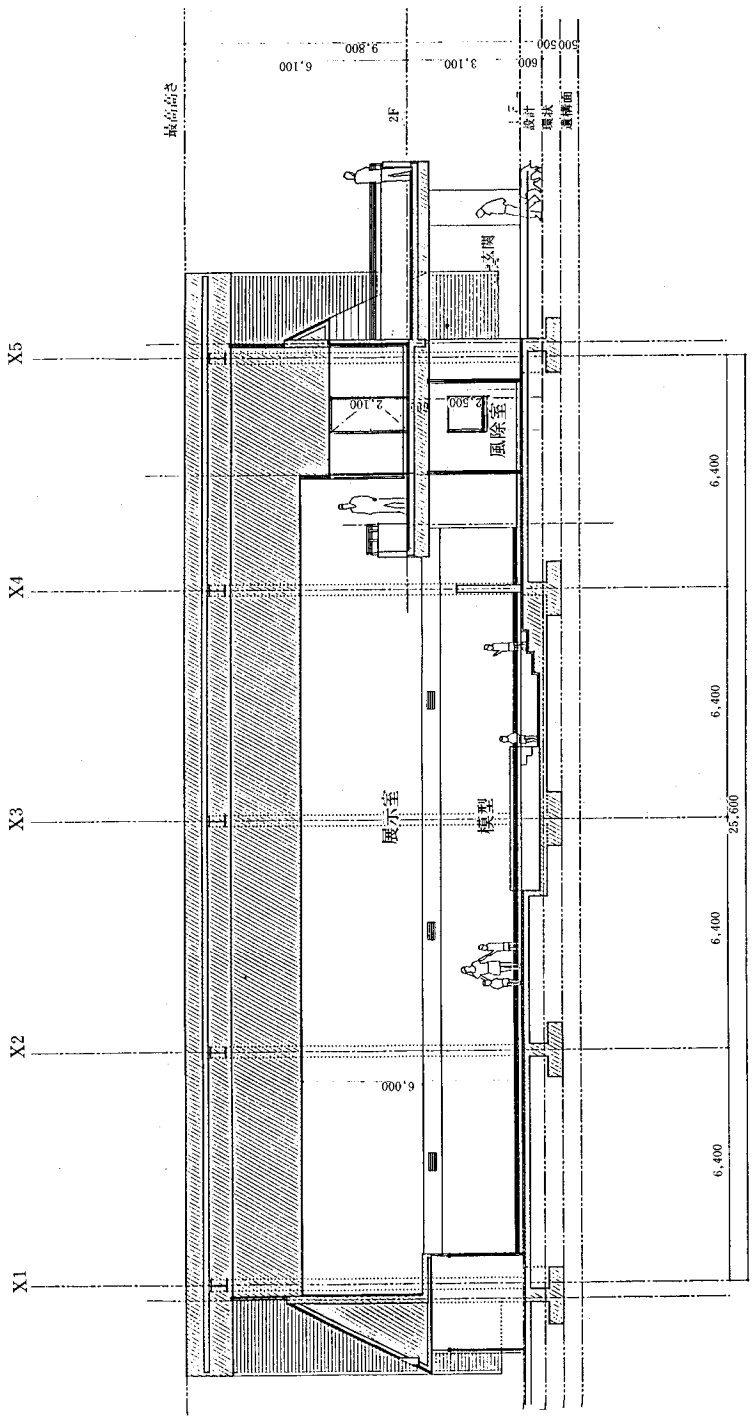

**第37図**　板付遺跡ガイダンス施設内展示基本設計図－1



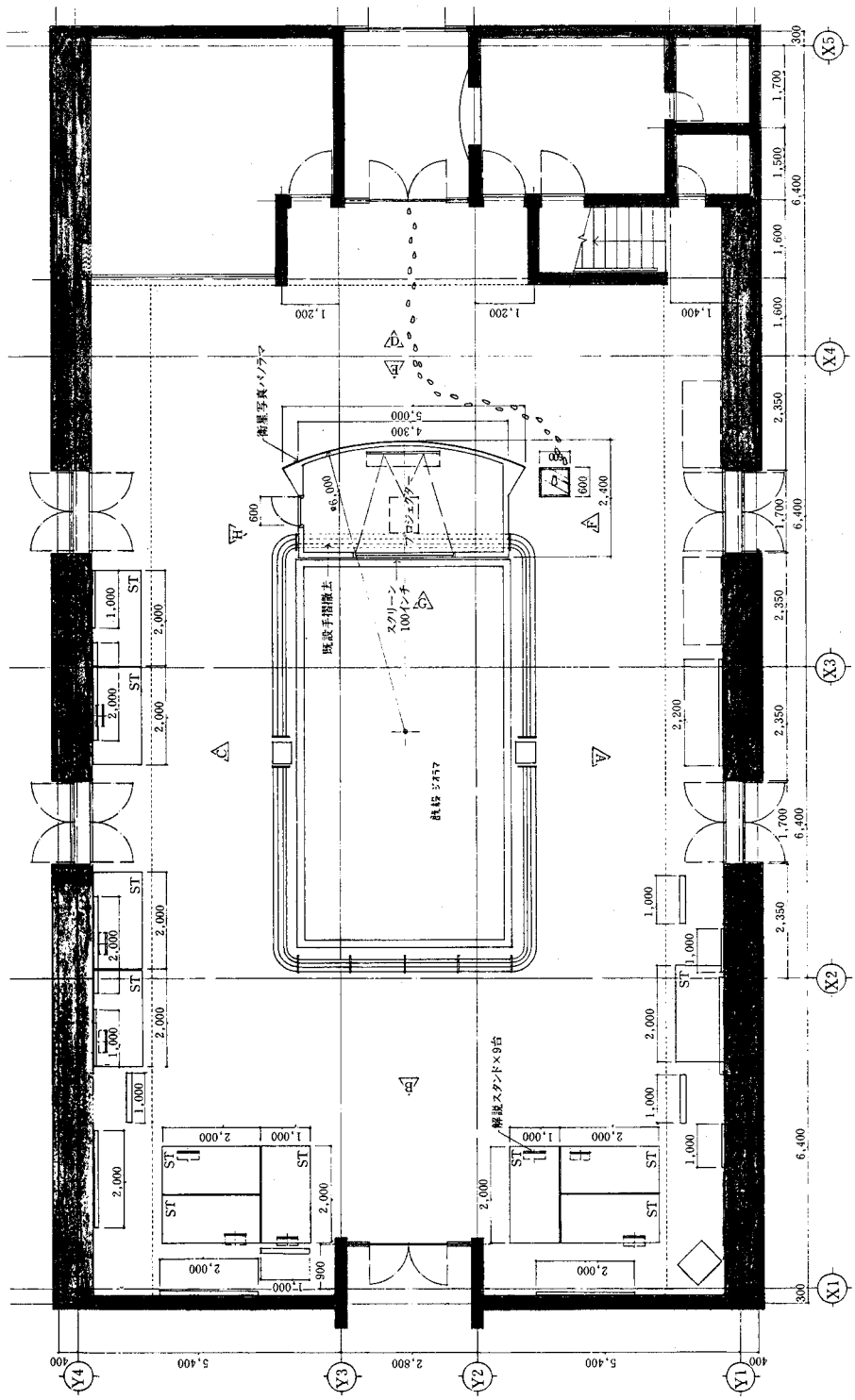

**第38図**　板付遺跡ガイダンス施設内展示基本設計図－２



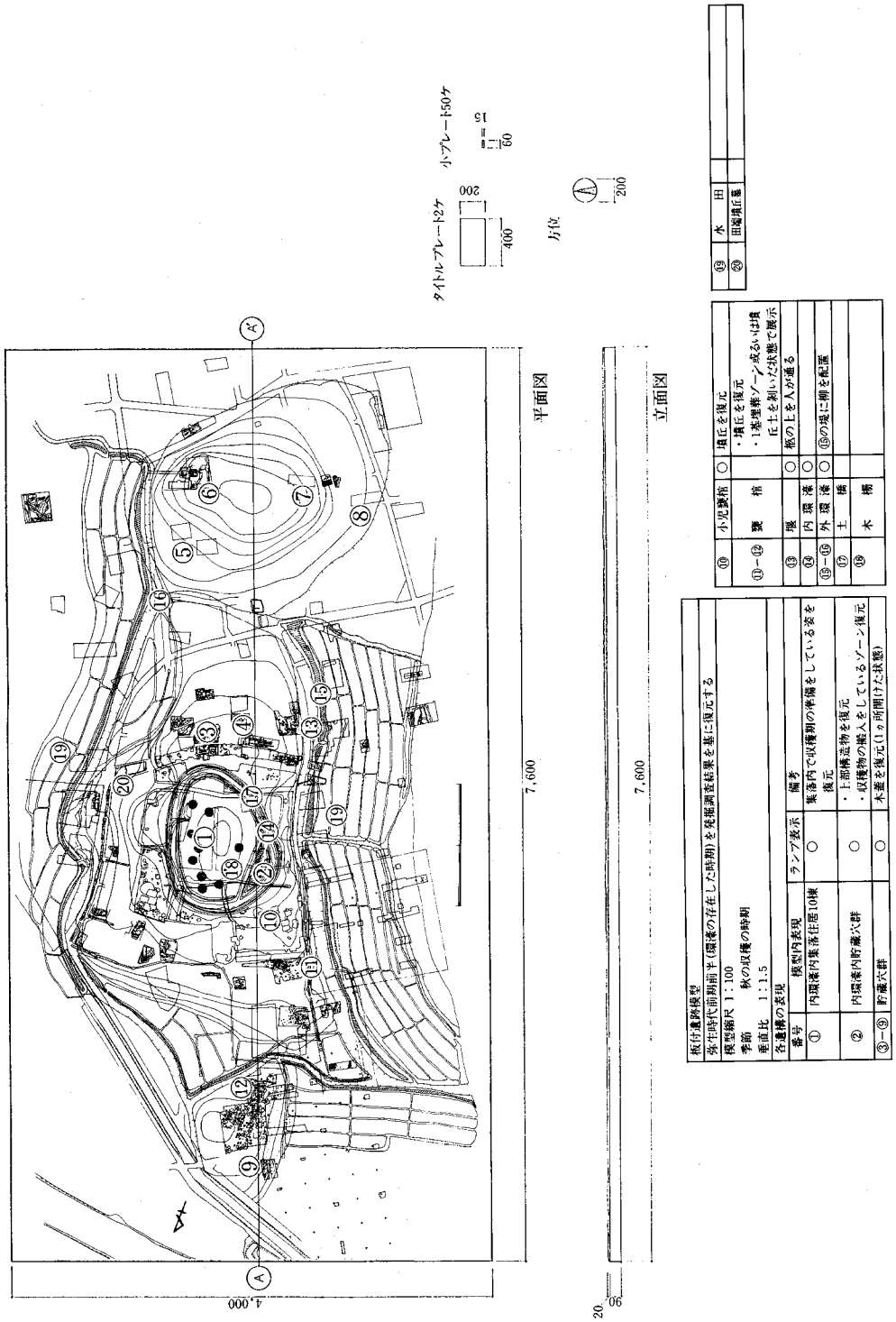

**第39図**　板付遺跡ガイダンス施設内展示基本設計図－3



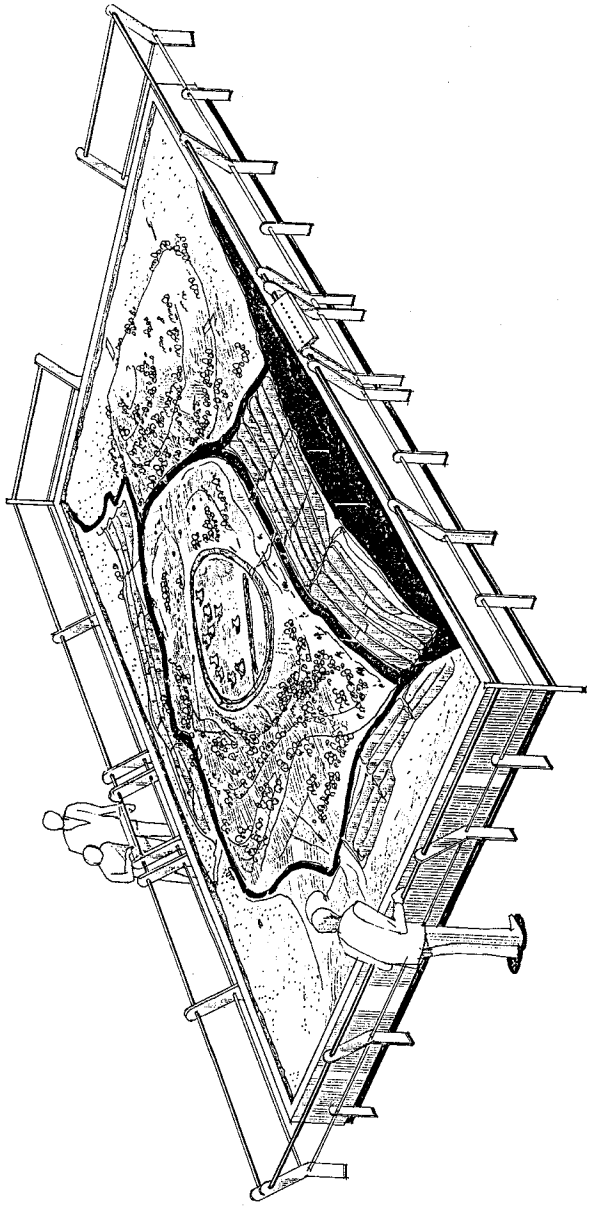

**第40図**　板付遺跡ガイダンス施設内展示基本設計図－4



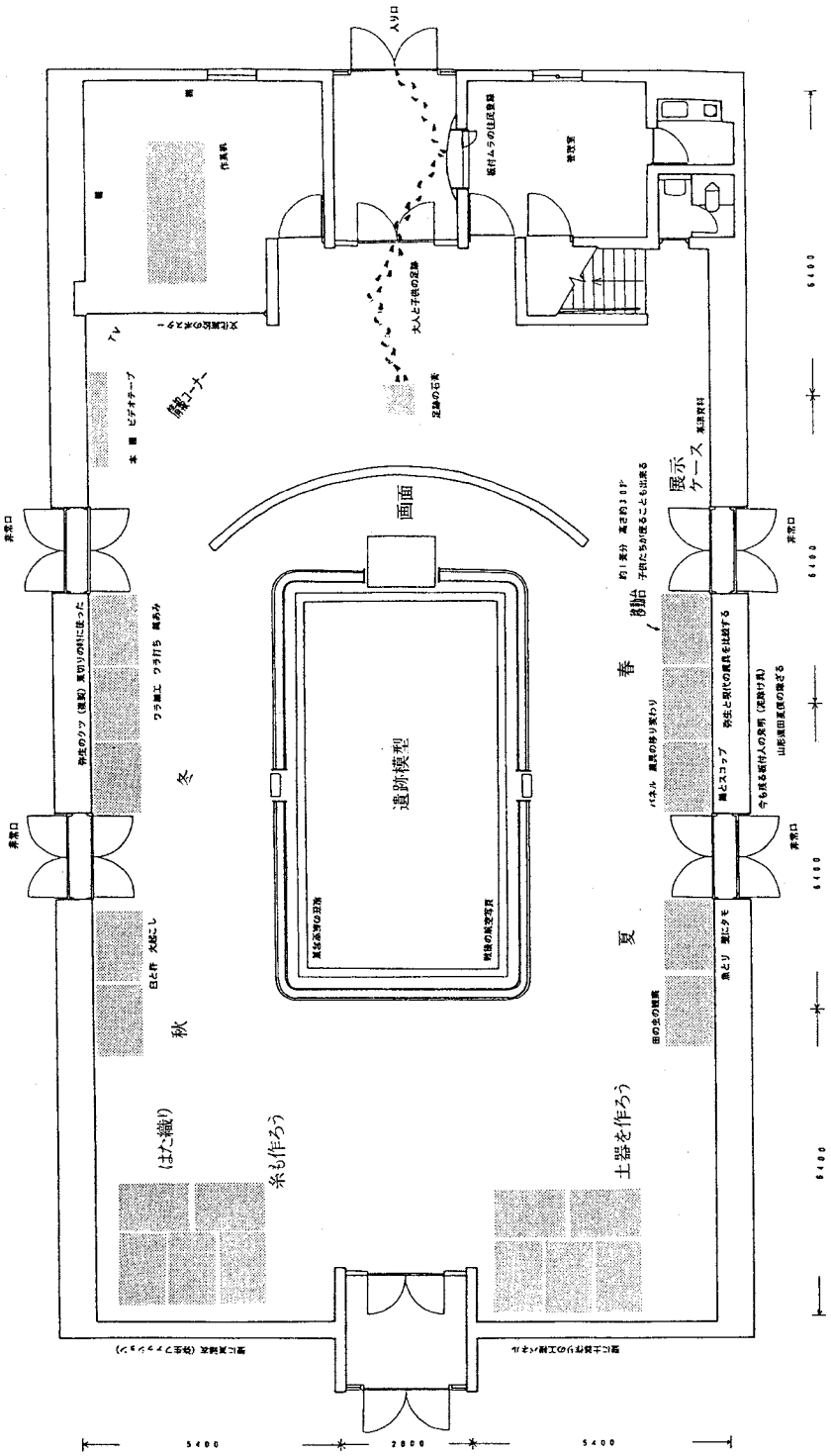

**第41図**　板付遺跡ガイダンス施設内展示実施設計図（平成３年度）



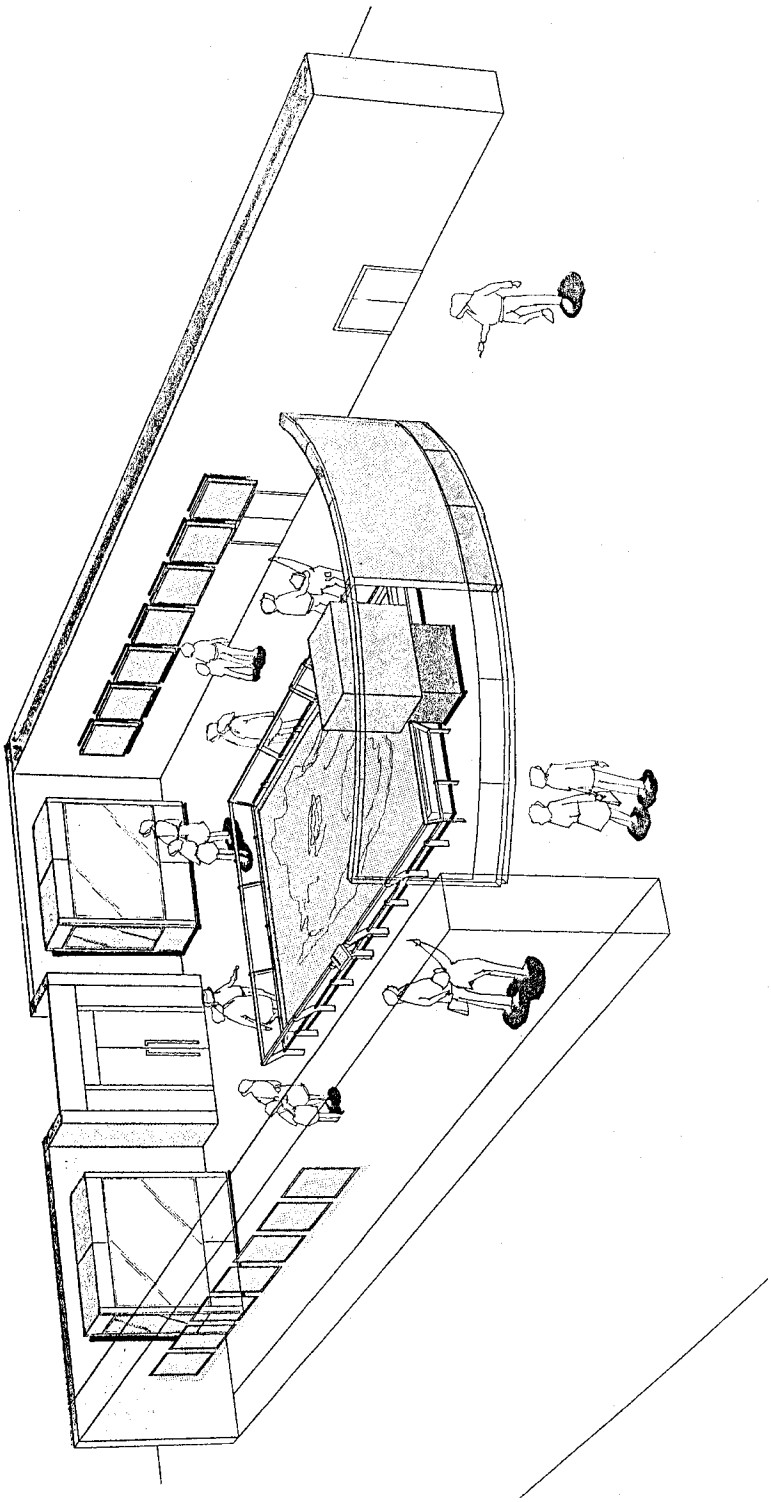

**第42図** 板付遺跡ガイダンス施設内大型模型仕様書



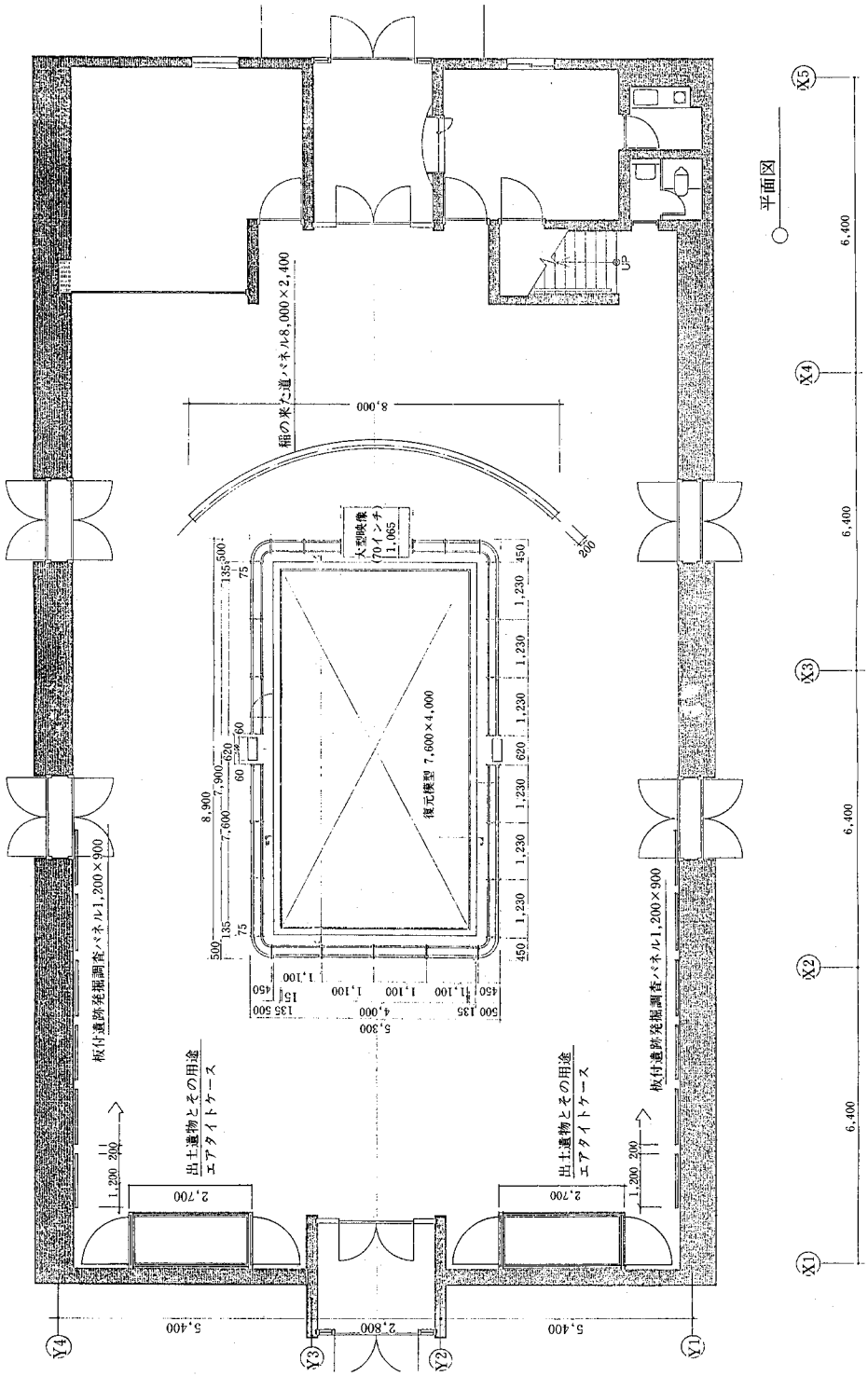
**第43図**　板付遺跡ガイダンス施設内大型模型鳥観図



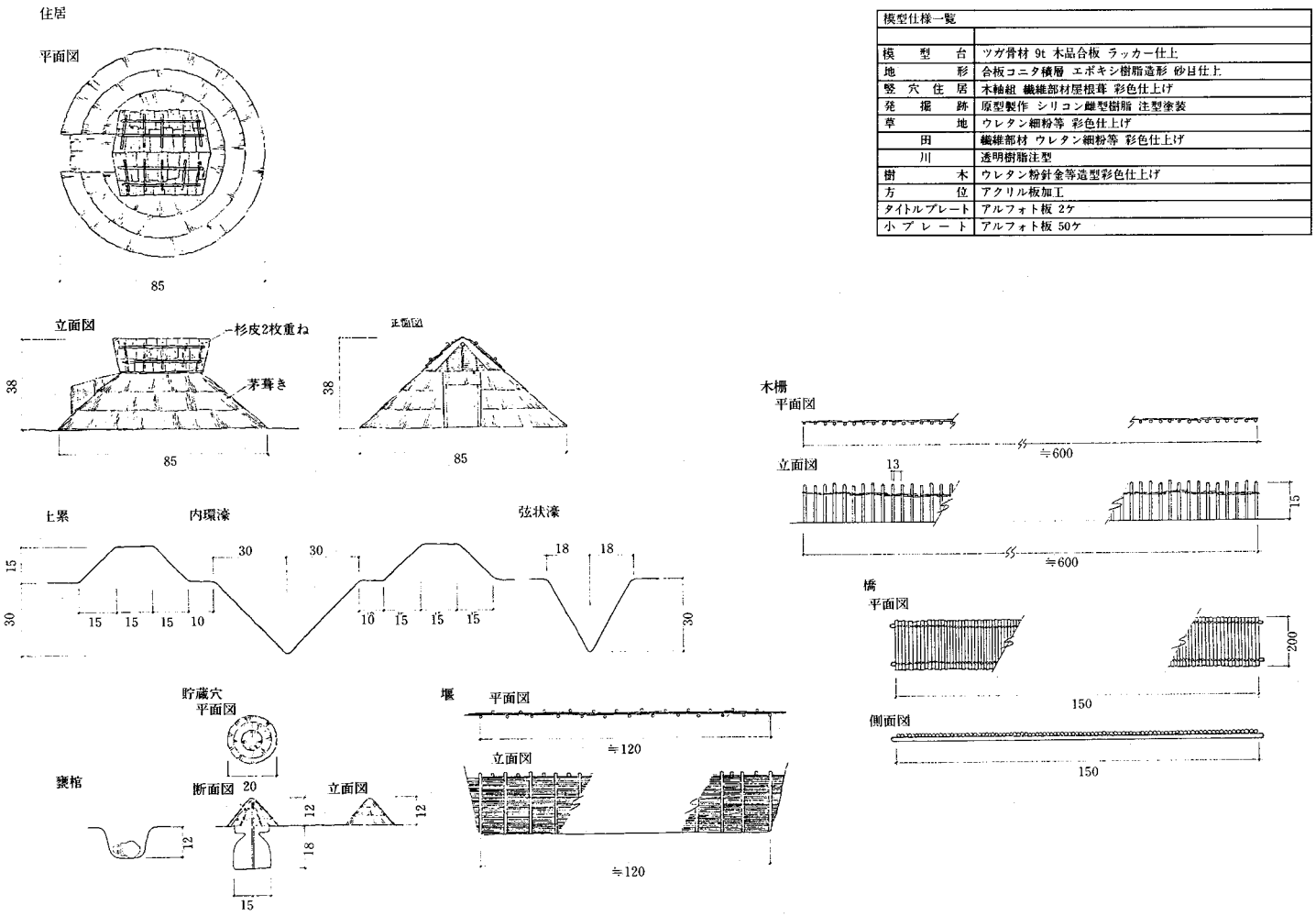

**第44図**　板付遺跡ガイダンス施設内展示実施設計図



**第45図**　板付遺跡ガイダンス施設内展示実施設計透視図

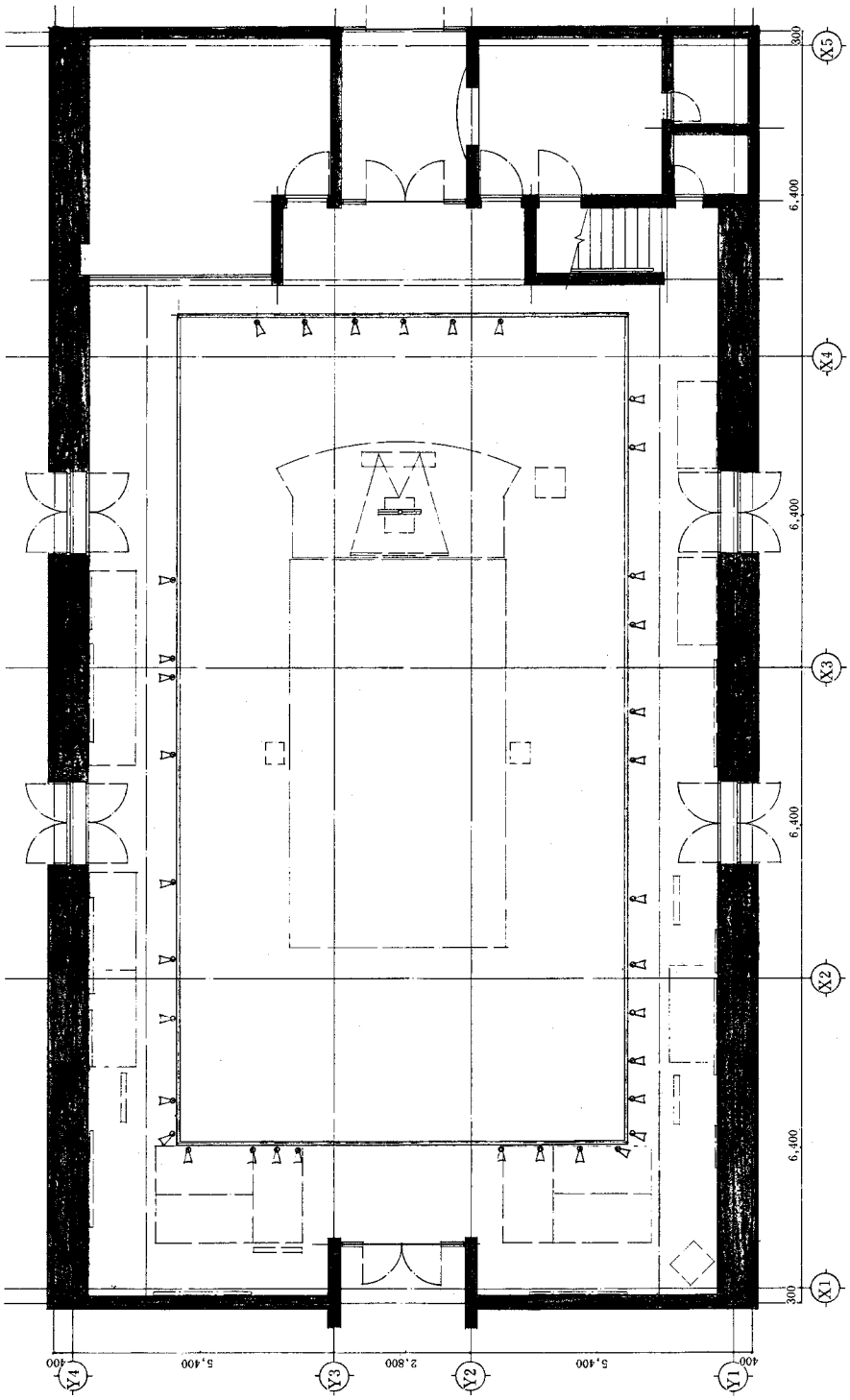



**第46図**　板付遺跡ガイダンス施設内展示実施設計図（平成元年度）

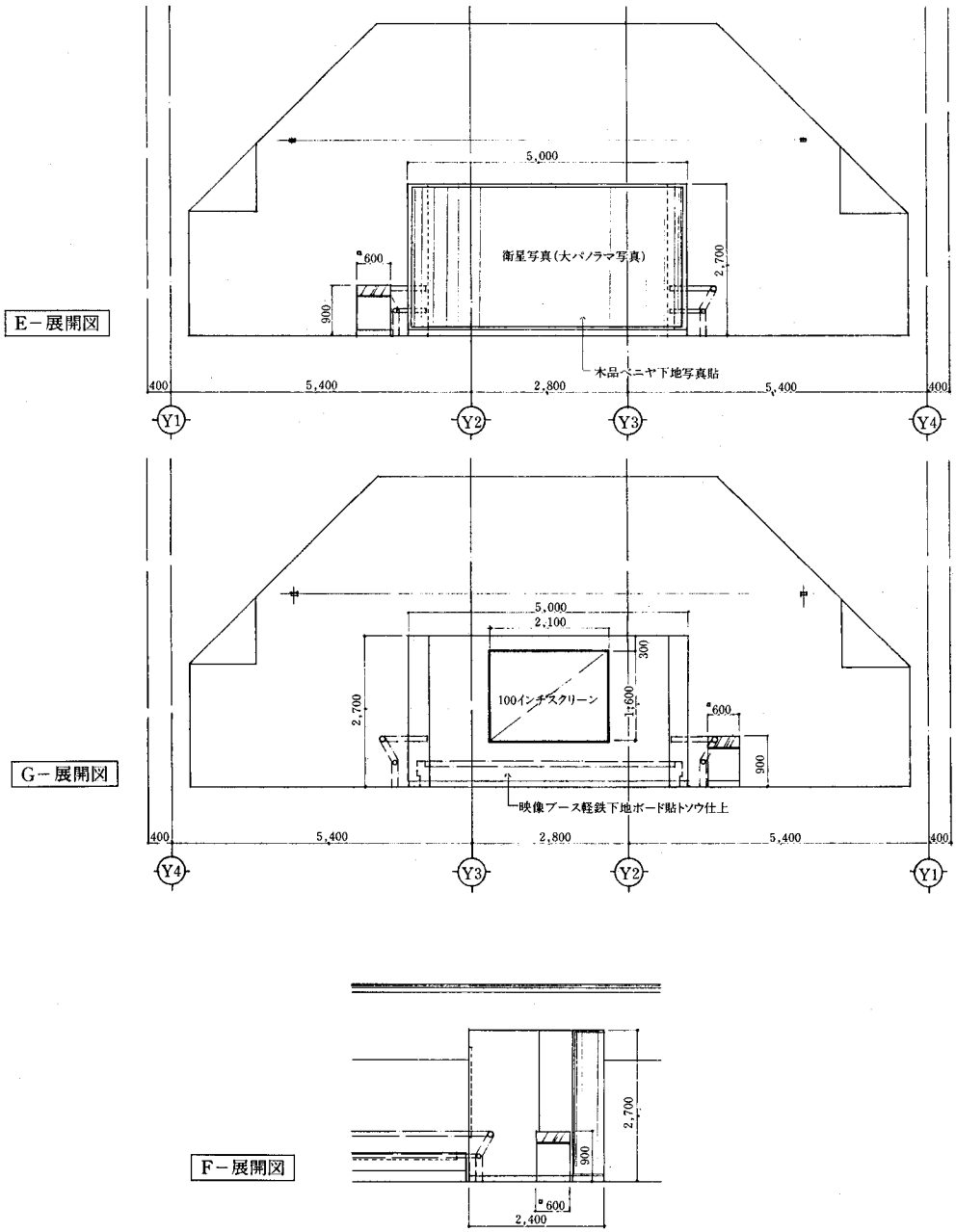



| 模型仕様一覧 | |
|---|---|
| | |
| 模　型　台 | ツガ骨材 9t 木品合板 ラッカー仕上 |
| 地　　形 | 合板コニタ積層 エポキシ樹脂造形 砂目仕上 |
| 竪穴住居 | 木軸組 繊維部材屋根葺 彩色仕上げ |
| 発掘跡 | 原型製作 シリコン雌型樹脂 注型塗装 |
| 草　　地 | ウレタン細粉等 彩色仕上げ |
| 田 | 繊維部材 ウレタン細粉等 彩色仕上げ |
| 川 | 透明樹脂注型 |
| 樹　　木 | ウレタン粉針金等造型彩色仕上げ |
| 方　　位 | アクリル板加工 |
| タイトルプレート | アルフォト板 2ケ |
| 小プレート | アルフォト板 50ケ |

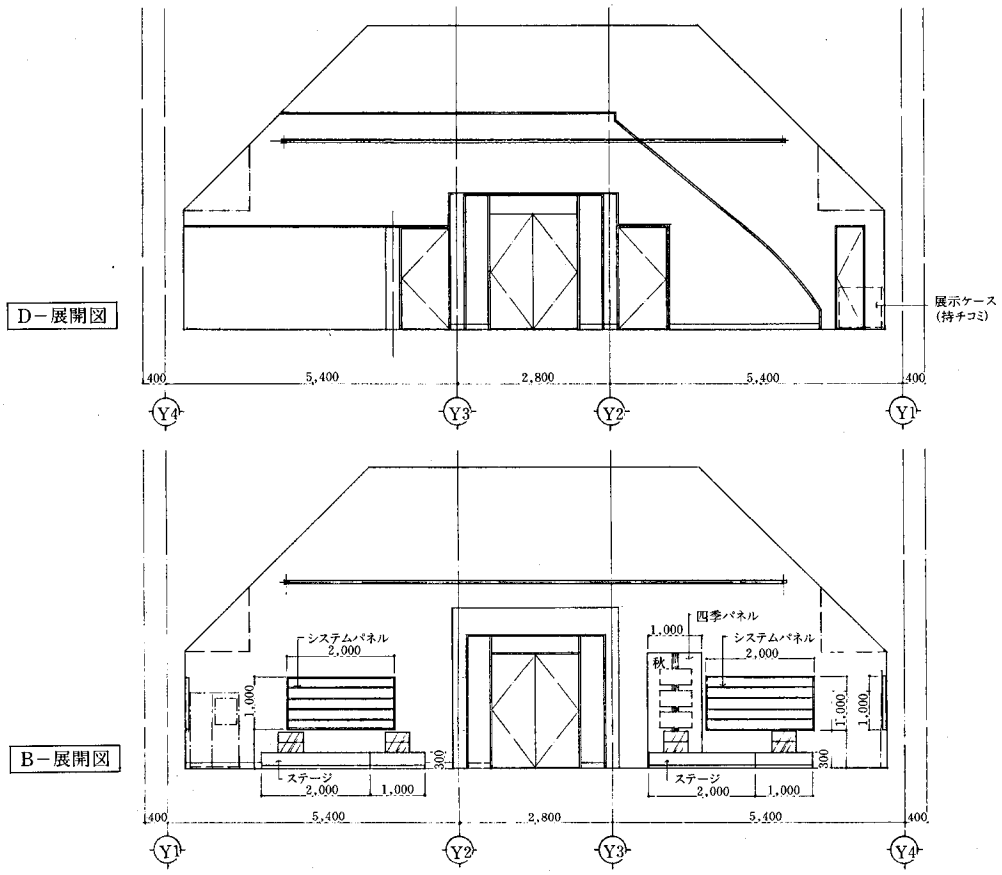
**第47図** 板付遺跡ガイダンス施設内大型模型詳細図

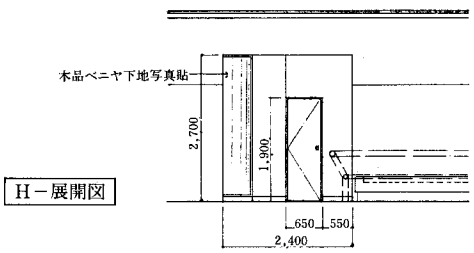



**第48図**　板付遺跡ガイダンス施設内映像・照明詳細図

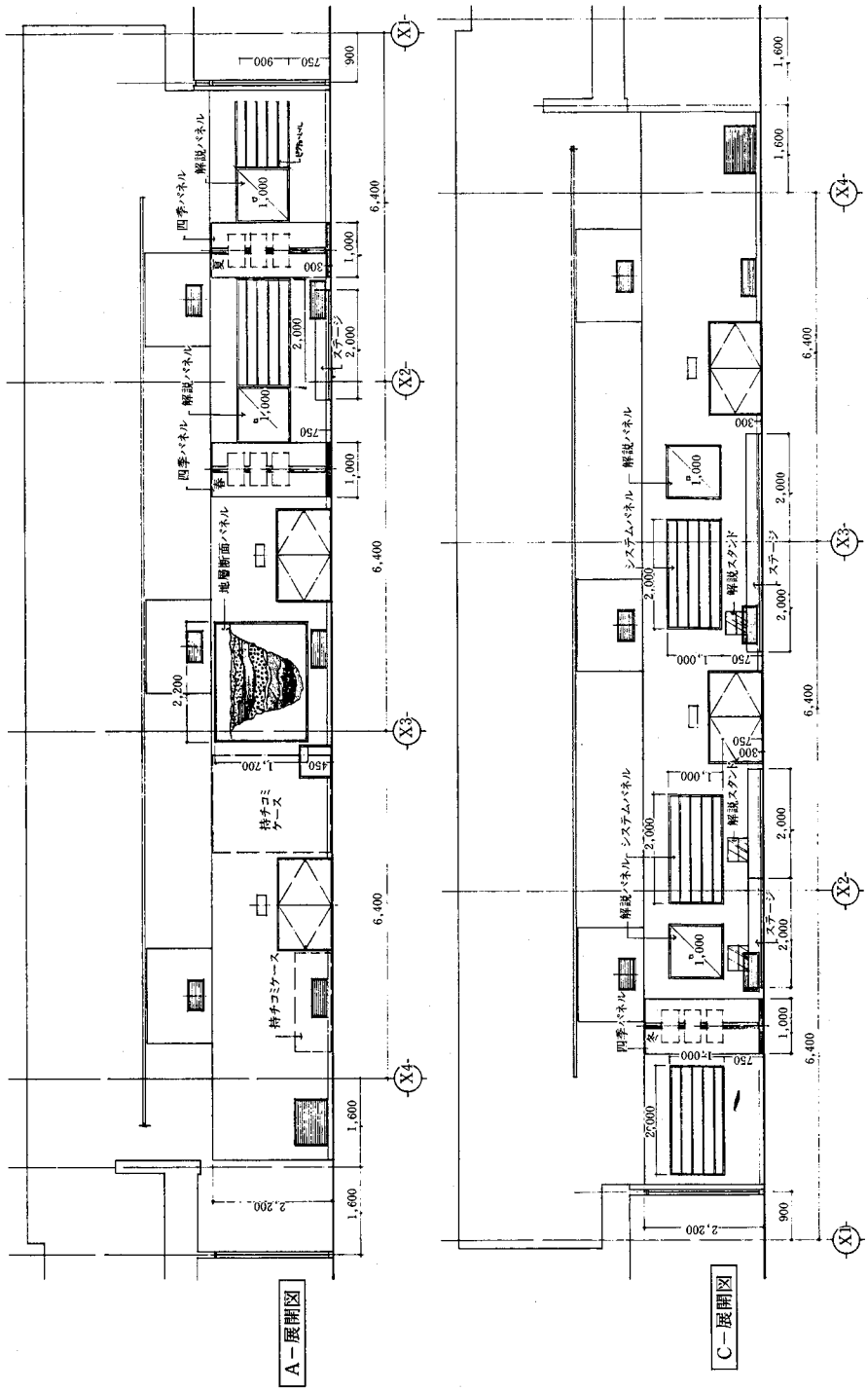



**第49図**　板付遺跡ガイダンス施設内映像詳細図

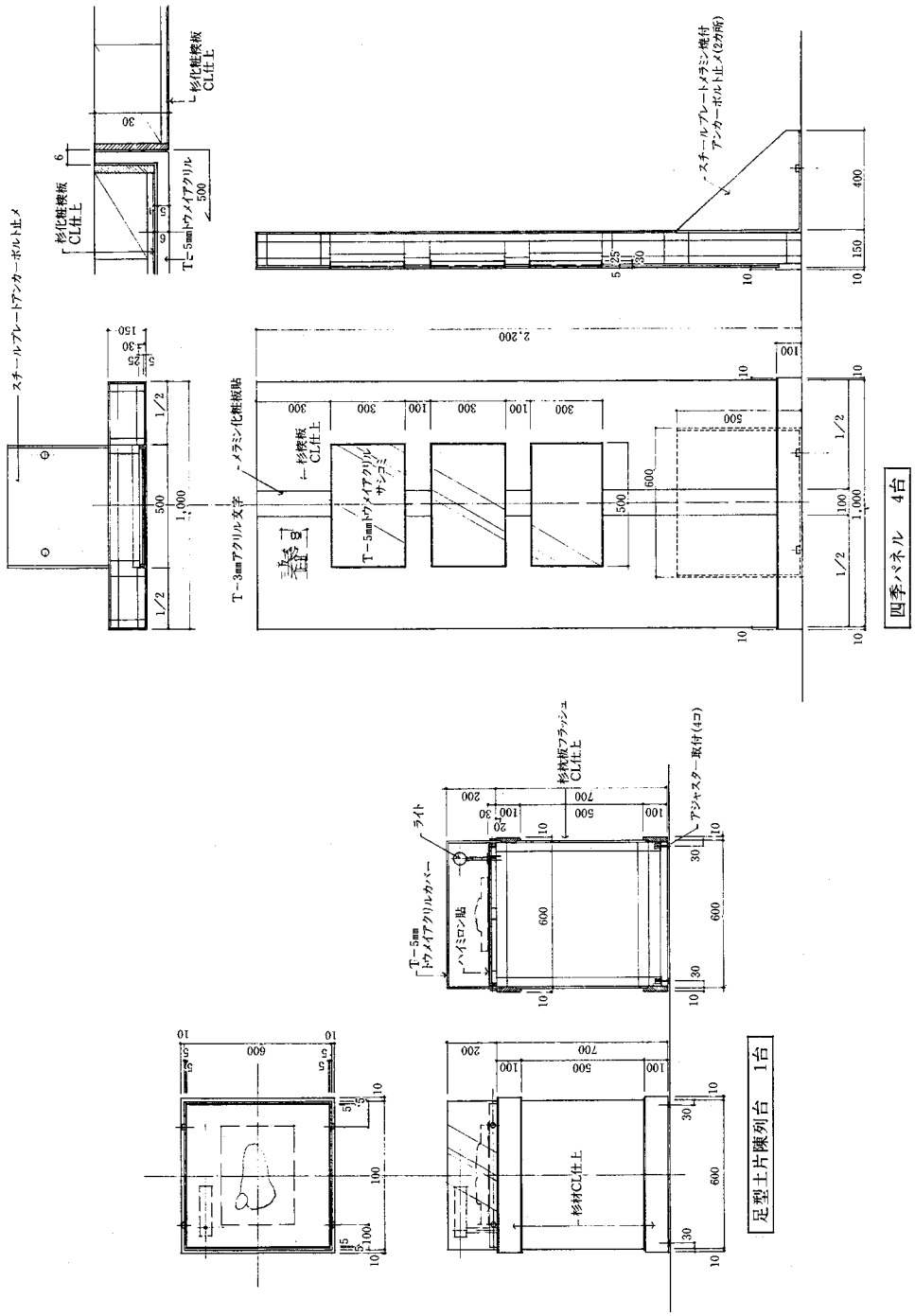


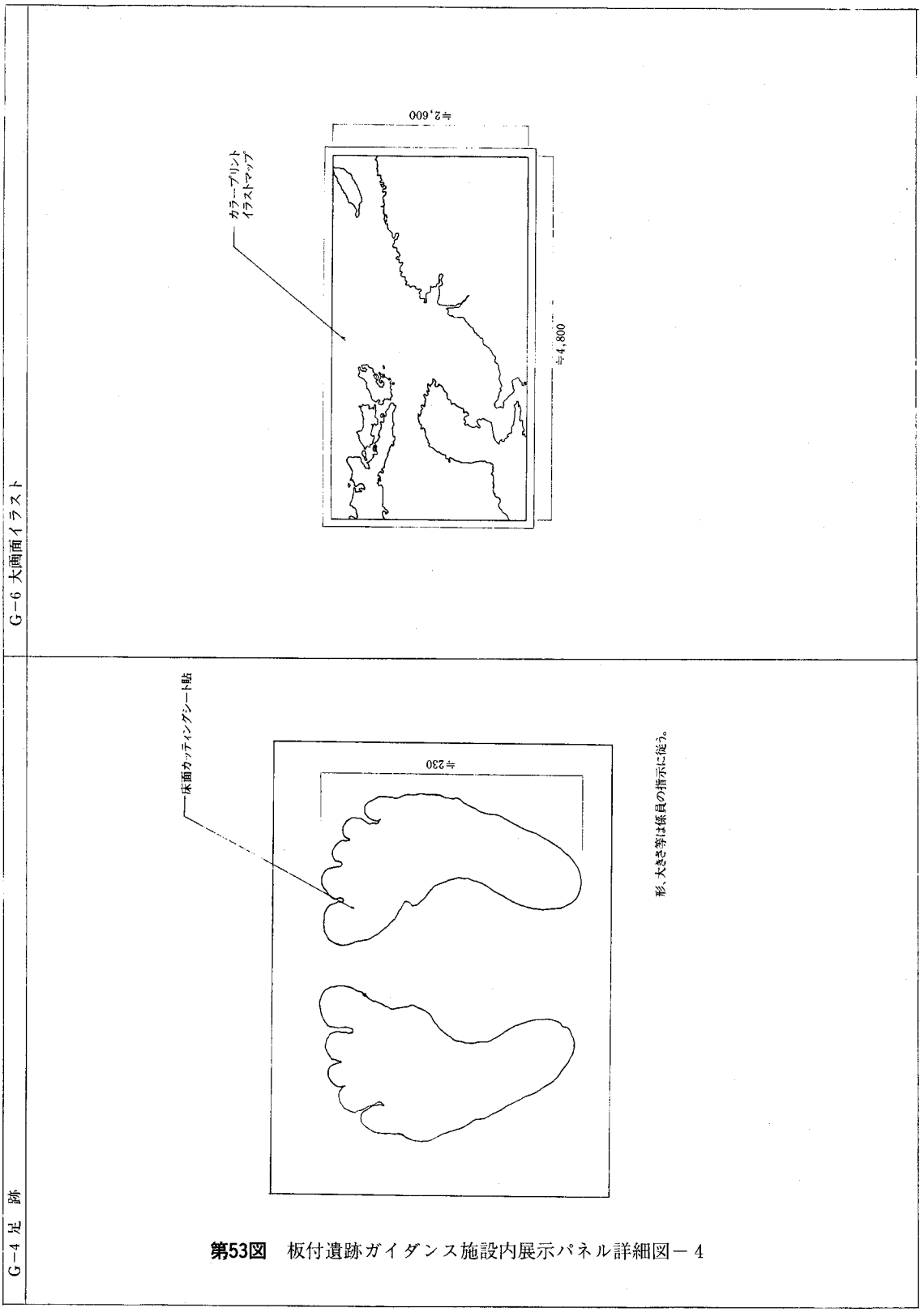

**第50図**　板付遺跡ガイダンス施設内展示パネル詳細図－1



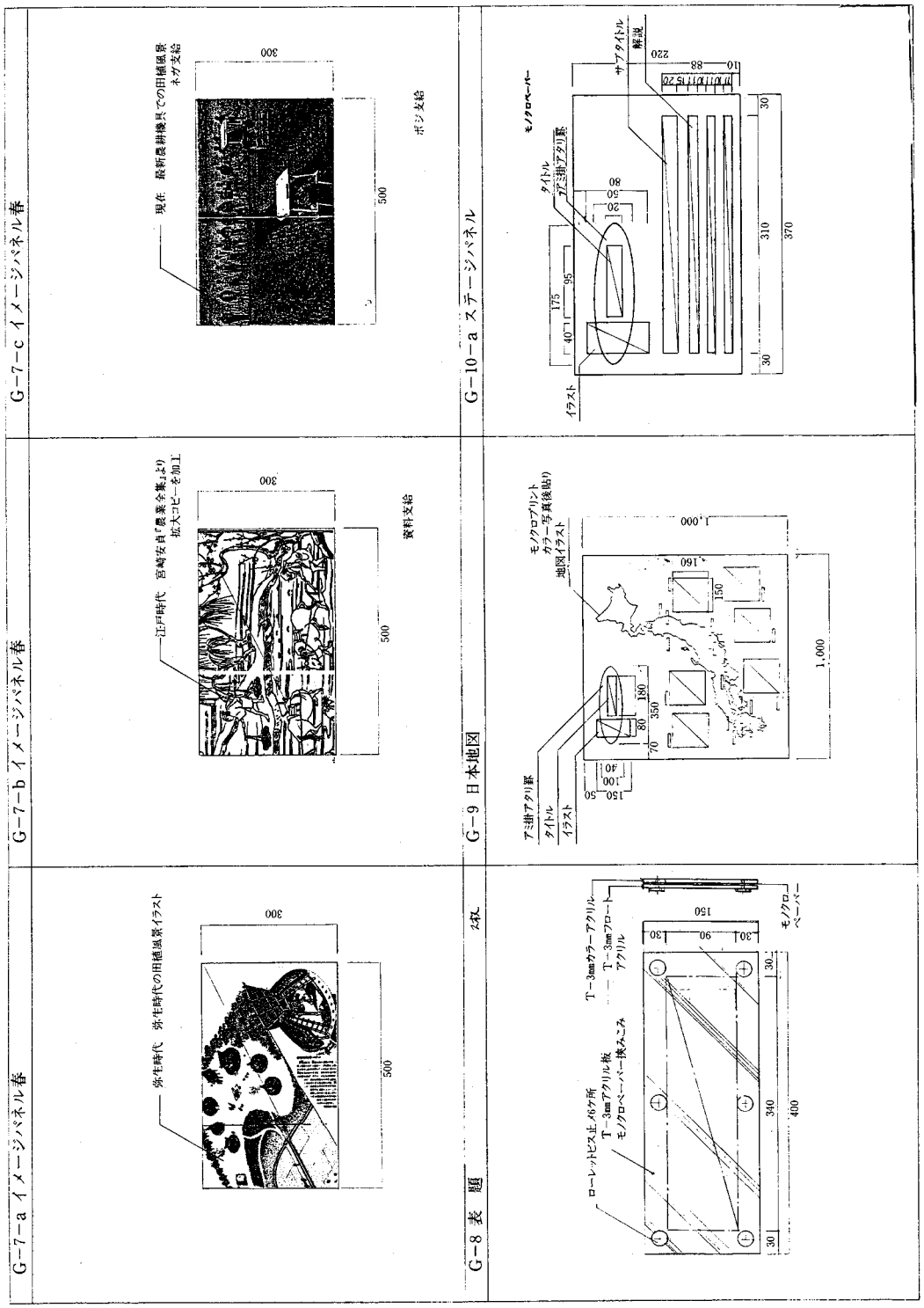

**第51図**　板付遺跡ガイダンス施設内展示パネル詳細図－２




**第52図**　板付遺跡ガイダンス施設内展示パネル詳細図－3




**第53図**　板付遺跡ガイダンス施設内展示パネル詳細図－4



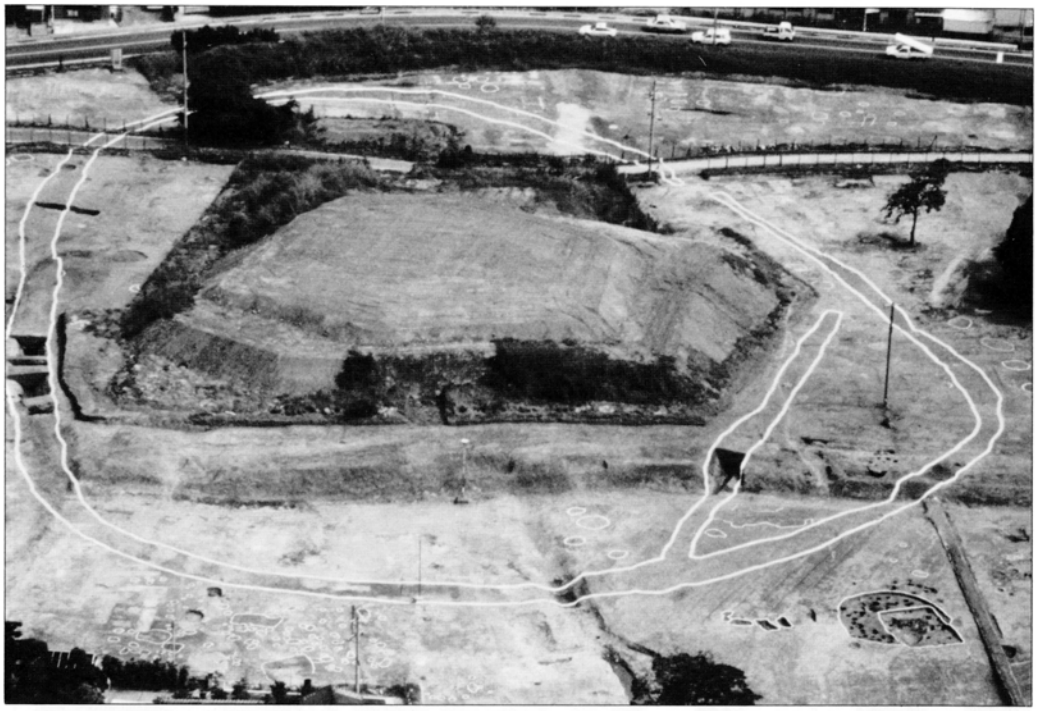

**第54図**　板付遺跡ガイダンス施設内展示パネル詳細図－5

# 図　　版

1　遺跡全景空中写真（西から、昭和50年頃）

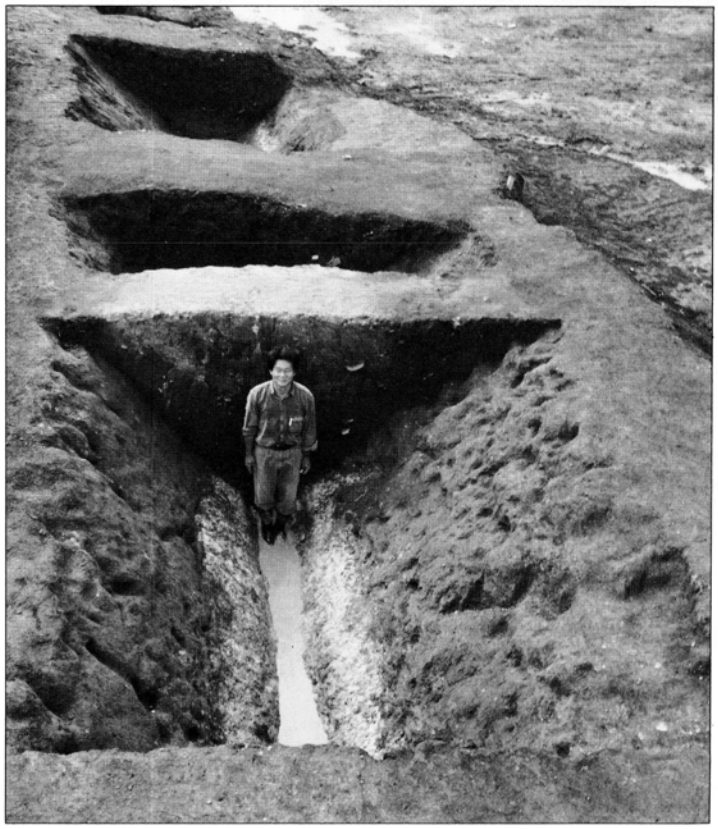
2　遺跡全景空中写真（南から、平成元年確認調査）

1　内環濠確認調査（西から、平成元年確認調査）

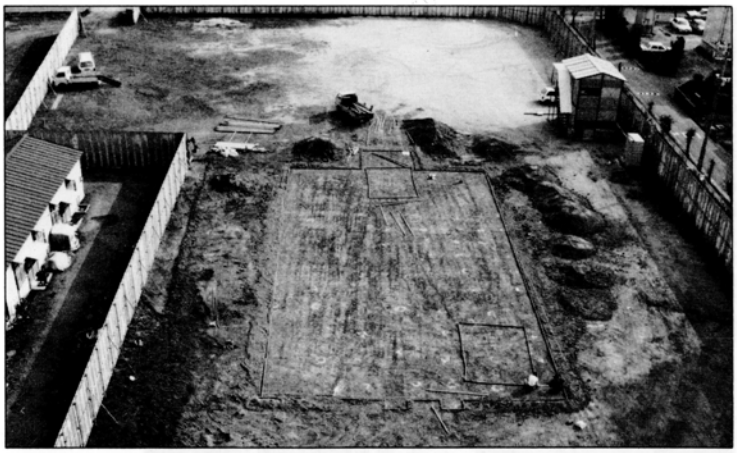


2　内環濠確認調査近景（北から、平成元年確認調査）

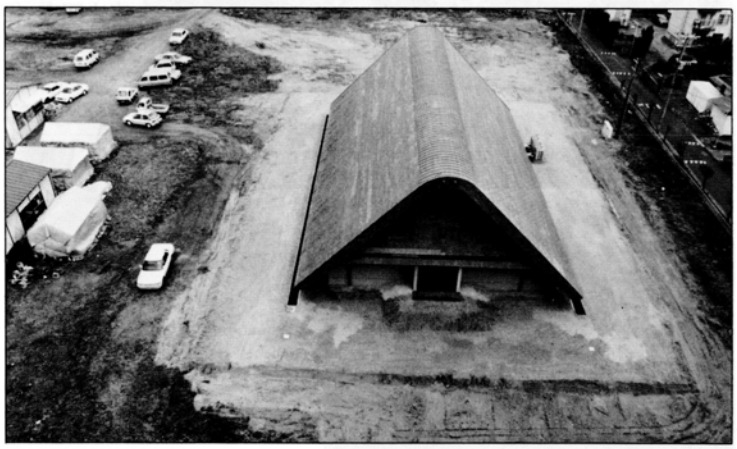
1　遺跡全景空中写真（西から、平成元年確認調査）



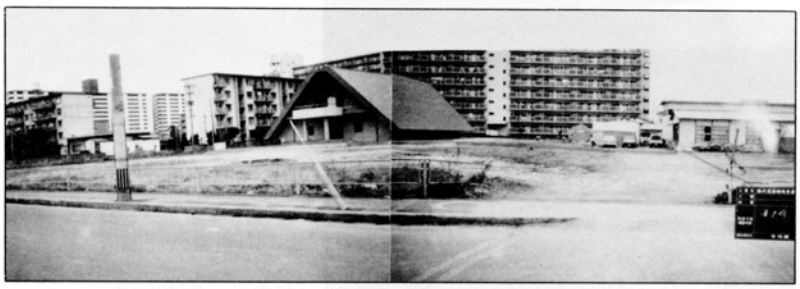
2　内環濠確認調査（北から、昭和63年確認調査）



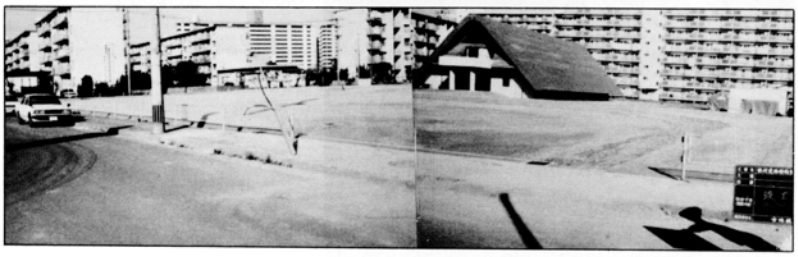
1　ガイダンス施設
建設場所（北から）



2　ガイダンス施設
完成（北から）

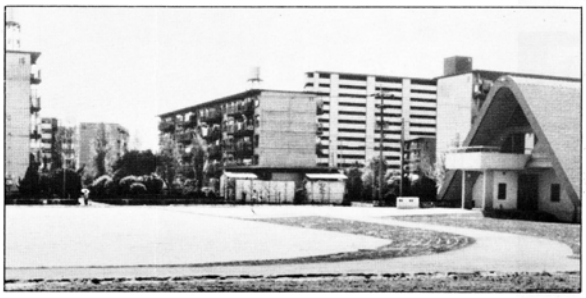


3
環境整備園路広場工
植栽・張芝工事等前
（南から、
平成２年度）

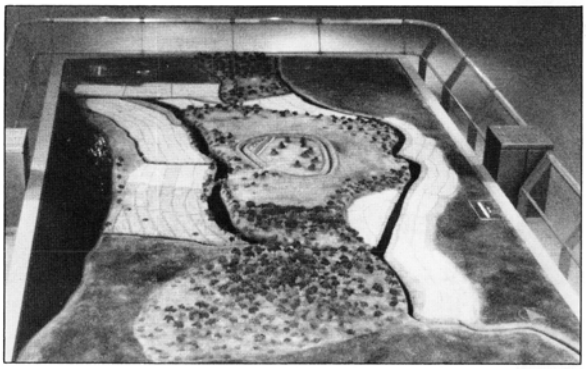


4
環境整備園路広場工
植栽・張芝工事等
完成（南から、
平成２年度）

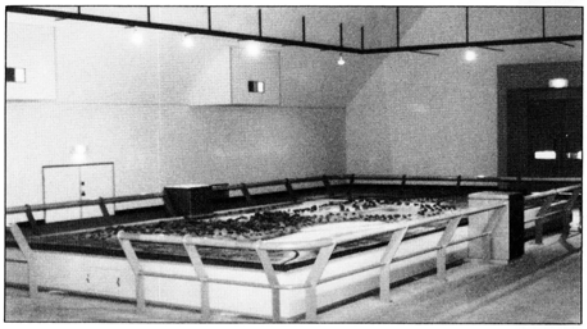
1　ガイダンス施設(南から)



2　環境整備園路広場工
植栽・張芝工事等完成
(東から、平成２年度)



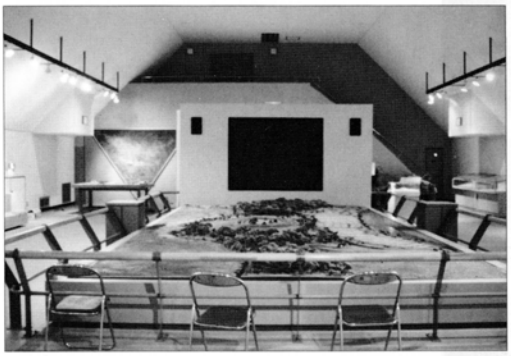
3　ガイダンス施設内
大型模型完成写真



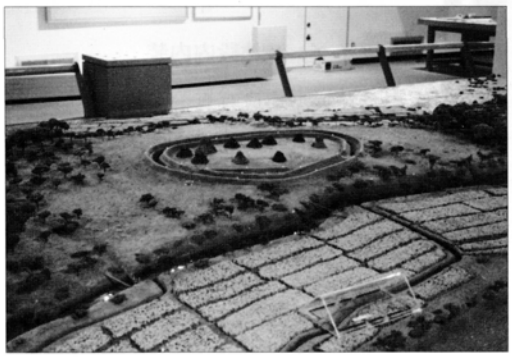
4　ガイダンス施設内内装
工事及び模型完成写真

環境整備事業完成写真
ガイダンス施設
園路広場

環境整備事業完成写真
水田、外濠復原



ガイダンス施設内部
大型映像スクリーン
模型
弦状濠土層断面



ガイダンス施設
大形模型近景

福 岡 市 博 多 区

# 国 史 跡

# 板 付 遺 跡

## 環境整備報告書

福岡市埋蔵文化財調査報告書第314集
発行　福 岡 市 教 育 委 員 会
平成４年３月13日
福岡市中央区天神１丁目８番１号
印刷　福岡印刷株式会社